リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅠ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

大学生である意識を持ち、社会人に必要な心構えと将来の道を明確にするための基礎であることを自覚して取り組むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

積極的に参加し、多くの知識や見解を学ぶこと。

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,P-1,O-1,S-3,R-1

(方法)

本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生や医療人に必要とされる資質を身につける。
・大学生活に必要な知識を身につける。
・目標を達成させるための手段を身につける。

【行動目標(SBO)】

・大学生として必要な行動ができるようになる
・集団活動の中で協調に活動ができる。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて、資料を配布

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
出席点は評価に含みません。
試験は行わず、レポート、成果発表にて評価を行います。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10	10				20
	発表力			10	20				30
	学修に取り組む姿勢			20	20				40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義 星野浩通	配布資料確認	15分
2	オリエンテーション（新入生宿泊研修について）	講義 学生支援企画委員会（栗原）	配布資料（研修のしおり）	15分
3	学生生活について SNS　IT関連	講義 学生支援委員会 星野	配布資料	15分
4	学生生活について 感染症	講義 学生支援委員会 星野	配布資料	15分
5	新入生宿泊研修 グループ活動	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
6	新入生宿泊研修 うどんつくり	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
7	新入生宿泊研修 グループディスカッション①	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
8	新入生宿泊研修 グループディスカッション②	演習 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分

9	新入生宿泊研修 グループディスカッション③	講義 学生支援企画委員会	グループでの演習で積極的に議論する	45分
10	学生生活について （アルコール・薬物・タバコについて）	講義 学生支援企画委員会 星野	配布資料	15分
11	学生生活について （交通安全指導）	講義 村上警察 新潟県警	配布資料	15分
12	自己啓発 （マイナビ）	講義 マイナビ	配布資料	15分
13	自己啓発 （マイナビ）	講義 マイナビ	配布資料	15分
14	図書館利用方法・文献検索	講義 図書委員会	配布資料	15分
15	図書館利用方法・文献検索	講義 図書委員会	配布資料	15分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅡ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	matsubayahi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎ゼミⅠを履修していることが条件。
・地域を理解し、イベントに関するルールを遵守すること。秩序を乱し、イベントやボランティア活動に参加しない場合は、履修を認めない場合があるため注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・オリエンテーションで説明する。
・提出したレポートはゼミ教員が保管し、今後のゼミ活動に使用します。（閲覧はゼミ教員と通じて可能です）

【講義概要】

(目的)

大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2

(方法)

少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をレポートとしてまとめる。

【一般教育目標(GIO)】

・今後の地域課題を理解する。
・地域でのイベントやボランティアを通して、社会人・職業人としての心構えを理解することができる。

【行動目標(SBO)】

・地域課題に対して、自ら考えることができるようにする。
・社会人・職業人として必要な行動を実践・習慣化できるようにする。

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・出席点は評価に含みません。
・成績評価は、レポートにより評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			20					20
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション グループ分け	講義・演習：松林	地域のイベント・ボランティアを理解し、どこに参加するかを検討しておくこと。	15分
２～１３	イベント・ボランティア参加	演習・実践	イベント・ボランティアの内容を理解し、積極的に参加するための心構えを考えること。	60分
１４・１５	参加報告（ゼミ単位）	演習	発表にむけた準備を行うこと。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅢ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0015-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は基礎ゼミⅢ・Ⅳのセット履修となっています。
・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。(これが出席簿の代わりとなります。)
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。
その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。本セミナーを通して、 いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」、「調査・研究の基礎」 を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3

(方法)

本セミナーでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。指導教員グループごとに学生自らがテーマを設定し、その調査・研究活動を通して、多様な他者とともに協同・協力し講義を行う。設定するテーマはリハビリテーション医療に関わるものとします。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。

【教科書・リザーブドブック】

・必要に応じ資料を配布する。

【参考書】

・必要に応じ資料を配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・グループ発表得点、最終レポート
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		30	10	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				15		20		35
	発表力				15				15
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について(e-learningの方法)	講義・浅海	・各自行いたい研究テーマを3つ考えておく。 ・研究倫理について復習する。	15分 15分
2	ゼミ活動-1	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
3	ゼミ活動-2	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
4	ゼミ活動-3	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
5	ゼミ活動-4	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
6	ゼミ活動-5	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
7	ゼミ活動-6	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	
8	ゼミ活動-7(45分) ・ゼミ内での中間発表(試験に替える。)	担当教員・グループ学修	担当教員の指示に従ってください。	

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎ゼミⅣ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	教養分野(導入教育)	【授業コード】	1-00-0015-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修は基礎ゼミⅢを受講していることが前提です。
・この科目は選択科目ですが、これからの学生生活の上で重要となってくる能力を身に付ける科目ですので、できるだけ受講してください。
・指定された担当教員と連絡を取り実施日程を調整すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・担当教員別グループ活動の出席は、「学修研修手帳」に検印してもらうこと。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。
その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。本セミナーを通して、 いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」、「調査・研究の基礎」 を身につけることを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-3

(方法)

本セミナーでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。指導教員グループごとに学生自らがテーマを設定し、その調査・研究活動を通して、多様な他者とともに協同・協力し講義を行う。設定するテーマはリハビリテーション医療に関わるものとします。

【一般教育目標(GIO)】

・他者とのコミュニケーションの取り方・協力の重要性について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・他者との円滑なコミュニケーションや協力関係が樹立できる。
・調査・研究の基礎的知識を得る。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
・担当教員による個別評価
・グループ発表得点、最終レポート
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		30	10	100
評価指標	取り込む力・知識			15					15
	思考・推論・創造の力			15					15
	コラボレーションとリーダーシップ				15		20		35
	発表力				15				15
	学修に取り組む姿勢						10	10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ゼミ活動-8	講義・浅海	担当教員の指示に従ってください	
2	ゼミ活動-1	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
3	ゼミ活動-2	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
4	ゼミ活動-3	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
5	ゼミ活動-4	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
6	ゼミ活動-5	担当教員	担当教員の指示に従ってください。	
7	発表会-1	浅海・担当教員	・発表の準備 ・まとめレポートの作成	
8	発表会-2	浅海・担当教員	・発表の準備 ・まとめレポートの作成	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床倫理学			【担当教員】	村井　絹子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0020-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	murai@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 月曜・木曜　8：30〜17：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は、臨床で求められる「医の倫理」感を身に着ける基礎となる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特記なし

【講義概要】

(目的)

医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事がある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。またリハビリテーション学科学生の選択科目ということもあり、生命倫理学を中心に、現代医療をめぐる諸問題を題材に多角的に捉え考えて、視野を広げる機会とする。

(方法)

教科書を中心に講義・GWを行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・医療従事者としての倫理感を身に付ける。
　将来、医療に関わる専門職として、なぜ今、医療において倫理が問われるのか、患者の人権や自立の尊重がなぜ大切なのかについて考える基礎的知識の基盤作りを行う。一人ひとり異なる価値観を有する他者の気持ちをより理解し、医療に携わる専門職として、医療を提供できる柔軟な思考と態度を養うことを教育目標とする。

【行動目標(SBO)】

・今後の医療従事者として倫理ある行動をとる。
・倫理について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

伏木信次〔他〕編、「生命倫理と医療倫理」　金芳堂 改3 版 ￥2,600

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA 制度に従う。
100 点満点で60 点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70			30				100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	医療の歴史と倫理問題の提起	講義		90
3.4	医療者と患者の関係 ﾊﾟﾀｰﾅﾘｽﾞﾑとｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞ・ｺﾝｾﾝﾄ	講義	教科書P.20～P.30	90
5.6	医療倫理と原則 研究と倫理、個人情報の保護と倫理を含む	講義	教科書P.168～ P.194	90
7.8	生命誕生のあらまし 出生前診断、胚選別、妊娠中絶 生殖補助医療と親子関係 子どもの知る権利	講義	教科書P.44 ～P.61 教科書P.63～P.70	90
9.10	臓器移植と脳死、 人工臓器と治療中止 リハビリをいつまで続けるのか	講義	教科書P.96～P.107	90
11.12	終末期医療、安楽死と尊厳死	講義	教科書P.82～P.94 教科書P.108～P114.	90
13.14	救急医療、災害医療と倫理 通信手段の進歩に伴っておこる新しい問題	講義	教科書P.116～P.124	90
15.16	GW/発表 【倫理とは何か】	講義		90

試験				

リハビリテーション学科

【科目名】	地域文化論			【担当教員】	桑原　猛
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0025-02	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwabara@kbe.biglobe.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特に無し

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。

(方法)

本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

身近な社会的事象についての意味を考え、判断する力を身に付ける。

【行動目標(SBO)】

毎回、受講記録としてのレポートを作成させ、身近な関連事象を探らせたり、知識を深めたりする。

【教科書・リザーブドブック】

毎回印刷配布する。

【参考書】

村上地区まちづくり協議会編「城下町探検ガイド」Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

毎時間、講義内容に関するレポートを提出させる。
最終日に課題を提示し、1週間後にレポートを提出させ、内容を評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	講義概要のガイダンス 村上城下の近世から現代までの変遷 城下町の形成と歴史及び風土から、村上の特性と文化の背景を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） 村上市内を歩き城下町の構成を探索する。	
3-4	町谷の構造と伝統行事との関係 伝統行事と町家構造について、他地域の事例との比較から、村上・岩船・瀬波と町家の構造を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） 村上・岩船・瀬波の町やを訪ねて、事例を探索する。	
5-6	重要無形民俗文化財としての村上の祭り-Ⅰ しゃぎり屋台 全国の山・鉾・屋台の事例（歴史・構造・分類）から、村上・岩船・瀬波のしゃぎり屋台の特性を探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） おしゃぎり会館にて実際に屋台を見学して構造を探索する。 ※この場合学生は入場無料とする。	
7-8	重要無形民俗文化財としての村上の祭り-Ⅱ 祭礼行事と屋台巡行 神社の本祭（神事）と付け祭りとしての屋台巡行における村上大祭の特異性を探る。	提供資料及びDVD視聴及びパワーポイントスライドによる講義		
9-10	伝統行事が抱える課題と今後の展望 全国的にも、少子高齢化によって伝統行事等の存続、継承が危機に瀕している。これにどう対応していくかを探る。	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義		
11-12	村上の鮭文化を探る-Ⅰ 鮭の生態と漁獲 回帰性、産卵とふ化、今の捕り方 回帰率を高める取組	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（復習） イヨボヤ会館を見学して村上と鮭との関係を探索する。 ※この場合学生は入館無料とする。	
13-14	村上の鮭文化を探る-Ⅱ 村上藩の政策と漁民 青砥武平治と天然産卵の保護 士族授産と人口ふ化事業	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義	（予習課題） 村上の鮭料理について２種類以上調べてくる。	
15	村上の鮭文化を探る-Ⅲ 村上の伝統的な鮭料理 まとめレポートの課題提示	提供資料及びパワーポイントスライドによる講義 調査結果の発表	調べた鮭料理を発表する。	

リハビリテーション学科

【科目名】	日本語表現法			【担当教員】	上松　恵理子
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	uematsu@star.rcast.u-tokyo.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤講師室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

正しい日本語を話したい、書きたいと思っている人なら誰でも習得可能

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では毎回の積み重ねで授業を行いますのでなるべく遅刻・欠席をしないようにしてください。

【講義概要】

(目的)

正しい日本語の使い方やその背景等を学習するとともに、情報社会にめられる言語のリテラシー能力を理解する。この授業を受講することで、様々な医学療法における報告レポートや論文等を書いたり、授業のノートテイクしたりするために必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を理解できるようになる。

(方法)

基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文、インターネットの上のニュース記事、プログラミング言語等を題材にして、より正しい日本語を学習する。

【一般教育目標(GIO)】

・大学生として必要な言語スキルを身につけるために様々な日本語の表現を理解する
・講義を理解するために必要なノートテイクができるようになる
・医学療法の実験などのレポートや論文を書く際の方法について理解する

【行動目標(SBO)】

・日本語の使い方を理解することができる
・様々な場面に応じた言語を使いこなすことができる
・様々な文章を目的に応じて書いたり話たりすることができる

【教科書・リザーブドブック】

上松恵理子「小学校にプログラミングがやってきた！超入門編」三省堂、2016年、1200円（税別）

【参考書】

講義内で適宜資料を配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う、
出席、授業態度、レポート、試験を総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	30		20					50
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	国語表現の課題について メモとノートテイク	講義と実践	講義内で適宜指示	40
2	大学の授業におけるレポートの基本 社会に適応したメールの書き方	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
3	課題設定と文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	40
4	課題設定とグループディスカッション	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
5	文章を書くための資料の収集方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
6	図書館での資料収集 インターネット検索について	講義と実践	講義内で適宜指示 授業外の学習も適宜指示	40
7	小論文を書くための資料の調べ方と調査の方法	講義と実践	講義内で適宜指示	40
8	小論文を書くためのアンケートの取り方	講義と実践	講義内で適宜指示	40

9	レポートの書き方１ 研究計画の立て方	講義と実践	講義内で適宜指示	
10	レポートの書き方２ 表現の方法と引用	講義と実践	講義内で適宜指示	
11	レポートの書き方３ 論理的な文章の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
12	まとめと校正 発表準備	講義と実践	講義内で適宜指示	
13	発表	講義と実践	講義内で適宜指示	
14	発表と感想文の書き方	講義と実践	講義内で適宜指示	
15	論文提出の方法とまとめ	講義と実践	講義内で適宜指示	

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0035-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。
心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。
リハビリテーション心理学専攻の学生にとっては必修、認定心理士または公認心理師の資格を取得するための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学の成り立ち（心理学の歴史）と、②人の心の基本的な仕組み及び働きについて学んでいきます。
心理学における代表的分野について、歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。
医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, S-3, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。
内容は、原則、指定教科書に準じます。

【一般教育目標(GIO)】

心理学・臨床心理学の成り立ちについて概説できる。
人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。

【行動目標(SBO)】

科学としての心理学の成立までの経緯とその後の展開を概説できる。
対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを説明できる。
各領域における心の“問題”や“障害”を知る。
それぞれの問題や障害に対する対処法を説明でき、実践することができる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版, 医歯薬出版, 2016/9/2,　2,900円＋税

【参考書】

繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房, 2018/4/3, 2,592円
フレデリックセン他(著)　内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学　第16版」 金剛出版,　2015/9/25, 23,760円
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社, 1992年, 1942円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	心理学の歴史① ・近代心理学の成立について学ぶ	講義	指定教科書p.204-207 ・構成主義 ・ゲシュタルト心理学、精神分析学、行動主義、新行動主義 ・認知心理学、認知神経科学	10
2	心理学の歴史② ・臨床心理学の成立について学ぶ	講義	・生物心理社会モデル ・精神力動/認知行動/人間性アプローチ　・ナラティブアプローチ、社会構成主義	10
3	「知覚」 ・知覚成立の基礎 ・物理的環境と心理的環境	講義	指定教科書p.2-5 ・知覚はどのように成り立っているのかを知る	10
4	「知覚」 ・知覚の体制化 ・図と地	講義 一部演習	指定教科書p.5-9 ・知覚成立の特徴を知る	10
5	「知覚」 ・時間・空間・運動の知覚	講義	指定教科書p.10-12 ・自己や環境を知覚する際の多感覚相互作用を理解する	10
6	「知覚」 ・知覚の諸相	講義 一部演習	指定教科書p.12-14 ・注意や欲求が知覚に及ぼす影響を理解する	10
7	「学習」 ・古典的条件づけ/オペラント条件づけ	講義	指定教科書p.15-19 ・学習の定義を説明できる ・学習成立の主なメカニズムを学ぶ	10
8	「学習」 ・観察学習	講義	指定教科書p.19-20 ・社会的行動における観察学習の重要性を理解する	10

9	「記憶」 ・記憶のメカニズム	講義	指定教科書p.20-23 ・記憶のモデル構造やその過程を理解する ・記憶の測定法を学ぶ	10
10	「記憶」 ・忘却/記憶の歪み/病理	講義 一部演習	指定教科書p.24-26 ・日常場面における記憶現象を知る ・忘却の要因を学ぶ ・記憶の歪みや病理を理解できる	10
11	「動機づけ」 ・動機づけの分類と機能	講義	指定教科書p.27-34 ・動機づけの分類とメカニズムを学ぶ ・動機づけの適応的機能が理解できる	10
12	「欲求」 ・自己効力/学習性無気力 ・演習　セルフエフィカシーの測定	講義 一部演習	指定教科書p34-38 ・やる気の生起または消失の要因を知る ・セルフエフィカシーを説明できる	10
13	「感情」 ・感情の分類 ・感情発生のメカニズムと機能	講義	指定教科書p.39-45 ・感情発生の機序を知る ・感情の種類を知る ・感情の適応的機能を理解する	10
14	「感情」 ・フラストレーションとその耐性 ・ストレス	講義 一部演習	指定教科書p.45-52 ・欲求とコンフリクト場面の関係を説明できる。 ・ストレスとその対処法を理解できる	10
15	まとめ	講義	人の心の基本的な仕組みとその働きを説明できる	10

リハビリテーション学科

【科目名】	心理学概論Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0035-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金9:00-17:30(講義時間帯以外)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害及び摂食嚥下機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、人の心や行動の基本的な仕組みとはたらき及び心のケアについて講じていきます。
心理学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。特に、将来医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。
本科目は、リハ心理学専攻の学生にとっては必修であり、認定心理士または公認心理師の資格取得のための指定科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①心理学の成り立ち(歴史)と、②人の心の基本的な仕組み及び働きを学びます。
心理学における代表的分野について、それぞれの歴史的経緯と基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深めていきます。
医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができるよう、臨床応用にも触れていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-1, O-1, S-3, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
毎回、講義資料は配布します。
随時、関連する心理テスト等を演習形式で実施していきます。
内容は、原則指定教科書と参考書に準じます。

【一般教育目標(GIO)】

対象者の“こころ”を推察するために、どのような観点で他者の言動を観察すればよいのかを学ぶ。
他者と適切な対応ができ、必要がある場合には適切な心の支援ができる。

【行動目標(SBO)】

各領域の目的（学習到達目標）を説明できる。
各領域における“問題”や“障害”を知る。
それぞれの問題や障害に対する対処法を自身で考え、実践することができる。

【教科書・リザーブドブック】

二宮克美編著「ベーシック心理学」第2版，医歯薬出版，2016年，　2,900円＋税

【参考書】

繁枡算男（編集）「心理学概論（公認心理師の基礎と実践　第２巻）」遠見書房，2018/4/3，2,592円
フレデリックセン他(著)　内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学」 金剛出版，　2012/5/31，23,100円
梅本堯夫/大山正編著「心理学への招待 ～ こころの科学を知る ～ 」サイエンス社，1992年，1942円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	「精神的健康」 メンタルヘルス/ストレス	講義	指定教科書p.48-52 ・心が健康とは何かを説明できる ・ストレスとは何かを説明できる	10
2	「精神的健康」 演習　　ストレス度の測定 医療・福祉における「コミュニケーション」 “優しい目、大きな耳、小さい口、広いこころ“	講義 一部演習	指定教科書p.150-153 ・心の健康が損なわれるとどのような状態となるのかを知る ・心の健康を測定できる	10
3	「パーソナリティ」 パーソナリティの記述	講義	指定教科書p.54-59 ・パーソナリティの特徴とその記述法を知る ・パーソナリティの主な分類法を学ぶ	10
4	「パーソナリティ」 パーソナリティの測定法	講義	指定教科書p.60-63 ・パーソナリティの測定はどのように調べられるのかを学ぶ	10
5	「パーソナリティ」 障害：境界性パーソナリティとは？	講義	指定教科書p.63-65 ・パーソナリティの障害を説明できる	10
6	「パーソナリティ」 演習：Y-G性格検査	演習	指定教科書p.60-61 ・パーソナリティを適切に測定できる	10
7	「知能」 知能の定義	講義	指定教科書p.68-71 ・知能の定義を説明できる ・知能の構造を知る	10
8	「知能」 知能の測定/知的障害	講義 一部演習	指定教科書p.71-79 ・知能をどのように測定するのかを学ぶ ・知能検査開発の歴史的経緯を知る	10

9	「思考」 思考とは？/問題解決	講義	指定教科書p.82-86 ・「考えるとは？」を説明できる ・思考と言語の関係を理解できる ・問題を解決する方略（思考）を知る	10
10	「思考」 創造性	講義 一部演習	指定教科書p.86-92 ・推論とその誤りを知る ・新たなものを創り出すプロセスを学ぶ	10
11	「人間関係」 対人認知/帰属理論	講義	指定教科書p.126-131 ・他者の印象形成につて学ぶ ・自身や他者の言動の原因のとらえ方について知る	10
12	「人間関係」 対人魅力	講義	指定教科書p.131-134 ・人を好きになる、あるいは嫌いになる要因は何かを学ぶ	10
13	「集団」 集団の心理/社会的影響	講義	指定教科書p.136-143 ・集団の特徴と分類を学ぶ ・他者の存在が個人に及ぼす影響を説明できる	10
14	「集団」 態度	講義	指定教科書p.143-148 ・態度の適応的機能を知る ・態度の変容を促す手法を学ぶ ・社会と個人の相互関係について理解する	10
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅰ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0040-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。
＊1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動の原理を理解する。

【一般教育目標(GIO)】

人間の行動を科学的に理解することを通して、医療者としての態度を高める。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマに対して主体的に問題意識をもつことができる。
各講義で説明したトピックについて説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション-1 行動科学とはどのような学問領域か？	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●行動科学と医療：目的・課題・方法 行動科学を医療と結びつけることの意義	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●動機 人間の行動は何に支えられているのか	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●自己と他者の理解・役割 相手を理解するとは何か？医療のなかで相手を理解することについて	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●心の発達と課題 人間の成長に必要なさまざまな条件について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●パーソナリティ 人柄はどのようにして生まれるのか？	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●医療者としての適性 対人援助を役割とするために必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「医療行動科学Ⅰ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	医療行動科学Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(人文科学)	【授業コード】	1-01-0040-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

＊1年生にとって入学後、日の浅い時期の講義です。
　大学の講義は自分自身の手で情報(学び)をつかむ場所であることを知ってください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動の原理を理解する。

【一般教育目標(GIO)】

人間の行動を科学的に理解することを通して、医療者としての態度を高める。

【行動目標(SBO)】

各講義のテーマに対して主体的に問題意識をもつことができる。
各講義で説明したトピックについて説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
期末試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●医療者のストレス 援助者自身の健康管理について	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●医療場面での性別役割化 対人援助にみられやい性別役割について	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●心理学的アプローチによる医療事故防止 人間は誤りをおこす存在であることを知る	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●医療者の教育 対人援助の職業人育成に必要なこと	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●医療場面における研究と倫理的配慮 研究を進める上で必要な約束事について	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●社会と家族の変容 その時代の影響を受ける集団について	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●患者とのコミュニケーション 訴えを正確に引き出し円滑な関係を築くために	講義	講義ノートの完成	90
15	「医療行動科学Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「医療行動科学Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅰ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0055-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐々木) sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月木　12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療者として、健康に対する意識を高める科目です

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。
講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。
学外での活動も含まれます。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、S-1,2、R-1,2

【講義概要】

(目的)

人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、
その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響を
もたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。

(方法)

社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。

【教科書・リザーブドブック】

資料を必要に応じて配布

【参考書】

資料を必要に応じて配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50		50			100
評価指標	取り込む力・知識			5		20			25
	思考・推論・創造の力			20		5			25
	コラボレーションとリーダーシップ			5		5			10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20		20			40

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 現代社会が抱える健康問題、日常生活での活動量（１）	講義 佐々木・木村	現代の健康問題を知る 日常生活の活動量を理解できる	30分
2	現代社会が抱える健康問題、日常生活での活動量（２）	講義 佐々木・木村	現代の健康問題を知る 日常生活の活動量を理解できる	30分
3	生活習慣と糖尿病、高齢者向けの体力測定法（１）	講義 佐々木・木村	生活習慣病、糖尿病について理解できる 高齢者向けの体力測定について理解できる	30分
4	生活習慣と糖尿病、高齢者向けの体力測定法（２）	講義 佐々木・木村	生活習慣病、糖尿病について理解できる 高齢者向けの体力測定について理解できる	30分
5	高齢者向け体力測定（１）	演習 佐々木・木村	高齢者向けの体力測定を実施できる	30分
6	高齢者向け体力測定（２）	演習 佐々木・木村	高齢者向けの体力測定を実施できる	30分
7	体力測定の結果から考える運動療法（１）	演習 佐々木・木村	体力測定の結果から、必要な運動を考えられる	30分
8	体力測定の結果から考える運動療法（２）	演習 佐々木・木村	体力測定の結果から、必要な運動を考えられる	30分

9	介護予防事業における摂食嚥下障害・高次脳機能障害（１）	講義・演習 佐藤・高橋	健康寿命延伸における認知機能・食べる力の大切さを説明できる。	30分
１０	介護予防事業における摂食嚥下障害・高次脳機能障害（２）	講義・演習 佐藤・高橋	健康寿命延伸における認知機能・食べる力の大切さを説明できる。	30分
１１	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１２	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１３	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１４	第15回新潟福祉機器展への参加してのレポート作成	参加 佐藤・高橋	福祉機器とQOLとの関係について述べることができる （レポート提出）	30分
１５	まとめ	座学		30分

リハビリテーション学科

【科目名】	社会と健康Ⅱ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	佐々木) sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月木　12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療者として、健康に対する意識を高める科目です
社会と健康Ⅰを受講していること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートを課す場合には、ほかに支障のない限り返却します。
講義の中で、実際に身体を動かしてもらう場面があるため、適宜服装を指示します。
学外での活動も含まれます。
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針等との関連性：P-1,2、O-1,2、S-1,2、R-1,2

【講義概要】

(目的)

人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、
その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要素が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響を
もたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。

(方法)

社会の仕組みと健康や病気との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・社会が健康や病気とどう関係するのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康科学と社会学系諸分野との関連について明確なイメージを所有する。

【教科書・リザーブドブック】

資料を必要に応じて配布

【参考書】

資料を必要に応じて配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ストレスとは？（1）	講義 阿久津・大矢	ストレッサー，ストレス反応，認知的評価，コーピングを理解できる	30分
2	ストレスとは？（2）	講義 阿久津・大矢	ストレッサー，ストレス反応，認知的評価，コーピングを理解できる	30分
3	ストレスマネジメント（1）　リラクゼーション法	講義・演習 阿久津・大矢	生リラクセーション法を実施できる	30分
4	ストレスマネジメント（1）　リラクゼーション法	講義・演習 阿久津・大矢	リラクセーション法を実施できる	30分
5	ストレスマネジメント（2）　アンガーマネジメント	講義・演習 阿久津・大矢	アンガーマネジメントを実施できる	30分
6	ストレスマネジメント（2）　アンガーマネジメント	講義・演習 阿久津・大矢	アンガーマネジメントを実施できる	30分
7	ストレスマネジメント（3）　認知的再構成法	講義・演習 阿久津・大矢	認知的再構成法を実施できる	30分
8	ストレスマネジメント（3）　認知的再構成法	講義・演習 阿久津・大矢	認知的再構成法を実施できる	30分

9	認知症予防の施策（1）	講義 長谷川・藤本	認知症予防の施策について調べる	90分
１０	認知症予防の施策（2）	講義 長谷川・藤本	認知症予防の施策について理解する	90分
１１	認知症養成サポーター（1）	講義 長谷川・藤本	認知症サポーター養成講座について調べる	90分
１２	認知症養成サポーター（2）	講義 長谷川・藤本	認知症サポーター養成講座の意義を理解する	90分
１３	介護予防の事例①	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分
１４	介護予防の事例②	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分
１５	介護予防の事例③	講義 長谷川・藤本	事例を通して介護予防を学ぶ	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅰ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@kadai.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活の中でも必要です。可能な限り受講するのが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具を必ず持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

科学が進歩することで、医療技術が発達し、それに伴い様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。

(方法)

授業は PowerPointのスライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

法学について説明出来る。
憲法について説明できる。
憲法の基本的な考え方に基づき患者の権利と自己決定権について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

野崎和義　「コ・メディカルのための医事法学概論」　ミネルヴァ書房　本体２５００円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	法学の価値・特質について学びます。法と生活・法と医療の関係について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	法の目的・裁判と法の適用について学びます。法の解釈、法の体系について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	憲法とは何か（憲法の定義・意義・内容・役割）について学びます。憲法の特質について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	法の支配と法治国家について学びます。立憲主義の展開と立憲主義の現代的意義について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	基本的人権の原理について（人権宣言の歴史と人権の観念・人権の内容と人権の主体）について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	基本的人権の限界である公共の福祉について学びます。私人間における人権の保障と医療パターナリズムについて学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	私人間における人権の保障と患者の権利について学びます。患者の権利（自己決定権）をテーマとした医療ドラマを鑑賞します。	講義・DVD鑑賞	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。ドラマを鑑賞して学んだことをノートにとっておくこと。	１５分 １５分
１５	人権を守るための手段としての統治について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	法律と医療Ⅱ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@kadai.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療従事者として必要とされる法律の基礎知識を修得する科目です。法律の知識は医療の場だけでなく日常生活の中でも必要です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具を必ず持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

科学が進歩することで、医療技術が発達し、それに伴い様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。

(方法)

授業は PowerPointのスライドを用いた説明を中心に行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な医療に関する法学の基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

民法について説明出来る。
民法と医療行為の関連性について説明できる。
刑法について説明出来る。
刑法と医療行為の関連性について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書は用いません。資料を配布します。

【参考書】

野崎和義　「コ・メディカルのための医事法学概論」　ミネルヴァ書房　本体２５００円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	民法総説について学びます。民法の役割・考え方について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
３・４	財産法の仕組みである人と物、人と人の関係（医療人と患者）について学びます。財産法の仕組みである物権法と債権法の概略・民法の全体図について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
５・６	財産法の主体について学びます。医療契約を理解するために契約の成立要件と有効要件について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
７・８	医療契約の基礎となる委任について学びます。医療契約・医療事故・医療過誤について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
９・１０	刑法の機能・犯罪の定義について学びます。犯罪の成立要件について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１１・１２	構成要件の該当性について学びます。医療行為と関連する違法性阻却事由と犯罪の成立要件としての責任について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１３・１４	修正された構成要件（未遂・共犯）と刑法総論の全体像について学びます。生命・身体に対する罪と関連する脳死・臓器移植・尊厳死・安楽死・ＤＮＲ・医療過誤について学びます。医療者の守秘義務について学びます。	講義	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 １５分
１５	ＤＮＲ（Ｄｏ ｎｏｔ ｒｅｓｕｓｃｉｔａｔｅ）は蘇生措置拒否のことをいいます。ここではＤＮＲがテーマの医療ドラマを鑑賞します。	講義・DVD鑑賞	授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅰ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布しますが、「講義ノート」を作成し多くの情報を記録するよう心がけること。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学の視点から理解する。
コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それを学問的に整理し医療者・支援者としての対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて文献を読み進めます。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●対人コミュニケーションの社会心理学 コミュニケーション研究の切り口	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●言語的コミュニケーション 主に言語による情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●非言語的コミュニケーション むしろ言語を用いない情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●自己開示 個人の情報をどのように伝達するか 開示と呈示の違い	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●自己呈示-1 個人の情報をどのように伝達するか 開示と呈示の違い	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●説得-1 相手を納得させる情報伝達	講義	講義ノートの完成	90
15	「コミュニケーション心理学Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「コミュニケーション心理学Ⅰ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ心理学Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	教養分野(社会科学)	【授業コード】	1-02-0080-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30（月曜日～木曜日）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。テストは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学の視点から理解する。
コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それを学問的に整理し医療者・支援者としての対人関係やその研究の切り口を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性; O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。また必要に応じて文献を読み進めます。

【一般教育目標(GIO)】

授業で学習したことをもとに、医療者・支援者の視点からの円滑なコミュニケーションのポイントを理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。
学びを日常のコミュニケーションで意識し、実践する。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●命令・強制 相手の意思を無視したコミュニケーション	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●他者を欺くコミュニケーション1 いわゆる悪徳商法など	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●他者を欺くコミュニケーション2 いわゆるマインドコントロールなど	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●他者と取り引きするコミュニケーション 要請のための技法	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●対人交渉 要請のための技法	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●集団・社会・文化とコミュニケーション-1 情報の伝達(うわさ・ゴシップ・流言)	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●集団・社会・文化とコミュニケーション-2 日本と海外における情報伝達の違い	講義	講義ノートの完成	90
15	「コミュニケーション心理学Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「コミュニケーション心理学Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ⅰ			【担当教員】	八木　稔
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー)授業終了後，質問・相談に応ずる。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

統計学と数学とは，互いに異なる学術分野であることを前提とします。
統計学は，実際的な問題解決を目指す実践的な学術分野です。そのため，問題解決のための方法論の一つと見なされます。統計学が「科学の文法である（カール・ピアソン）」といわれる所以です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

シラバスを参照して，授業の全体像を把握しておくこと。
簡単な電卓(通信機能・統計関数の機能がなく，平方根を求める機能が付いている)を用意することが望ましい。
なお，この電卓は，演習・試験において有用です。
試験結果・小テスト・レポートについては，他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

この講義では，統計学の始まりから現在までを概括し，統計に関する基礎的な知識，および統計における独特の用語や基本的な分析方法を学ぶと共に，それら分析方法の意味と実用に即したデータ処理に役立つことを目的としています。

当該科目と学位授与方針等との関連性；Ａ−２，３

(方法)

主として，教科書と配付資料を使用して講義を行います。
また，講義の内容の理解を深めるために，与えられた課題を自ら解く形式の演習・小テストを行います。
さらに，レポートの提出を求めます。

【一般教育目標(GIO)】

「記述統計と確率分布」に関するデータ処理のために，統計学の専門用語を理解し,基本的な統計計算ができるようになり,そのことによって定量的な考え方および評価方法を修得する。

【行動目標(SBO)】

記述統計学の基礎的な考え方を説明できる。
データの度数分布，代表値（平均値など），および散らばり（分散など）を算定できる。
一つの変数に限らず二つの変数間の相関係数を算定し，その意義について説明できる。
確率変数，正規分布および二項分布の実際的な適用の仕方について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

小寺平治：はじめての統計学１５講，講談社，2017年（第5刷），￥2,000（税別）

【参考書】

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学，南山等，2018年（第6版1刷），￥2,400（税別）
盛山和夫:統計学入門，ちくま学芸文庫，筑摩書房，2015年），￥1,404

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学即規定のGPA制度に従う。
成績評価は，期末試験，小テスト，およびレポートにより総合的に評価する。
出席状況は，評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	25	25					100
評価指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		5	5					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	授業の進め方：シラバスの内容についての説明 度数分布：記述疫学の概要と，簡明なデータの整理の仕方について学ぶ。	講義・演習	予習：度数分布表，ヒストグラムについて調べる。 教科書２-７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
３・４ 前期	代表値:平均値、中央値、最頻値について学ぶ。	講義・演習	予習：平均の性質，平均、中央値および最頻値の求め方について調べる。教科書８-１３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
５・６ 前期	分散：データのバラツキと、バラツキの指標である分散について学ぶ。	講義・演習	予習：散布度，分散，標準偏差，四分偏差の性質と求め方について調べる。教科書１４-１９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
７・８ 前期	相関係数：対応のある２つの変量の統計的な関係（例えば、身長と体重との関係）について学ぶ。	講義・演習	予習：散布図（相関図）、相関係数，共分散の性質と求め方について調べる。教科書２０-２７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
９・１０ 前期	確率変数：取る値が偶然によって決まり、決り方の確率が定まっている変量について学ぶ。	講義・演習	予習：確率変数，確率分布，および期待値について調べる。 教科書２８-３５頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１１・ １２ 前期	正規分布：期待値と分散で決ってしまう、統計学において重要な分布である正規分布について学ぶ。	講義・演習	予習：正規分布の型，正規曲線、および標準正規分布について調べる。 教科書３６-４３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１３・ １４ 前期	二項分布：試行をくり返した回数と、それによる事象が生起する確率に関する分布について学ぶ。	講義・演習	予習：二項分布の期待値と分散，ラプラスの定理，半数補正について調べる。教科書４４-４９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１５・ １６ 前期	母集団と標本：母集団と標本との関係、および標本抽出について学ぶ。 試験を行う。	講義・演習 試験	予習：標本調査，およびデータの抽出方法について調べる。 教科書５１-５９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０

リハビリテーション学科

【科目名】	統計学Ⅱ			【担当教員】	八木　稔
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー)授業終了後，質問・相談に応ずる。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

統計学と数学とは，互いに異なる学術分野であることを前提とします。
統計学は，実際的な問題解決を目指す実践的な学術分野です。そのため，問題解決のための方法論の一つと見なされます。統計学が「科学の文法である（カール・ピアソン）」といわれる所以です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

シラバスを参照して，授業の全体像を把握しておくこと。
簡単な電卓(通信機能・統計関数の機能がなく，平方根を求める機能が付いている)を用意することが望ましい。
なお，この電卓は，演習・試験において有用です。
試験結果・小テスト・レポートについては，他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

この講義では，統計に関する基礎的な知識，統計で用いられる独特の用語や定義，および基本的な統計的推計と検定に関する分析方法を学ぶと共に，それら分析方法の意味と実用に即したデータ処理に役立つことを目的としています。

当該科目と学位授与方針等との関連性；Ａ−２，３

(方法)

主として，教科書と配付資料を使用して講義を行います。
また，講義の内容の理解を深めるために，与えられた課題を自ら解く形式の演習・小テストを行います。
さらに，レポートの提出を求めます。

【一般教育目標(GIO)】

「推測統計」に関するデータ処理のために，統計学の専門用語を理解し,基本的な統計的推計，および検定ができるようになり，そのことによって定量的な考え方および評価方法を修得する。

【行動目標(SBO)】

推測統計学の基礎的な考え方を説明できる。
母集団と標本との関係，無作為抽出について説明できる。
統計的な区間推定，母平均・母比率，平均値の差に関する統計的な有意差検定ができる。
適合度・独立性などに関する統計的な有意差検定，および無相関検定ができる。

【教科書・リザーブドブック】

小寺平治：はじめての統計学１５講，講談社，2017年（第5刷），￥2,000（税別）

【参考書】

福富和夫・橋本修二：保健統計・疫学，南山等，2018年（第6版1刷），￥2,400（税別）
盛山和夫:統計学入門，ちくま学芸文庫，筑摩書房，2015年），￥1,404

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学即規定のGPA制度に従う。
成績評価は，期末試験，小テスト，およびレポートにより総合的に評価する。
出席状況は，評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	25	25					100
評価指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		5	5					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	授業の進め方：シラバスの内容についての説明 母集団と標本：母集団と相似であるべき標本について学ぶ。	講義と演習	予習：標本調査，データの抽出方法，標本平均の平均と分布について調べる。教科書５１-５９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
３・４ 前期	区間検定・１：平均値を推測する方法について学ぶ。	講義と演習	予習：標本平均の分布，母平均の信頼限界，ｔ分布について調べる。教科書６０-６７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
５・６ 前期	区間検定・２：母集団における比率を推測する方法について学ぶ。	講義と演習	予習：カイ二乗分布，母比率の信頼限界について調べる。 教科書６８-７３頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
７・８ 前期	母平均の検定：仮説の検定について学ぶ。	講義と演習	予習：仮説検定，有意水準，棄却域，第１種／第２種の誤りについて調べる。教科書７４-８１頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
９・１０ 前期	母分散・母比率の検定：バラツキによる検定について学ぶ。	講義と演習	予習：母比率の検定，片側／両側検定について調べる。 教科書８２-８７頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１１・ １２ 前期	有意差検定：平均の差，あるいは比率の違いに意味があるかについて学ぶ。	講義と演習	等平均仮説，母比率の有意差検定，正規分布の再生性について調べる。 教科書８８-９５頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１３・ １４ 前期	適合度・独立性の検定：メンデルの法則の検証について学ぶ。	講義と演習	予習：適合度の検定，カイ二乗検定，右側検定，２×２表について調べる。教科書９６-１０１頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０
１５・ １６ 前期	無相関検定：二つの変量の関係は意味があるかについて学ぶ。 試験	講義と演習	予習：母相関係数＝０の意味，相関と因果関係について調べる。 教科書１０２-１０９頁を読む。 復習：教科書になかった講義の内容を確認する。	３０ ３０

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎生命科学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校での「生物基礎」を選択したか否かをアンケート調査する。
高校で「生物基礎」を選択していなかった学生はこの科目を必ず選択していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義中に試験問題等を提供する。
試験内容をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に解説する。

【講義概要】

(目的)

本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎的知識の修得を目的とする。

(方法)

高等学校にて「生物基礎」及び「化学基礎」を履修してこなかった学生を対象に、医生物科学を学ぶにあたって必須な学習事項を中心に概説する。

【一般教育目標(GIO)】

世間一般で話題となっている「生命（いのち）＝生き物」の在り方などについて常識的に語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

「生命（いのち）＝生き物」に関する話題について自分の考えをまとめられるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する。

【参考書】

高校レベルの内容が記されている書籍、新聞等。
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	強科目「基礎生命科学」の内容紹介。 「生物〇」の高校での学習の有無についてのアンケート調査。	講義	新聞マスメディアの生命（いのち）＝生き物に関する記事を読むこと。	10
2	からだをつくる物質・単位・溶液	同上	同上	同上
3	からだの中の（化学）反応（系） ～　①　加水分解・酸化還元・酸と塩基	同上	同上	同上
4	からだの中の（化学）反応（系） ～　②　酵素	同上	同上	同上
5	細胞・細胞分裂…そして、生命の起源との関連	同上	同上	同上
6	遺伝と遺伝子⇒情報伝達機構	同上	同上	同上
7	動物・ヒトの組織・器官	同上	同上	同上
8	刺激と反応…そして、生活空間＝環境との関連	同上	同上	同上

9	循環　～　①　体液	同上	同上	同上
10	循環　～　②　気体	同上	同上	同上
11	免疫	同上	同上	同上
12	神経・ホルモン…そして、生活空間＝環境	同上	同上	同上
13	排泄	同上	同上	同上
14	解剖生理学・生化学等との関連。病気に対して。 その他	同上	同上	同上
15	英語で学ぶ基礎生命科学	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅰ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高校等で「生物基礎」を選択履修したものとして講義を執り行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りを禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。
講義概要をプリント・コピーし、予め問題内容を簡単に説明する。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという現実に直面するヒトの肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。

(方法)

生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物（学）の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義し、生物学と医療との相関について考える。

【一般教育目標(GIO)】

常識程度の医生物科学（生物学の基礎知識を基にした医学・医療領域の自然科学）を語れるようになること。

【行動目標(SBO)】

基礎医学及び医療に関する昨今の話題をまとめ、語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

平田恒彦著「人間・生き物科学」　考古堂　2012年

【参考書】

高校の教科書・参考書、新聞
必要な場合にその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								0
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	生物（学）の世界	講義	新聞等マスメディアの生命に関する記事を熟読すること。	10分
3.4	生命の誕生～オパーリンの世界～	同上	同上	同上
5.6	生物と環境の変化	同上	同上	同上
7.8	化石の世界	同上	同上	同上
9.10	野生生物の世界	同上	同上	同上
11.12	クストーの世界	同上	同上	同上
13.14	DNAとは	同上	同上	同上
15	万能細胞～ヒトのIPS細胞～	同上	同上	同上

16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	医生物科学Ⅱ			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	qqe83zfd@snow.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医生物科学Ⅰを履修したものとして講義を執り行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

食べ物・飲み物の持ち込みは厳禁する。講義中の無言勝手な出入りは禁ずる。
教師と学生との対話を心掛ける。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションという現実に直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。
生命科学から見た人について特に人の内面の在り方や個としての人の行く末について考えるきっかけを得る。

(方法)

生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

社会一般における医療とのつながる医生物科学的な話題に関心を抱き、
その話題を自分のものとして取り扱えるようになること。

【行動目標(SBO)】

現代的医生物科学に関する話題について語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

特に使用せずプリントを提供する

【参考書】

高校の教科書・参考書、
必要な場合にはその都度紹介する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
試験評価は期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85	5	5				5	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ	10							10
	発表力	15	5						20
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	健康なからだづくりの基本・・・・・胎内期	講義	新聞マスメディアに載るについて感心を抱くこと。	10分
2	健康なからだづくりの基本・・・・・幼児期	同上	同上	同上
3	こころの健康、そして休養・・・・・胎内期	同上	同上	同上
4	こころの健康・・・・・幼児期	同上	同上	同上
5	社会生活への道・・・・・社会生活技術訓練SST	同上	同上	同上
6	社会生活への道・・・・・モノづくり	同上	同上	同上
7	モバイルヘルス	同上	同上	同上
8	認知症予防のための脳トレ ・・・・・認知症へ・・・なる？？？！！！	同上	同上	同上

9	認知症予防のための脳トレ ・・・・・計算をためしてみよう。	同上	同上	同上
10	感染症とのたたかいとそれへの予防	同上	同上	同上
11	食との調和、そして自然	同上	同上	同上
12	日常生活におけるヒト・・・・・生活の在り方	同上	同上	同上
13	日常生活におけるヒト・・・・・自己そのもの	同上	同上	同上
14	日常生活におけるヒト・・・・・他との関係における欲求	同上	同上	同上
15	最後の日々へ	同上	同上	同上
16	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅰ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日は除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

演習時には動きやすい服装で行うこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

演習を多く含まれているため、積極的に講義に参加すること。

【講義概要】

(目的)

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；P-1、O-1、A-1、A-2

(方法)

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。
オレンジカフェは11月16日（土）、11月30日（土）に開催されます。2日間のうち1日は参加する必要があります。
第1回目のオリエンテーションでグループ分けを説明します。

【一般教育目標(GIO)】

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；P-1、O-1、A-1、A-2

【行動目標(SBO)】

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。

【教科書・リザーブドブック】

人から人に正確に情報を伝えることができる。
オレンジカフェを通じて地域在住者と自身からコミュニケーションをとれる。

【参考書】

必要に応じて資料を配布します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

出席は2/3以上しなければならない。
成績はレポート課題とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション オレンジカフェの事前学習について	座学（木村、OT教員）	講義のオリエンテーションを行います。オレンジカフェの事前学習について説明します。	60分
3.4	ことばを上手く使って相手に伝える	演習（木村）	正確に情報をとらえて人に伝えることができる。	30分
5.6	社会で求められる語彙力とは　基礎編	座学（長島）	ことばを使って正確に物事と伝えることでができる。	60分
7.8	社会で求められる語彙力とは　応用編	座学（長島）	ことばを使って正確に物事と伝えることでができる。	30分
9.10	VRを用いた機器の紹介	座学（浅海）	視覚情報と通じて情報を共有できることを理解する。	30分
11.12	オレンジカフェ体験	演習（OT教員）	オレンジカフェの取り組みを体験して理解する。	30分
13.14	オレンジカフェ体験 オレンジカフェ体験を振り返る	座学（OT教員）	オレンジカフェの取り組みを体験して理解する。 オレンジカフェについてまとめることでができる。	60分
15	総復習	座学（木村）	講義を振り返り、課題レポートを作成して提出する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	人間支援科学Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日は除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

演習時には動きやすい服装で行うこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

演習を多く含まれているため、積極的に講義に参加すること。

【講義概要】

(目的)

人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることをことを目的とする。
当該科目学位授与方針等との関連性；R-1、A-1、A-2

(方法)

自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法（人から人、物を使用）を演習を踏めて講義します。

【一般教育目標(GIO)】

幅広い専門領域からの視点から人を支援できる方法を身に付けることで、さまざまな場面に応じた対応ができる。
社会人において必要なコミュニケーションスキルを身に付ける。

【行動目標(SBO)】

講義を通じて人とのつながりに意識することができる。
コミュニケーションツールの使用法を理解する。
基礎的な文章表現を理解してもらい、実際に文章を書く練習を通じて、文章表現の技術を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

出席は2/3以上しなければならない。
成績はレポート課題とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	40				10	100
評価指標	取り込む力・知識		40	10					50
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10				10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション コミュニケーションと人間関係	演習（川原）	適切な自己表現ができる。	60分
3.4	自己主張の方法	座学・演習（阿久津）	適切な自己表現ができる。	60分
5.6	文章表現の技法	座学・演習（阿久津）	適切な自己表現ができる。文章表現を磨く。	90分
7.8	難聴者の支援	座学・演習（高橋圭三）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
9.10	嚥下補助食品	座学・演習（高橋圭三）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
11.12	拡大・代替コミュニケーション方法①	座学・演習（佐藤）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
13.14	拡大・代替コミュニケーション方法②	座学・演習（佐藤）	言語聴覚領域の支援機器等についてその目的を知る。	30分
15	総復習	座学（木村）	提出物などの返却を行い、講義を振り返る	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅰ			【担当教員】
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0110-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日13時00分～13時25分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理が苦手な人、高校で物理を学ばなかった人に合わせて授業を行う。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。
・試験結果・演習問題については、必要応じて解説を行います。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； A-2

(方法)

教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。
・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・小テストと期末試験の実施とポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40				20		100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	オリエンテーション 物理学を学ぶのに必要な数学①	講義・演習	演習した内容を復習	60
3,4	物理学を学ぶのに必要な数学②	講義・演習	演習した内容を復習	60
5,6	物理学を学ぶのに必要な数学③ 小テスト なぜ物理が必要か バネの伸びと力の合成	講義・演習	演習した内容を復習	60
7,8	テコの原理と第一のテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
9,10	第2のテコ・第3のテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
11,12	輪じく・滑車・歯車	講義・演習	演習した内容を復習	60
13,14	まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
15	まとめ演習の解説	講義・演習	授業の内容を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	物理学Ⅱ			【担当教員】	藤本　聡
【授業区分】	教養分野(自然科学)	【授業コード】	1-03-0110-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujimoto.s@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日13時00分～13時25分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

物理学Ⅰを学んだ人を対象とする。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・演習は理解するまで行い、わからないことは質問に来てください。
・試験・レポートは他に支障のない限り返却します。
・試験結果・演習問題については、必要に応じて解説を行います。
・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。
・高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を習得する。
・物理学Ⅰで学んだことを、生体に応用できるようにする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2

(方法)

教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。
・物理学を学ぶのに必要な数学についても学ぶ。

【行動目標(SBO)】

リハビリテーションに関連する物理学を学び、今後の学習や臨床で活用できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

江原義弘、山本澄子、中川昭夫・『【ＰＴ】【ＯＴ】【ＰＯ】身体運動の理解につなげる物理学』南江堂、2015年. ¥2800

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。
・小テストと期末試験を実施、ポートフォリオの取り組む姿勢を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40				20		100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20	20						40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢						20		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	物理Ⅰ期末試験の解説 生体の中のテコ①	講義・演習	演習した内容を復習	60
3,4	生体の中のテコ②	講義・演習	演習した内容を復習	60
5,6	下肢に存在するテコ	講義・演習	演習した内容を復習	60
7,8	作用・反作用，力の分解，斜面，振り子、摩擦力	講義・演習	演習した内容を復習	60
9,10	後半まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
11,12	後半まとめ演習の解説 後半内容の小テスト	講義・演習	演習した内容を復習	60
13,14	後半小テストの解説 物理ⅠとⅡの総まとめ演習	講義・演習	演習した内容を復習	60
15	総まとめ演習の解説	講義・演習	授業の内容を復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	レクリエーション			【担当教員】	田嶋　雄洋
【授業区分】	教養分野(体育学関連)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tajima.katsuhiro@opal.plala.or.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業終了後、随時メールで応じます	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目では、レクリエーションに関する知識・指導の技術を学び、学生自身のレクリエーション活動における基礎的な指導能力の向上を図ります。
・この科目では、楽しさをとおして元気な心を育てるので、休まずに出席していただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この科目では、レクリエーションに関する講義とレクリエーション実技実習を中心に行います。
・実技試験は、グループでの指導演習を行います。授業をとおして学んだことを、レポートにして提出していただきます。筆記試験では、レクリエーションに関する基礎的な内容の確認を行います。
・試験結果及びレポートは、返却するので、返却後、確認・点検してください。

【講義概要】

(目的)

・レクリエーション活動に関する基本的な知識や技術等の理論を学び、将来、勤務する病院や施設等で、患者様等を対象に実施するレクリエーション事業の企画力・実技等の指導力を身につける。
・患者様等、小児から高齢者まで幅広い対象者に応じた指導理論を学び、目的に応じた適応力を身につける。

(方法)

・主に、講師が作成する資料を基に、座学である理論を学びます。
・実技実習についても、講師が作成する資料を基に、講師から指導を受けて、各種実技に関する指導の技術を学び、指導力等を高めていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・レクリエーションに関する基礎的な理論・指導の技術等を踏まえ、福祉・保健・医療の現場につながる知識・技術の基礎的能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

１）レクリエーションに関する基礎的な理論について説明できる。２）レクリエーションの機能・効能について説明できる。３）幅広い対象者に応じたレクリエーション事業の企画を立てることができる。４）歌を使ったレクリエーション活動実習をとおして、音楽療法を学び、実践指導できる。５）福祉レクリエーションに関する基礎的な理論・考え方を説明し、指導ができる。６）高齢者の特性を踏まえたレクリエーション計画を立て、指導ができる。８）レクリエーションの実践報告をまとめ、発表することができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・試験（筆記試験30%、レポート50%）実技20%で総合的評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		50		20			100
評価指標	取り込む力・知識	30							30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ					20			20
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	オリエンテーション　レクリエーション科目の全体像の説明 レクリエーションに関する基礎理論１ 主に、レクリエーションとは何かを中心に学ぶ	講義		90
3・4	レクリエーション実技１ 主に、指導技術、指導の法則を学ぶ	実技		90
5・6	レクリエーション事業の企画 主に、高齢者・福祉レクリエーションを中心に	講義		90
7・8	歌を使ったレクリエーション１ 音楽療法の基礎を学ぶ	実技		90
9・10	福祉レクリエーション１ 主に、高齢者・障がい者を対象に考えて	実技		90
11・12	学習クイズ１ 主に、小児・高齢者を対象に考えて	実技		90
13・14	指導実習・実技試験 レポート課題の出題	実技		90
15・16	授業アンケート 筆記試験 レポートの提出	試験		90

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ実践			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	教養分野(体育学関連)	【授業コード】	1-04-0125-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・グループに分けて実施するので，各自，自分の配属グループを確認しておくこと.
・授業内容，スケジュール詳細などは初回ガイダンスにて確認すること.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学外体育施設を使用する際は，施設使用規則を遵守すること.
・学外体育施設（パルパーク神林）を使用する場合は，現地集合・解散となります.
・実施種目や会場を変更する場合があるので，事前にポータルサイトを確認すること.
・体育・スポーツを行うのに相応しい身だしなみや服装を整え，館内では内履きを必ず着用すること.
・水分補給の準備やタオル，着替え等を持参し，体調管理，安全管理に配慮すること.

【講義概要】

(目的)

・様々な運動やスポーツを経験し，健康や身体活動に関する知識や相互理解を深める
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3

(方法)

・様々な運動・スポーツ種目を実践するとともに，健康や障がいについて考える

【一般教育目標(GIO)】

・身体活動を通じ，健康の保持・増進および障がいに対する知識や認識を高め，相互理解を深める.

【行動目標(SBO)】

・運動・スポーツ活動の運営やサポート方法を考え，実践することができる.
・健常者・障がい者ともに楽しめる体育・スポーツ種目を考え，実践することができる.
・学習活動を通して，協調性，リーダーシップ，チームワーク，コミュニケーション能力を養い，発揮することができる.
・レポートを作成して自己評価を行い，活動を振り返ることができる.

【教科書・リザーブドブック】

・特に指定しない

【参考書】

・必要に応じて提示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・学内規定に基づく出席回数，授業態度，レポートを総合的に評価する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				20	20	60			100
評価指標	取り込む力・知識			10		20			30
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ				10	20			30
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ガイダンス，アイスブレイク（学内）	講義・演習		
2	障がい者とスポーツについて（学内）	講義・演習		
3	スポーツ実践（学内，学外）	実技		
4	スポーツ実践（学内，学外）	実技		
5	スポーツ実践（学内，学外）	実技		
6	スポーツ実践（学内，学外）	実技		
7	活動内容発表	実技	発表する課題の内容をまとめておく	30
8	活動内容発表，まとめ	実技，レポート作成	発表した課題について，振り返りをまとめておく	30

リハビリテーション学科

【科目名】	保健体育Ⅱ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0130-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・身体活動に興味を持って自ら積極的に参加する学生の受講を望む.
・事前の聴講希望調査に従って履修手続を行うこと.
・集中講義の形式となる.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学内施設および学外施設を使用する場合がある．また，活動内容によっては，実施に関する費用や用具の準備等は個人負担となる場合がある.
・新潟県特別支援学校スポーツ大会に学生サポート・リーダーとして参加する.
・ポータルサイトのポートフォリオ機能を使用してレポート提出・フィードバックなどを行う.

【講義概要】

(目的)

・地域包括システムやインクルーシブ教育など，医療福祉教育分野を取り巻く社会背景の変化を踏まえ，将来，セラピストとして臨床現場で活動するために有益な，身体活動をツールとした実践的な活動を通じた支援者経験を得ることを目的とする.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1,2,3

(方法)

・学内での活動のみならず，学外での活動を主に実施するまた，自分自身が多くの種目を経験して実践するだけでなく，多種多様な対象者と環境に即した身体活動を考案し，対象者に指導したり支援したりする．実施後は各自が振り返りを行いポートフォリオを作成する.

【一般教育目標(GIO)】

・年齢，性別，障がいの有無等にかかわらず，身体活動を提供するためのプランを考え，実施することができる.

【行動目標(SBO)】

・地域におけるインクルーシブ・スポーツの概念を理解する
・活動環境に応じた体力作り，健康づくりに関するプランを作成・実施することができる
・実施後，プランについて振り返りを行い，よりよいプランを検討することができる
・活動内容をポートフォリオにまとめ，報告することができる

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・ポートフォリオレポート評価規準を初回講義時に提示する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					40	30	30		100
評価指標	取り込む力・知識						10		10
	思考・推論・創造の力				10		10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10	15			25
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10	15	10		35

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ガイダンス，インクルーシブ・スポーツ講義	講義，グループワーク（GW）		
2	インクルーシブ・スポーツ実践（1）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
3	インクルーシブ・スポーツ実践（2）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
4	インクルーシブ・スポーツ実践（3）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
5	インクルーシブ・スポーツ実践（4）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
6	インクルーシブ・スポーツ実践（5）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
7	インクルーシブ・スポーツ実践（6）	GW，実技	種目検討，事前準備	30
8	インクルーシブ・スポーツ実践（7） 振り返りとまとめ	GW，実技	種目検討 まとめ（レポート）	60

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅰ			【担当教員】	山田　修司
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	syuuyamada@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤講師室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

USBメモリを授業の際には持参すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題レポートは担当教員作成のホームページを使って提出してもらう。ホームページのアドレスは授業中に指示する。

【講義概要】

(目的)

情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。

(方法)

「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「コンピュータの基本操作」、「Word」などを講義・実習する。

【一般教育目標(GIO)】

現代の社会人として必要な情報リテラシーの習得を目指す。

【行動目標(SBO)】

基本的なソフトウェアの活用方法を学習する。

【教科書・リザーブドブック】

草薙 信照・植松康祐著「文科系のためのコンピュータリテラシ」第5版(978-4-7819-1277-6)(2011年)¥1,950

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は大学学則規定のGPA制度に従う。
ほぼ毎回課題を出す。課題レポート80%、授業態度20%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	コンピュータの基本操作：起動とシャットダウン	講義	教科書2-33ページの内容を予習する	30分
2	コンピュータの基本操作：ファイルとフォルダの管理	講義	教科書2-33ページの内容を予習する	30分
3	インターネットの利用方法：電子メールの使い方	実習	教科書34-41ページの内容を予習する	30分
4	インターネットの利用方法：情報検索	実習	教科書32-41ページの内容を予習する	30分
5	Word実習（１）：文字変換と文章入力	実習	教科書44-59ページの課題に取り組む	30分
6	Word実習（２）：文章の体裁のそろえ方	実習	教科書44-59ページの課題に取り組む	30分
7	Word実習（３）：フォントの設定	実習	教科書60-67ページの課題に取り組む	30分
8	Word実習（４）：段落の設定	実習	教科書60-67ページの課題に取り組む	30分

9	Word実習（５）：文字列からの表作成	実習	教科書68-73ページの課題に取り組む	30分
10	Word実習（６）：列の幅と罫線の設定	実習	教科書68-73ページの課題に取り組む	30分
11	Word実習（７）：表での計算式の設定	実習	教科書74-75ページの課題に取り組む	30分
12	Word実習（８）：表組みによるレイアウト（１）	実習	教科書76-83ページの課題に取り組む	30分
13	Word実習（９）：表組みによるレイアウト（２）	実習	教科書76-83ページの課題に取り組む	30分
14	Word実習（１０）：グラフの利用（１）	実習	教科書84-91ページの課題に取り組む	30分
15	Word実習（１１）：グラフの利用（２）	実習	教科書84-91ページの課題に取り組む	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	情報処理技法Ⅱ			【担当教員】	山田　修司
【授業区分】	教養分野(情報)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	syuuyamada@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤講師室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

USBメモリを授業の際には持参すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

課題レポートは担当教員作成のホームページを使って提出してもらう。ホームページのアドレスは授業中に指示する。

【講義概要】

(目的)

情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。

(方法)

「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「Excel」、「PowerPoint」などを講義・実習する。

【一般教育目標(GIO)】

現代の社会人として必要な情報リテラシーの習得を目指す。

【行動目標(SBO)】

基本的なソフトウェアの活用方法を学習する。

【教科書・リザーブドブック】

草薙 信照・植松康祐著「文科系のためのコンピュータリテラシ」第5版(978-4-7819-1277-6)(2011年)¥1,950

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は大学学則規定のGPA制度に従う。
ほぼ毎回課題を出す。課題レポート80%、授業態度20%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	Excel実習（１）：セル番地と数式	実習	教科書118-125ページの内容を予習する	30分
2	Excel実習（２）：相対参照と絶対参照	実習	教科書118-125ページの内容を予習する	30分
3	Excel実習（３）：関数を使った数式（１）	実習	教科書126-133ページの内容を予習する	30分
4	Excel実習（４）：関数を使った数式（２）	実習	教科書126-133ページの内容を予習する	30分
5	Excel実習（５）：関数の活用（１）	実習	教科書134-141ページの課題に取り組む	30分
6	Excel実習（６）：関数の活用（２）	実習	教科書134-141ページの課題に取り組む	30分
7	Excel実習（７）：グラフの作成（１）	実習	教科書142-149ページの課題に取り組む	30分
8	Excel実習（８）：グラフの作成（２）	実習	教科書142-149ページの課題に取り組む	30分

9	Excel実習（９）：グラフ機能の活用（１）	実習	教科書150-157ページの課題に取り組む	30分
10	Excel実習（１０）：グラフ機能の活用（２）	実習	教科書150-157ページの課題に取り組む	30分
11	Excel実習（１１）：データベース機能（１）	実習	教科書158-167ページの課題に取り組む	30分
12	Excel実習（１２）：データベース機能（２）	実習	教科書158-167ページの課題に取り組む	30分
13	PowerPoint実習（１）：スライドの編集	実習	教科書186-193ページの課題に取り組む	30分
14	PowerPoint実習（２）：SmartArtグラフィックの活用	実習	教科書194-200ページの課題に取り組む	30分
15	PowerPoint実習（３）：スライドショーとアニメーション	実習	教科書201-209ページの課題に取り組む	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅰ・初級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業行い学外検定試験に対応できるようする。

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語力獲得を目標とする。又、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解できるようになる。検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上をする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト(文法・表現テスト及び単語テスト）及び期末試験結果を総合的に評価する。
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	まとめ	講義及び演習	総復習	45分

16	期末試験	筆記試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅰ・中級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、『書く』『読む』の演習を中心とした授業行い学外検定試験に対応できるようする。

(方法)

専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使用していく。テキストの会話文及び長文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの専門的な英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージや長文を読解し、実用的な英文が書けるようになる。医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験及び小テスト(単語テスト）結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	まとめ	講義及び演習 総復習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分

16	期末試験	試験	予習： 教科書のダイアログを理解。 総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅱ・初級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・初級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・初級に引き続き専門用語集を使用し基礎語彙及び文法を更に導入、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の初歩的な知識を学び英文読解力を高める。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	英語I初級期末テスト解説 教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
15	教科書：出発 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。 総復習	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英語Ⅱ・中級			【担当教員】	佐藤　愛子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・中級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English!: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	医療英語I中級　期末試験解説 教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
15	教科書：出発 長文読解 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅰ・初級			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作り使用できるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定４級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和、和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験・小テストの結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅰ・中級			【担当教員】	Glenn Steven
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業後、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に『聴く』『話す』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。

(方法)

医療福祉英語検定協会の教材で導入した３級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返す行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。様々な医療現場における会話を聞き理解できるようになるとともに、それを会話で応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定３級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。教員を除きスマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験結果及び授業内参加度等を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70						30	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 教科書： 第１部レッスン１、第２部１．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン２、第２部１．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン３、第２部１．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン４、第２部１．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン５、第２部１．５	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第１部レッスン６、第２部１．６	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第１部レッスン７、第２部２．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅱ・初級			【担当教員】	Sam Suleiman
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	sulsuz@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 電子メールで質問を受け付ける	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英会話I・初級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格を目標とする。日常医療現場における英語による『聴く』『話す』の演習を中心とした授業をおこない学外検定試験に対応できるようにする。医療領域における公用語として実際に用いることができる基礎英会話力を身に付ける。英語で話そう、英語を聴こうという自律的・積極的態度を身に付ける。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英会話I・初級に引き続き検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。４級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返しおこなう。同時に多くの検定試験リスニング類似問題を解くことにより得点に結びつくよう実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格レベルの英語による会話力及び聴解力獲得を目標とする。

【行動目標(SBO)】

医療英会話I・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定４級合格を目指す。検定のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の初歩的な知識を身に付け、日常医療現場における会話力を高める。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参すること。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

試験・小テストの結果及び授業内参加度を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	40					20	100
評価指標	取り込む力・知識	40	40						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分
15	まとめ	講義及び演習	既習単語及び表現の復習	30分

16	期末試験	試験	総復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英会話Ⅱ・中級			【担当教員】	Glenn Steven
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 授業前、教室にて	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療英語I・中級を履修した学生のみ。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及びその解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級に関連したトピックを基に、学外検定試験に対応できるよう英語による『書く』『読む』の演習を中心とした授業を行い学外検定試験に対応できるようにする。また効率の良い受験方法の知識を提供する。

(方法)

医療英語I・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練する。

【一般教育目標(GIO)】

医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定３級合格レベルの英語力獲得を目標とする。また、学外検定試験にも対応できるようにする。

【行動目標(SBO)】

医療英語I・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格レベルの専門的な英語力獲得を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。

【教科書・リザーブドブック】

医療福祉英語検定協会出版『Let's Study Welfare English!: 英語で福祉を学ぼう』及び『福祉英語専門用語集』

【参考書】

辞書（英和・和英）を必ず持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト（文法・表現テスト及び単語テスト）及び授業内参加を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30						100
評価指標	取り込む力・知識	70	30						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	医療英語I中級　期末試験解説 教科書： 第１部レッスン８、第２部２．２ 長文読解	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
3-4	教科書： 第１部レッスン９、第２部２．３ 長文読解 単語テスト１	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
5-6	教科書： 第１部レッスン１０、第２部２．４ 長文読解 単語テスト２	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
7-8	教科書： 第１部レッスン１１、第２部３．１ 長文読解 単語テスト３	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
9-10	教科書： 第１部レッスン１２、第２部３．２ 長文読解 単語テスト４	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
11-12	教科書： 第２部３．３、３．４ 長文読解 単語テスト５	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。単語テストの勉強。	45分
13-14	教科書： 第２部３．５、４．１ 長文読解 単語テスト６	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分
15	教科書：出発 長文読解 まとめ	講義及び演習	予習： 教科書のダイアログを理解。	45分

16	期末試験	試験	総復習	45分

リハビリテーション学科

【科目名】	医療英文抄読法			【担当教員】	梶浦　麻子
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0220-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kajiura@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜3時～4時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

試験結果の返却及び解説をもってフィードバックとする。

【講義概要】

(目的)

英語で書かれた学術論文に慣れ親しむ。また、英語を医療分野の公用語としてとらえ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに手にできる基盤を身につける。

(方法)

解剖学や生理学などの基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法／検査機器名、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。

【一般教育目標(GIO)】

英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読む基盤を身につける。

【行動目標(SBO)】

学術論文の形式を示すことができる。学術論文を読むポイントがわかる。文献ﾘｽﾄの意義がわかる。

【教科書・リザーブドブック】

指定教科書無し
辞書（和英・英和）は毎授業持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

小テスト及びレポートの結果を総合的に評価する。
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みまない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		50	25					75
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	30分
2	学術論文・英語論文とは	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
3-4	論文題目の読み方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
5-6	PubMedの使い方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
7-9	オンライン情報の検索及び分析	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
10-12	Research Topic 及び Research Questionについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
13-15	IMRADについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習Ⅰ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。
履修申告ののち、研究テーマと指導教員を決め、事前研究を行う。そして外国での実地体験を経たうえで、事後指導を受けレポートを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じ資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身に着けておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30分
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと	60分
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60分
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習Ⅱ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。
履修申告ののち、研究テーマと指導教員を決め、事前研究を行う。そして外国での実地体験を経たうえで、事後指導を受けレポートを作成する。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じ資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身に着けておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30分
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30分
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと	60分
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60分
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	国際理解演習			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・海外研修に行くことを前提とします。
・研修費用は自己負担となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームスティなどを行う学生が履修できる。

【一般教育目標(GIO)】

・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。
・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。

【行動目標(SBO)】

・他国での社会ルールを知る。
・言語の違いを克服する。

【教科書・リザーブドブック】

・必要応じて資料を配布します。

【参考書】

・授業の中で参考となる本を紹介していく。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、レポート点により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身につけておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
3	海外研修の紹介 （主に中国の紹介）	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
4	各国のリハビリテーションの現状（1）	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと。	60
5	各国のリハビリテーションの現状（2）	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ｉ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。
当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主に，標本、模型なども組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、解剖学概論、人体構造の基本、体幹の解剖などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ﾋﾄのからだを構成している骨格、筋肉、血管、神経について説明できる。
関節の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	みずから考え，学習するということ。医学を学ぶということ。解剖学のスタート。脊椎動物について。	講義		
2	初期発生について。ヒトのからだは二重の筒。	講義		
3	身体の組織について。骨の組織構造。関節の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	体幹の骨格。脊柱について。胸郭を構成する骨格について。	講義		
5	胸郭を構成する筋肉について。筋肉、腱・靭帯の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	神経組織について。脊髄神経について。　筋肉と神経の関係。横隔膜と呼吸運動について。	講義		
7	腹部の筋肉とその支配神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
8	鼡径管について。レポートについて。	講義		

9	頸部の骨格について。頸部の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	頚神経ワナについて。頸部の大血管について。	講義		
11	背部の筋肉と脊髄神経後枝について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	肩甲骨と鎖骨について。	講義		
13	骨学実習.	実習	前回の講義の復習	30分
14	浅背筋群について。肩甲骨と鎖骨の運動について。	講義		
15	まとめ			30分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅱ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。
当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主に、標本、模型などを組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、「上肢帯および上肢の解剖」を講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ﾋﾄのからだを構成している骨格と関節、筋肉、血管、神経について説明できる。
上肢と上肢帯について，その運動について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	上肢帯と上肢の骨格について。	講義	解剖学・総論Ⅰの復習	40分
2	上肢帯にある関節について。肩関節について。	講義		
3	肩甲骨の運動について。上肢帯の筋肉について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	肩関節の運動について。	講義		
5	腕神経叢について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	腋窩の構成について。上肢の筋肉について	講義		
7	前腕の骨格について。	講義	前回の講義の復習	30分
8	肘関節について。肘関節の運動について。レポートについて。	講義		

9	前腕の筋肉について。伸筋支帯と屈筋支帯について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	肘窩について。上肢の脈管について。	講義		
11	骨学実習。	実習	前回の講義の復習	30分
12	手の骨について。手関節について。	講義		
13	手の筋肉について。母指球と小指球について。橈骨神経・尺骨神経・正中神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	手指の運動について。指の屈曲・伸展機構について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・総論Ⅲ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校の教科書の中で、生物に関する記載を復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。
当該科目との関連性；Ａ１、Ａ２

(方法)

教科書、独自のスライドを主とし，標本、模型などを組み合わせて学習する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。
本科目は主として、「下肢帯および下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。

【行動目標(SBO)】

ヒトのからだを構成している骨格および関節、筋肉、血管、神経について，その構造や運動を説明できる。
下肢帯と下肢帯の構造やその運動を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	下肢帯と大腿の骨格について。骨盤の男女差について。骨盤の靭帯について。	講義	解剖学・総論Ⅰと総論Ⅱを復習	40分
2	股関節とその運動について。	講義		
3	骨盤に関係する筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
4	腰仙骨神経叢について。坐骨神経について。	講義		
5	大腿伸側および屈側の筋肉について。	講義	前回講義の復習	30分
6	内転筋群について。大腿部の局所解剖について。下肢帯と下肢に関する脈管について。	講義		
7	下腿の骨格について。膝関節について。	講義	前回講義の復習	30分
8	膝関節の靭帯と膝関節の運動について。レポートについて。	講義		

9	下腿屈側と伸側の筋肉について。下腿の局所解剖について。足部の骨格について	講義	前回講義の復習	30分
10	足関節とその靭帯について。	講義		
11	骨学実習	実習	前回講義の復習	30分
12	坐骨神経と脛骨神経・総腓骨神経について。足関節の運動について。	講義		30分
13	足根管について。足弓について。	講義	前回講義の復習	30分
14	足部の筋肉について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅰ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻１年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体を構成する細胞・組織について、その構成や特徴を説明できる。
人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版、東洋療法学校協会、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	循環器系： 循環器系の構成 心臓の形態と構造 血管の基本構造	講義	講義内容の復習	40分
3・4	循環器系： 動脈と静脈 胎児循環 リンパ管系とリンパ系器官	講義	講義内容の復習	40分
5・6	人体の細胞： 細胞の基本的な形態と構成 細胞の活動 人体に存在する様々な細胞	講義	講義内容の復習	40分
7・8	人体の組織： 上皮組織と腺組織 種類と人体における分布	講義	講義内容の復習	40分
9・10	人体の組織： 支持組織 筋組織 神経組織	講義	講義内容の復習	40分
11・12	内臓学総論： 人体内臓諸器官の名称、位置、分類 内臓の基本的構成	講義	講義内容の復習	40分
13・14	呼吸器系： 外鼻と鼻腔 咽頭 喉頭	講義	講義内容の復習	40分
15	呼吸器系： 気管 肺と胸膜	講義	講義内容の復習	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・各論Ⅱ			【担当教員】	西野　幾子
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後、非常勤控室で対応。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法学、作業療法学、リハビリテーション心理学専攻１年次に在学している学生が対象。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

就学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。

【講義概要】

(目的)

人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2,3

(方法)

教科書、図譜などを活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。
本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「生殖器」、「内分泌系」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。

【行動目標(SBO)】

人体の内臓の構成や、諸器官について、その形態や構造を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

東洋療法学校協会編、解剖学、医歯薬出版、2014年、¥5,900+税

【参考書】

藤田恒夫、入門人体解剖学改訂第5版、南江堂、2012年、¥5,000+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90	10						100
評価指標	取り込む力・知識	90	10						100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	消化器系： 消化器系の基本構成 口腔の構成と構造	講義	講義内容の復習	40分
3・4	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
5・6	消化器系： 各部の消化管の位置、形態、構造 消化腺の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
7・8	泌尿器系： 泌尿器系の構成 腎臓の位置、形態、構造 尿路の構造と位置	講義	講義内容の復習	40分
11・12	生殖器系： 男性生殖器系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
13・14	内分泌系： 内分泌系の構成 各臓器の位置、形態、構造	講義	講義内容の復習	40分
15	内分泌系： 各臓器の位置、形態、構造 まとめ	講義	講義内容の復習	40分

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・演習Ⅰ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

当該科目との関連性；A1、A2。解剖学・演習はすでに学習した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所（臨床）解剖学的にとらえて、理解し、説明できることが重要。

(方法)

医学の大学で人体解剖学実習の見学を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。他人に説明することで理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶためには、まず基礎医学とくに解剖学について学ばなければならない。
この演習では，解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで得た人体の形態、構造についての基礎知識の上に，「神経系」についての基礎的知識を修得させる。

【行動目標(SBO)】

ヒトの持つ神経系－中枢神経系および末梢神経系－について説明できる。頭部の構造について説明できる。また，人体の解剖学実習の見学を通してより理解を深める。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	頭部の骨格と分布する血管について。	講義	解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの復習	40分
2	中枢神経系：総論。	講義		
3	骨学実習。頭蓋について。	実習	前回の講義の復習	30分
4	神経系の発生。脊髄について（１）。	講義		
5	脊髄について（２）。	講義	前回の講義の復習	30分
6	脳幹について（１）：延髄。	講義		
7	脳幹について（2）：橋と中脳。	講義	前回の講義の復習	30分
8	脳神経について：嗅神経，視神経について。レポートについて。	講義		

9	脳神経について：内耳神経，三叉神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	脳神経について：顔面神経，舌咽神経について。	講義		
11	脳神経系について：迷走神経，副神経，舌下神経について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	小脳について。	講義		
13	間脳：視床について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	間脳：視床下部について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	解剖学・演習Ⅱ			【担当教員】	松村　博雄
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【大学取次】nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 水曜日、12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、医学全般を学ぶ上での基礎となるものです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを復習しておくこと。試験の正解は他に支障の無い限り発表することとします。

【講義概要】

(目的)

当該科目との関連性；A1、A2。解剖学・演習はすでに学習した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所（臨床）解剖学的にとらえて、理解し、説明できることが重要。

(方法)

医学の大学で人体解剖学実習の見学を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。他人に説明することで理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

医学、医療について学ぶためには、まず基礎医学とくに解剖学について学ばなければならない。
この演習では，解剖学・総論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲで得た人体の形態、構造についての基礎知識の上に，「神経系」についての基礎的知識を修得させる。

【行動目標(SBO)】

ヒトの持つ神経系－中枢神経系および末梢神経系－について説明できる。頭部の構造について説明できる。また，人体の解剖学実習の見学を通してより理解を深める。

【教科書・リザーブドブック】

河野邦雄･伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書　解剖学　第2版』医歯薬出版2006年

【参考書】

森　於菟著『分担解剖学第1巻　改訂第11版』金原出版,1985年.￥9,765
平沢　興著『分担解剖学第2巻　改訂第11版』金原出版,1984年.￥11,130
小川　鼎三著『分担解剖学第3巻　改訂第11版』金原出版、1982年.￥9,030

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。出席点は評価に含めません。
成績評価は、試験とレポートおよびその他（実習への参加や問答）などにより総合的に行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		40				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50		40					90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	終脳について：大脳皮質と大脳白質について。	講義	解剖学・演習Ｉの復習	40分
2	大脳の機能局在について。	講義		
3	大脳基底核について。	講義	前回の講義の復習	30分
4	大脳辺縁系について。	講義		
5	髄膜と脳脊髄液について。	講義	前回の講義の復習	30分
6	脳室系について。	講義		
7	頭部自律神経（１）：副交感神経。	講義	前回の講義の復習	30分
8	頭部自律神経（２）：交感神経。レポートについて。	講義		

9	感覚器：嗅覚について。	講義	前回の講義の復習	30分
10	感覚器：視覚と眼球について。眼球の運動：動眼神経，滑車神経，外転神経について。	講義		
11	感覚器：平衡覚と聴覚について。外耳，中耳，内耳の構造について。	講義	前回の講義の復習	30分
12	感覚器：皮膚と感覚受容器について。	講義		
13	下行性の伝導路について。錐体路と錐体外路について。上行性の伝導路について。	講義	前回の講義の復習	30分
14	視覚，聴覚，平衡覚の伝導路について。体性感覚の伝導路について。	講義		
15	まとめ			

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅰ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp　または　kenbo2@gmail.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控え室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

生理学を学ぶ意義、ホメオスタシスと病気の関わり、血液の成分とそれらの働き、心臓血管系、泌尿器系の機能などについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ　著　「人体の構造と機能　第4版」医歯薬出版社　¥2,800
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,200

【参考書】

田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第三版」 医学書院　¥2,808
Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」 南江堂 ¥4,104
岡田泰伸（監修・翻訳）「ギャノング生理学　原著24版」丸善出版　¥10,800

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	生理学とは何か、大学でどのように生理学を学ぶのか、生きているとはどういうことか、器官分化と機能協調の重要性、病気について解説。	講義 （担当山口）	化学エネルギー、ADP、ATP、三大栄養素、TCA回路、生物学的仕事、内部環境、器官分化と工場制の維持。	15分
3･4	体の水（体液）の種類、組織と特徴、成分表示の表し方や単位、浸透圧と体液の移動や血圧に及ぼす影響、体液平衡の障害でから起こる病気。	講義 （担当山口）	細胞内液・細胞外液、電解質・非電解質、モル濃度、当量、半透膜、浸透圧、オスモル、一次脱水、二次脱水、浮腫。	15分
5･6	血液の成分とそのはたらき-1。 血漿と血清の違い、成分、赤血球や白血球の種類、特徴、役割や病気。	講義 （担当山口）	赤血球、ヘモグロビン、メトヘモグロビン、CO中毒、酸化解離曲線とその変化、食球、走化性、血管外遊走、リンパ球、自然免疫、獲得免疫、抗体、ワクチン。	15分
7･8	血液の成分とそのはたらき-2。 血小板の特徴と機能、血小板に由来する病気、血液型の種類、輸血や臓器移植に由来する問題。	講義 （担当山口）	血液凝固、線溶、止血作用、血液凝固、、凝固因子の働き、血友病、塞栓症、ABO血液型、交差試験、Rh血液型、拒絶反応、MHC抗原。	15分
9･10	心臓循環系-1。 心臓の構造、それぞれの機能、心臓における興奮の発生、興奮伝道のしくみ、伝道異常と心臓の病気、心電図、心臓のポンプ作用。	講義 （担当山口）	洞結節、前電位、房室結節、興奮伝道系、期外収縮、代償性休止、不整脈、心電図波形と意味、心電図記録法、心拍出量と病気。	15分
11･12	心臓循環系心臓拍動に伴う諸現象とその総合的理解、全身の血管系の概観と血流配分、血管の構造と種類、血管系の特徴と機能。	講義 （担当山口）	房室弁、動脈弁、心房圧、心室圧、等容性収縮期、等容性拡張性、心音、心不全、動脈、静脈、毛細血管、肺循環、冠状循環、脳の血管系。	15分
13･14	心臓循環系-3。 各血管系の特徴、心血管機能の特徴と病気、リンパ管系の成り立ちと機能、脳脊髄液と酸塩基平衡にはたす役割。	講義 （担当山口）	全身血管系の血圧、肺動脈楔入圧、高血圧、肺高血圧、圧・化学受容器、内皮細胞、血管運動中枢、血管作用物質、リンパ流、脳室。	15分
15	腎臓の構成と機能。 腎の機能単位、原尿の生成と糸球体毛細血管圧、糸球体濾過量と濾過率、尿細管や集合管の機能とその調節、クリアランス、尿の正常と排尿のしくみ。	講義 （担当山口）	ネフロン、糸球体、ボーマン嚢、原尿、近位・遠位尿細管、集合管、アンジオテンシン、アルドロステロン、ADH、利尿薬、尿素、オルニチン回路、排尿反射。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅱ			【担当教員】	山口　賢一
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kenbo@med.niigata-u.ac.jp （山口）または kenbo2@gmail.com （山口）	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 講義日、非常勤講師控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

他の受講者の迷惑となる私語は厳に慎んで下さい。注意しても守れない場合は、退出を求めることがあります。
試験結果・レポートは他に支障をきたさない限り、返却します。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための。呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。

(方法)

時間ごとに「身近に起こる生理現象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

人体のメカニズムを学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための知識を習得する。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造と機能、内分泌器官とホルモンの作用、消化吸収、筋肉と収縮の機構、について説明することができる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ　著　「人体の構造と機能　第4版」医歯薬出版社　¥2,800
山本敏行・鈴木泰三・田崎京二　著　「新しい解剖生理学　改定12版」南江堂　¥3,200

【参考書】

田中越郎 「イラストで学ぶ生理学 第三版」 医学書院　¥2,808
Hansen JT, Koeppen BM 「ネッター 解剖生理学アトラス」 南江堂 ¥4,104
岡田泰伸（監修・翻訳）「ギャノング生理学　原著24版」丸善出版　¥10,800

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験成績、出欠の状態や学習意欲などを総合的に評価して行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	15	5				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	5						65
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10					10	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1･2	神経系の構造と機能-1。神経単位、興奮の発生と伝導のしくみ、シナプス伝達、神経伝達物質。	講義 (担当山口)	膜電位、脱分極、過分極、イオンチャンネル、躍動伝導、EPSP、IPSP、シナプス顆粒、エクソサイトーシス、シナプス後膜、受容体。	15分
3･4	神経系の構造と機能-2。人体の神経系の成り立ちと構造的・機能的分類、末梢神経系と中枢神経系。	講義 (担当山口)	脊髄、白質、灰白質、脊髄神経、脊髄神経節、脳神経、感覚神経、運動神経、自律神経、節前神経、節後神経	15分
5･6	神経系の構造と機能-2。脊髄と脳の構成、各領域区分の特徴と機能、脳波記録と波形の意味、睡眠と病気。	講義 (担当山口)	延髄、橋、中脳、小脳、視床、視床下部、神経核、大脳皮質、大脳辺縁系、大脳基底核、脳波、除波睡眠、REM睡眠。	15分
7･8	内分泌系とホルモンの作用-1。人体の調節物質の分類、内分泌器官の部位と種類、ホルモンの種類、ホルモンの受容体。	講義 (担当山口)	細胞膜受容体、細胞内受容体、ペプチド、アミン、アミノ酸、ステロイド、視床下部ホルモン、正中隆起、下垂体門脈、前葉ホルモン、後葉ホルモン	15分
9･10	内分泌系とホルモンの作用-2。甲状腺、副甲状腺、膵島から分泌されるホルモンの種類と作用。	講義 (担当山口)	サイロキシン、T3、T4、基礎代謝、産熱、上皮小体、カルシトニン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン、ソマトスタチン、血糖調節。	15分
11･12	内分泌系とホルモンの作用-3。副腎、腎臓、精線、心臓その他から分泌されるホルモンやオータコイドの種類と作用。	講義 (担当山口)	副腎皮質、副腎髄質、コルチコイド、カテコラミン、レニン・アンジオテンシン系、心房性ナトリウム利尿ホルモン、hGG、hPL、プロスタグランジン、ヒスタミン。	15分
13･14	筋肉とその収縮機構-1。筋肉の種類、骨格筋の構造、等尺性・等張性収縮、神経系筋接合部と活動電位の発生、黄紋筋収縮のメカニズム。	講義 (担当山口)	単収縮、強縮、アクチン、ミオシン、T管、筋小胞体、カルシウム、ギャップジャンクション、トロポニン、ATP、ADP。	15分
15	筋肉とその収縮機構-2。平滑筋収縮のメカニズム、筋収縮とそのエネルギー。	講義 (担当山口)	カルシウム、カルモジュリン、ミオシン軽鎖、ミオシンホスタファーゼ、解糖系、クエン酸回路、クレアチン燐酸。	10分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学Ⅲ			【担当教員】	宮岡　洋三
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	miyaoka@nuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 授業開講日非常勤講師控え室で面談	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

私語は他受講者の迷惑となるので、厳に慎んでください。注意しても守れない場合には、退出を求める可能性があります。

【講義概要】

(目的)

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。「生理学Ⅰ、同Ⅱ」では、主に「体液、水・電解質・浸透圧の調節、血液、心臓と血管の働き、腎臓の機能、神経機能の概要、内分泌器官とホルモンの作用、筋肉と運動」について学んだ。「生理学Ⅲ」では、主に「呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能」について学ぶ。これらにより，身体構造を基礎とした心身機能を理解する。

(方法)

各時間の講義内容中で、どこが「核となる内容」なのかを意識しながら授業を進める。また、生理学は「積み重ね」の学問であり、先に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」で学んだ内容が、「生理学Ⅲ」でもしばしば出てくる。既習内容の確認をするため、できるだけ頻繁に「生理学Ⅰ、同Ⅱ」の質問も交えて授業を展開していく。

【一般教育目標(GIO)】

・人体機能の機構（メカニズム）を学習し、専門分野の学習が円滑に行えるための基礎知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

・呼吸機能、消化・吸収機能、栄養・代謝機能、体温調節機能について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

原田玲子・佐伯由香・内田さえ(編)「人体の構造と機能（第5版）」医歯薬出版、¥2,800+税
内田さえ・原田玲子 他著「生理学（第3版）」医歯薬出版、¥4,800+税

【参考書】

山本敏行・鈴木泰三・田崎京二著「新しい解剖生理学（改訂12版）」南江堂、¥3,200+税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、講義中の小試験と期末試験の得点によっておこなう。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	30	0					100
評価指標	取り込む力・知識	60	30						90
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	呼吸機能-1：呼吸器系の構造、呼吸運動、肺容量、気道抵抗	講義	気道と肺、吸息筋・呼息筋、肺胞内圧・胸腔内圧、肺容量、死腔量、1秒率。	15分
2	呼吸機能-2：肺のガス交換、血液ガス分圧の変化	講義	拡散現象、肺胞換気量、ｶﾞｽ分圧、物理的溶解、化学的溶解。	15分
3	呼吸機能-3：血液ガス（酸素、二酸化炭素）の運搬と交換	講義	ヘモグロビン、酸素解離（結合）曲線、重炭酸イオン。	15分
4	呼吸機能-4：呼吸の神経的調節、気道の防御反射	講義	呼吸中枢、ﾍﾘﾝｸﾞｰﾌﾞﾛｲｴﾙ反射、機械受容器、くしゃみ、咳嗽	15分
5	呼吸機能-5：呼吸の化学性調節、異常呼吸	講義	末梢化学受容器、中枢化学受容野、呼吸の頻度・深度調節、チェーン-ストークス型呼吸、ビオー呼吸。	15分
6	自律神経機能　交感神経系・副交感神経系の構造と機能（一部「生理学Ⅰ、Ⅱ」の復習）	講義	二重神経支配、相反作用、緊張作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ消費的作用、ｴﾈﾙｷﾞｰ蓄積的作用。	15分
7	消化と吸収-1：消化器の構造と機能概要	講義	各器官の配置、横紋筋と平滑筋、消化管の構造、実質臓器の構造。	15分
8	消化と吸収-2：消化管の運動	講義	咀嚼・嚥下、分節運動、蠕動運動、胃-大腸反射、排便調節。	15分

9	消化と吸収-3：消化液の分泌	講義	唾液・胃液・腸液・膵液・胆汁分泌、各種消化酵素。	15分
10	消化と吸収-4：消化管運動と分泌の調節機構	講義	神経性調節（内在神経系、外来神経系）、液性調節（各種消化管ホルモン）。	15分
11	消化と吸収-5：三大栄養素（糖質・タンパク質・脂質）の吸収	講義	小腸絨毛、円柱上皮細胞、共輸送担体、単糖、ｱﾐﾉ酸、毛細血管、ﾄﾘｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ、ｶｲﾛﾐｸﾛﾝ、ﾘﾝﾊﾟ管。	15分
12	栄養と代謝-1：栄養素の摂取と欠乏、無機質、ビタミン類。	講義	異化・同化、五大栄養素、欠乏症、必須ｱﾐﾉ酸、必須脂肪酸、ﾌﾞﾄﾞｳ糖、ｸﾞﾘｺｹﾞﾝ、遊離脂肪酸、糖新生。	15分
13	栄養と代謝-3：物質代謝とエネルギー代謝、運動エネルギー	講義	中間代謝、吸収期、空腹期、熱量測定、燃焼熱、基礎代謝量、活動代謝量、エネルギー所要量、特異的作用。	15分
14	体温調節機能-1：体温の各種変動、熱産生、熱放出	講義	日内変動、季節変動、性ﾎﾙﾓﾝ、輻射・伝導・対流。	15分
15	体温調節機能-2：体温調節中枢（視床下部）、調節機構	講義	ふるえ、温熱性発汗、気化熱、視床下部、ｾｯﾄﾎﾟｲﾝﾄ。	15分

リハビリテーション学科

【科目名】	生理学実習			【担当教員】 木村　和樹、長谷川　裕、張馬　梅蕾、山村　千絵、星野　浩通、高橋　圭三、藤本　聡、黒瀬　雅之
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-11-0285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月～木曜日　9：00-17：00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

２年生全員が必修となっている。１年次に学んだ生理学の基本的な知識が身に付いているものとして進めていく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

実習時には白衣を着用すること。実習内容によって開講場所が異なるので注意すること。(事前に連絡する。)
班に分けて実習を行う。事故のないよう細心の注意を払いつつ、限られた時間内に実習が完結できるよう、きびきびと行動すること。
実習後のレポート提出については、担当教員の指示に従うこと。
２人～グループで協力して行う実習もあるので、欠席や遅刻のないよう、体調管理等に気を付けること。

【講義概要】

(目的)

生理学実習では生理学で学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2. 広い見識・教養・技術を習得する。

(方法)

皮膚感覚やバイタル測定に関する実習等は各自が体験し確認する。
筋電図や心電図や運動神経伝導速度や呼吸機能の記録と解析を行い、正常波形の特徴やバリエーションを理解する。

【一般教育目標(GIO)】

生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

生命現象の基礎となるデータの採取、結果の整理、考察ができる。

【教科書・リザーブドブック】

生理学実習プリント（オリエンテーション時もしくは各実習で配布）

【参考書】

貴邑 冨久子，根来 英雄・「シンプル生理学（改訂第 6 版）」南江堂，2008 年．¥3,132（税込）
大地陸男著・『生理学テキスト（第 7 版）』文光堂，2013 年．¥5,184（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。
すべての実習終了後に、本実習に関する記述式試験を実施する。
試験50%、レポート50%の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
最初の2コマ	オリエンテーション、レポートの書き方	座学	各講義で準備することを確認する。レポート作成と提出にあたり、注意する事項を理解する。	60
4コマ	・心電図の記録と解析	長谷川（裕）、張馬、(山村)【実習】	実習で準備する内容を確認し、心電図に関する生理学の知識の復習を行うこと。	60
4コマ	・ 皮膚感覚に関する実習	星野【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ 表面筋電図の記録	高橋（圭）【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ スパイロメーターを用いた肺容積の測定	木村【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
6コマ	・ 運動神経伝導速度の実習	黒瀬【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
4コマ	・ バイタルに関する実習	藤本【実習】	実習内容を理解し、レポート課題を行なうこと。	60
最後の2コマ	まとめ、レポート返却	座学	計7回の講義の内容を復習すること。	60

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅰ			【担当教員】	黒瀬　雅之
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	❒5コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。
講義では、細胞の一般的な機能から始まり、生体内での情報の伝達のKey Playerとなる電気信号：活動電位の発生メカニズムを段階を追って理解する。さらに、発生した電気信号が神経線維内を伝わる・情報の伝達機構に関して理解する。

(方法)

生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。
本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

細胞の特性と細胞内外の環境、膜電位の発生機序、神経細胞の興奮伝導、シナプスでの情報伝達機構などの基本的事項を理解する。

【行動目標(SBO)】

・静止膜電位とその発生機構を説明できる
・膜電位の発生機序を物理化学的に説明出来る
・活動電位の発生と興奮伝導のしくみを説明出来る
・無髄および有髄神経における活動電位の伝導機構を説明できる
・シナプスにおける伝達機構を説明出来る。

【教科書・リザーブドブック】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第８版）」文光堂、２０１７年

【参考書】

小澤　瀞司、福田康一郎著：「標準生理学（第７版）」医学書院

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、期末試験の結果により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	65							65
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	5							5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	細胞の構造と活動電位の発生① -生命の基本単位としての細胞-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	細胞の構造と活動電位の発生② -細胞膜の特性と内外の環境-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	細胞の構造と活動電位の発生③ -細胞膜における物質輸送の原則-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	細胞の構造と活動電位の発生④ -生体の電気信号とは？-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	細胞の構造と活動電位の発生⑤ -細胞が有する電位を変化させる３つのステージ-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	細胞の構造と活動電位の発生⑥ -安静時から脱分極、そして過分極へ-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	神経線維での興奮の伝導① -神経の仕事である情報伝達-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	神経線維での興奮の伝導② -神経線維の種類-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	神経線維での興奮の伝導③ -神経と神経のつなぎ目：シナプス-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	神経線維での興奮の伝導④ -シナプスにおける情報伝達機構-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	感覚総論 -わたしたちが持っている感覚とは-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	特殊感覚① -聴覚-	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	生体内での情報伝達機構のまとめ①	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
14	生体内での情報伝達機構のまとめ②	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
15	テスト	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書や講義時の配付資料を参照して行う。また、演習問題を用いて知識の再確認を行う。	

リハビリテーション学科

【科目名】	神経生理学Ⅱ			【担当教員】	黒瀬　雅之、山村　健介
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

生体は、環境の変化に対して柔軟かつ迅速に適応することが可能である。このような適応は、感覚・認知により環境の変化を正確に捉え、神経系での情報処理された結果、適切な運動・行動・自律反応を起こすことに基づいている。本講義では，このような神経系における情報処理と機能発現の基礎を学ぶ。

(方法)

神経生理学Ⅰで学んだ神経機構を基礎として、円滑な生体機能を営む上で重要となる背景にある神経機構を中心に、パソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。
本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「運動機能」、「覚醒・睡眠」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

神経生理学Ⅰで学習した神経細胞の基本的構造と機能をベースに、生体機能を円滑に遂行する上で重要となる、各種感覚情報の発生と伝達、機能発現に至る処理機構を知る。

【行動目標(SBO)】

・感覚の一般的な発生メカニズムを説明できる・体性感覚の受容器を概説できる
・化学感覚の受容器を概説できる・聴覚およびその受容器を概説できる
・視覚の受容機構を説明できる・脊髄の構造と脊髄反射を概説できる
・姿勢制御のしくみを概説できる・大脳皮質・小脳・大脳基底核による運動制御を概説できる
・脳波波形の種類を列挙できる・覚醒・睡眠と脳波を関連づけることができる

【教科書・リザーブドブック】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第７版）」文光堂、2013年

【参考書】

大地　陸男著：「生理学テキスト（第７版）」文光堂、2013年

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA規定に従う。
・成績評価は、期末試験の結果により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	65							65
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	5							5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	体性感覚① -感覚の種類と情報の開始-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
2	体性感覚② -触圧感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
3	体性感覚③ -温度感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
4	体性感覚④ -固有感覚-	講義 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
5	運動系① 脊髄の構造と運動ニューロン	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
6	運動系② 脊髄反射－1	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
7	運動系③ 脊髄反射－2	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
8	運動系④ 脳幹による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分

9	運動系⑤ 大脳皮質による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
10	運動系⑥ 大脳基底核・小脳による運動調節	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
11	脳波	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
12	覚醒と睡眠	講義 （担当：山村）	予習：該当する項目を教科書にて参照 復習：講義資料の重要事項に対する知識の再確認	予習 １５分 復習 １５分
13	まとめ①	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
14	まとめ②	講義・演習 （担当：黒瀬）	予習：該当する項目を教科書にて参照	予習 ６０分 復習 ６０分
15	テスト		予習：該当する項目を教科書や講義時の配付資料を参照して行う。また、演習問題を用いて知識の再確認を行う。	

リハビリテーション学科

【科目名】	病理学概論			【担当教員】	池上　喜久夫
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ikegami@nuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室にて対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・病理学は疾病の成因について学ぶ学問です。医療のスペシャリストを目指す者は全員受講することが望ましいと考えます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・解剖学・生理学を習得してることを前提です。事前にこの2教科を復習しておいてください。
・試験結果は他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

疾病よる人体の変化を細胞・組織学的だけでなく、身体症状を含めて明らかにすることを目的としています。また、リハビリテーションと関係が特に深い、脳・神経・循環器・運動器の疾患に関しては、とくに深く学びます。クライアントが抱える問題を病理学的に理解することで、治療の意義について、確信を持つことができます。

(方法)

・病理学総論が、講義の中心となります。
・教科書に沿って、授業を進めます。
・授業にレジメを配布します。授業中は、書き取りがあります。授業用のノートやルーズリーフ準備してください。
・レジメの表や写真を切り抜き、ノートやルーズリーフに貼り付け、授業ノートを作ってください。
・ハサミ、ノリを準備してください。

【一般教育目標(GIO)】

・疾病の一般的変化を理解できる。
・病理学的所見から病態を推測することができる。

【行動目標(SBO)】

・退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常の一般的状況を説明できる。
・疾病に至るPathwayを順を追って説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　病理学　医学書院　4,968円

【参考書】

なるほどなっとく病理学　南山堂　2,200円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

筆記試験にて行います。（成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従います。）

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	病理学の概要、病因論について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
3-4	退行性病変、進行性病変について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
5-6	代謝異常について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
7-8	循環障害について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
9-10	免疫について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
11-12	炎症、感染症について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
13-14	腫瘍について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	
15	老化・先天異常・奇形について、具体例を交えて説明する。	講義	授業後、教科書・授業メモ・資料等を用いて、ノートを作成する。	

リハビリテーション学科

【科目名】	医学概論			【担当教員】	伊藤　隆
【授業区分】	専門基礎分野(基礎医学)	【授業コード】	2-12-0295-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	tigunma@yahoo.co.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業終了後随時　ﾒｰﾙ質問・相談可	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

現在の臨床医学を学ぶ上で基礎となる科目である。確実な知識を得ることが必要である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

中学・高校時代に学習した生物学などの知識と結び付けて理解してほしい。これらの科目を復習しておくことが望ましい。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に関わる専門職業人として、医の本質について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識を身につける。

(方法)

健康の概念や疾病・障害の概念を中心に医学の発展や将来などについて、講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

医学の目指すものは何かを考え、生命の尊厳性、神秘性を実感する。健康がどのように障害され、どうしたら、予防や回復が図れるか、理解を深める。また、疾病の自然史を理解する。さらに、社会医学的なことがらについて理解する。

【行動目標(SBO)】

医学・医療の本質について設明できる。病むという状態がどのようにして起こるのか、宿主要因と環境要因の関わり合いで生じることを理解する。社会医学的な事象を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

医学概論、日野原重明著、医学書院

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。本講義に関する記述式試験を実施する。１００点満点で６０点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	健康・病気・医学の体系	講義		
3・4	病気の原因	講義		
5・6	病気による身体の変化	講義		
7・8	病気の診断	講義		
9・10	病気の治療とリハビリテーション	講義		
11・12	病気の予防	講義		
13・14	新しい医療システム	講義		
15	医学および看護の生命へのアプローチ、衛生統計	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ⅰ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@Kadai. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療・保健・福祉の専門科目の受講したり、論文を作成したりする時に基礎となる科目です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具及び教科書を持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

「公衆衛生学は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率を増進させる科学・技術である」とウィンスローにより定義されている。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや健康の保持・増進と疾病の予防の方法を学習する。当該科目と学位授与方針等の関連性；Ａ－１，２。

(方法)

授業は 教科書を中心にPowerPointのスライドを用いた説明を行う。黒板は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な社会医学の知識を習得するために、その基礎となる衛生・公衆衛生学及び疫学の理論を理解する

【行動目標(SBO)】

衛生学・公衆衛生学について説明できる。
健康と疾病について基本的な医学用語を用いて説明出来る。
疫学について説明できる。
EBMについて説明出来る。

【教科書・リザーブドブック】

監修　鈴木庄亮、久道茂　「シンプル衛生公衆衛生学２０１９」本体２４００円

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	衛生学・公衆衛生学・疫学の定義や特徴などを学びます。生活と健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
３・４	保健医療福祉の倫理と法律について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
５・６	保健統計と疫学の定義・特徴・調査の手順について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
７・８	疾病量の把握の方法やその分類・記述疫学について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
９・１０	生態学的研究・ケーススタディ・ケースシリーズ・クロスセクショナル研究とコホート研究について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１１・１２	症例対照研究と因果関係について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１３・１４	介入研究（ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究）について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１５	メタアナリシスとシステマティックレビューと科学的根拠に基づく医療（ｅｖｉｄｅｎｃｅ－ｂａｓｅｄ　ｍｅｄｉｃｉｎｅ，　ＥＢＭ)について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	公衆衛生学Ⅱ			【担当教員】	加藤　豊広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	k3027867@Kadai. jp	
【単位数】	1	【コマ数】	１５コマ	(オフィスアワー) メールにて質問・相談に応じます。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療・保健・福祉の専門科目を受講したり、論文を作成したりする時の基礎となる科目です。可能な限り受講することが望ましいです。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ノートと筆記用具及び教科書を持参すること。試験結果・レポートは他に支障がない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

「公衆衛生学は、コミュニティの組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率を増進させる科学・技術である」とウィンスローにより定義されている。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや健康の保持・増進と疾病の予防の方法を学習する。当該科目と学位授与方針等の関連性；Ａ－１，２。

(方法)

授業は 教科書を中心にPowerPointのスライドを用いた説明を行う。黒板は使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【一般教育目標(GIO)】

医療従事者として必要な社会医学の知識を習得するために、その基礎となる衛生・公衆衛生学及び疫学の理論を理解する。

【行動目標(SBO)】

健康管理について説明できる。
健康増進について説明できる。
生活習慣病の予防について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

監修　鈴木庄亮、久道茂　「シンプル衛生公衆衛生学２０１８」本体2400円

【参考書】

特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		75		20				5	100
評価指標	取り込む力・知識	65		10					75
	思考・推論・創造の力	5		5					10
	コラボレーションとリーダーシップ	5		5					10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２	公衆衛生学の実験とその手順について学びます。	講義・演習	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
３・４	疾病予防と健康管理について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
５・６	ライフスタイルと健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
７・８	感染症・循環器疾患・糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドロームの予防について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
９・１０	がん・腎疾患・アレルギー疾患・不慮の事故・自殺の予防について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１１・１２	公衆衛生学の実験の方法と実験の解析方法について学びます。	講義・演習	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１３・１４	物理的・化学的・環境要因と健康について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分 1 ５分
１５	衣食住と衛生について学びます。	講義	教科書の講義に該当する部分と授業で自分がとったノートを読み返しておくこと。	１５分

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅰ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月～木)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布します。
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学に関連する精神科疾患、心理検査、カウンセリングに関する要点を理解する。
将来のリハビリテーション現場や社会生活で、心理的な問題を抱える人々に関わることは少なくない。
そうした人々の心理的な状態を適切に理解し、心理的に援助するための知識を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。簡単な心理テストやワークなども用いて、人の心の査定や援助の方法の拝啓にある理論について学習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

精神疾患、心理アセスメント、心理療法に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

花園大学社会福祉学部臨床心理学科 編 『臨床心理学ことはじめ』 ナカニシヤ出版（2,000円＋税）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●イントロダクション 心理学としての臨床心理学	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●人格理論 性格(人格)の「類型論」と「特性論」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●精神疾患との関連と支援 Ⅰ 「統合失調症」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●精神疾患との関連と支援 Ⅱ 「気分(感情)障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●精神疾患との関連と支援 Ⅲ 「神経症性障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●精神疾患との関連と支援 Ⅳ 「アルコール関連障害」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●精神疾患との関連と支援 Ⅴ 「認知症の概念」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅰ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「臨床心理学概論Ｉ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床心理学概論Ⅱ			【担当教員】	川原　正広
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0305-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kawahara@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 11:00～13:30(月～木)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

テキストとなるプリントを配布しますが、
テストなどは原則として返却しません。

【講義概要】

(目的)

臨床心理学に関連する精神科疾患、心理検査、カウンセリングに関する要点を理解する。
将来のリハビリテーション現場や社会生活で、心理的な問題を抱える人々に関わることは少なくない。
そうした人々の心理的な状態を適切に理解し、心理的に援助するための知識を身につける。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針等との関連性；O-2

(方法)

主として配布資料を使用して講義を行います。簡単な心理テストやワークなども用いて、人の心の査定や援助の方法の拝啓にある理論について学習を行う。

【一般教育目標(GIO)】

精神疾患、心理アセスメント、心理療法に関する基本的な知識を身につける。
臨床心理学が果たす役割や支援のあり方を理解する。

【行動目標(SBO)】

授業で取り上げるキーワードを説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

テキストとなるプリントを配布する。

【参考書】

花園大学社会福祉学部臨床心理学科 編 『臨床心理学ことはじめ』 ナカニシヤ出版（2,000円＋税）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	●精神疾患との関連と支援 Ⅵ 「認知症の評価」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
3-4	●臨床心理学的リハビリテーション Ⅰ 「認知症への介入」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
5-6	●臨床心理学的リハビリテーション Ⅱ 「職場におけるメンタルヘルス」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
7-8	●臨床心理学的アセスメントⅠ：知能検査 「ビネー法・ウェクスラー法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
9-10	●臨床心理学的アセスメントⅡ：人格検査 「質問紙法・作業検査法・投影法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
11-12	●臨床心理学的介入：心理療法Ⅰ 「傾聴・支持的面接の技法」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
13-14	●臨床心理学的介入：心理療法Ⅱ 「臨床心理学的支援のあり方」を理解する	講義	講義ノートの完成	90
15	「臨床心理学概論Ⅱ」まとめ	講義		45

(16) 15ｺﾏ目に 連続予定	「臨床心理学概論Ⅱ」試験	試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅰ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0310-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。
人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程（Ⅰでは誕生～青年期前期まで）を学ぶことを目的とします。
①誕生から青年期前期至るまでの心身の発達の概要、②認知機能の発達及び感情・社会性の発達、③自己と他者の関係の在り方と心理的発達、④発達障害等非定型発達等についての基礎的な知識及び考え方を学びます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
胎児期及び乳幼児期～青年期中期に至るまでの
１．身体的発達の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

胎児期及び乳幼児期～青年期前期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
各ステージの心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

本郷一夫（編）「発達心理学」公認心理師の基礎と実践　第12巻，遠見書房，2018年，2,808円
向田久美子（著）「発達心理学概論」(放送大学教材)，NHK出版，2017年，2,808円
二宮克美/宮沢/大野木（著）「ガイドライン 生涯発達心理学」第２版，ナカニシヤ出版，2015年，2000円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。
発達心理学の基本知識につき、定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	発達心理学の基礎① ・生涯発達とは？ ・発達の規定要因	講義	発達の定義 遺伝と環境	30
2	発達心理学の基礎② ・発達研究の方法（概説）	講義	縦断的研究 横断的研究 コホート 実験・調査・観察	30
3	発達心理学の基礎③ ・発達段階とその課題	講義	発達段階と発達課題 ライフコース ライフサイクル	30
4	発達心理学の基礎④ ・発達初期の障害	講義	発達障害とは 早産・低出生体重児 代理母実験とホスピタリズム カンガルー・ケア 知的能力障害	30
5	胎児期・乳児期 ・一般的特徴 ・個性の発現 ・研究法	講義	生理的早産、子宮外胎児期 馴化・脱馴化法、吸啜法 選好注視法 感覚運動期（ピアジェ） 対象の永続性	30
6	胎児期・乳児期 ・社会性の芽生え ・発達の障害	講義	アタッチメント（愛着） ストレンジ・シチュエーション法 反応性愛着障害 基本的信頼	30
7	幼児期 ・全体的特徴 ・個性の発達の基礎	講義	前操作期 レディネス（ゲゼル） 発達の最近接領域（ヴィゴツキー）	30
8	幼児期 ・社会性の発達①	講義	自己中心性 第一反抗期 心の理論	30

9	幼児期 ・社会性の発達② ・発達のつまずきと障害	講義	遊びの発達（パーテンの分類） 自閉症スペクトラム障害	30
10	児童期 ・全体的特徴 ・認知発達	講義	具体的操作期、脱中心化 保存の概念 リテラシー	30
11	児童期 ・社会性の発達	講義	仲間関係 道徳観（向社会的行動）の発達	30
12	児童期 ・発達のつまずきと障害 まとめ	講義	注意欠陥多動性障害（ADHD） 学習障害（LD）	30
13	青年期前期（中学生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	思春期、第二次性徴 心理的離乳 第二反抗期 親子関係の変化	30
14	青年期前期（中学生の時期） ・自己概念	講義	アイデンティティの形成 Iと Me	30
15	青年期前期（中学生の時期） ・社会性の発達 ・問題行動：学校不適応	講義	性役割 学校ストレス・不登校 不良行為と非行	30

リハビリテーション学科

【科目名】	発達心理学Ⅱ			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0310-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。
人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程（Ⅱでは青年期中期～高齢期/死まで）を学ぶことを目的とします。
①認知機能の発達及び感情・社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③青年期後期～高齢期に至るまでの心身の発達、④発達障害等非定型発達、⑤高齢者の心理についての基礎的な知識及び考え方を学びます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
内容は、原則指定教科書に準じます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「生涯発達」という考え方を理解する。
青年期中期～高齢期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。
１．身体的発達（変化）の特徴を知る。
２．各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。
３．各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

一生涯の各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。
「疾病と障害の共存」「死の受容」等の観点から、特に高齢者の心理を理解する。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

本郷一夫（編）「発達心理学」公認心理師の基礎と実践　第12巻，遠見書房，2018年，2,808円
向田久美子（著）「発達心理学概論」(放送大学教材)，NHK出版，2017年，2,808円
二宮克美/宮沢/大野木（著）「ガイドライン 生涯発達心理学」第２版，ナカニシヤ出版，2015年，2000円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力	20							20
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	青年期中期（高校生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	自己意識の分化 性役割観 進路選択	30
2	青年期中期（高校生の時期） ・社会性の発達 ・発達の危機	講義	自己意識と社会適応 他者の存在機能（友人関係） 性行動と若年出産 摂食障害	30
3	青年期後期（大学生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	アイデンティティの形成	30
4	青年期後期（大学生の時期） ・社会性の発達	講義	職業意識とライフコース選択	30
5	青年期後期（大学生の時期） ・発達の危機 　ｱｲﾃﾞﾝﾃｨﾃｨの拡散・ひきこもり・就職困難 まとめ	講義	アイデンティティの拡散 モラトリアム ひきこもり	30
6	成人期前期（25～45歳） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	大人（社会人）としてのパーソナリティ	30
7	成人期前期（25～45歳） ・社会性の発達	講義	キャリア形成 ライフコース 恋愛と結婚	30
8	成人期前期（25～45歳） ・問題: ワーク・ライフ・バランス	講義	ワーク・ライフ・バランス 女性の就労：M字カーブ 育児	30

9	成人期中期（45～65歳） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	親としての発達 熟達化 アイデンティティの修正	30
10	成人期中期（45～65歳） ・社会性の発達	講義	Generativity：生成継承性 well-being	30
11	成人期中期（45～65歳） ・子どもの自立と親の介護 ・中年期危機	講義	子供の自立と夫婦関係の変化 親の介護 加齢による心身機能の変化 　更年期障害、うつ	30
12	成人期後期（65歳～） ・全体的特徴/個性の発達 ・退職後の生活設計	講義	平均寿命と健康寿命 QOL 加齢による心身機能の変化 再適応	30
13	成人期後期（65歳～） ・社会性の発達	講義	英知 サクセスフル・エイジング SOCモデル（補償を伴う選択的最適化）	30
14	成人期後期（65歳～） ・問題：加齢による認知的変化 　　喪失の体験	講義	認知症 喪失と悲嘆 モーニング・ワーク 独居・孤独 社会的サポート	30
15	成人期後期（65歳～） ・幸せな生涯とは？ ・「死の受容」	講義 確認テスト	自身の人生の受容（統合） 回想と自伝的記憶 キューブラ・ロス・モデル	30

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅰ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。
試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うためには、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

A.シェフラー，S.シュミット著　（三木・井上訳）「からだの構造と機能」　西村書店

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	循環器概論	講義	予習・復習	30
2	高血圧、動脈硬化	講義	予習・復習	30
3	狭心症、心筋梗塞	講義	予習・復習	30
4	心筋疾患、弁膜症、心不全	講義	予習・復習	30
5	心臓リハビリ	講義	予習・復習	30
6	心電図、不整脈	講義	予習・復習	30
7	呼吸器概論	講義	予習・復習	30
8	呼吸器感染症、肺がん	講義	予習・復習	30

9	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、間質性肺炎	講義	予習・復習	30
10	異常呼吸、喘息、呼吸不全、呼吸リハビリ	講義	予習・復習	30
11	消化器概論	講義	予習・復習	30
12	嚥下障害、消化管の炎症、潰瘍、癌	講義	予習・復習	30
13	肝炎	講義	予習・復習	30
14	肝不全、肝硬変、肝がん	講義	予習・復習	30
15	胆石症、急性膵炎、急性腹膜炎	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	内科学Ⅱ			【担当教員】	張馬　梅蕾
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0315-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	harima@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日14：00～17：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特記なし

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

「医療概論」、解剖学、生理学、病理学、生化学などの知識と結びつけるよう留意する。
　試験問題は返却は行わないが、求めがあった場合には開示する。

【講義概要】

(目的)

基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2

(方法)

教科書と配布資料を用いて、疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。

【一般教育目標(GIO)】

・PT・OT・RP の仕事を円滑に行うためには、常にその対象であるヒトの全身的な病態を正確に把握する。

【行動目標(SBO)】

・代表的な病態の概略を理解し説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

奈良勲・熊倉雅子他「標準理学療法学・作業療法学 内科学」第3版 医学書院

【参考書】

A.シェフラー，S.シュミット著　（三木・井上訳）「からだの構造と機能」　西村書店

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。
本講義に関する記述式試験を実施する。
成績評価は、試験を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	血液概論、造血と貧血	講義	予習・復習	30
2	白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫	講義	予習・復習	30
3	出血と止血、出血性要因と疾患	講義	予習・復習	30
4	糖尿病	講義	予習・復習	30
5	高脂血症、高尿酸血症	講義	予習・復習	30
6	視床下部、下垂体、尿崩症	講義	予習・復習	30
7	甲状腺疾患、カルシウム代謝、骨粗鬆症	講義	予習・復習	30
8	副腎疾患、カリウム代謝	講義	予習・復習	30

9	尿生成、急性腎不全	講義	予習・復習	30
10	腎炎、ネフローゼ、酸・塩基平衡	講義	予習・復習	30
11	慢性腎疾患、慢性腎不全、透析療法	講義	予習・復習	30
12	腎盂腎炎、尿路疾患	講義	予習・復習	30
13	免疫とアレルギー反応、自己免疫	講義	予習・復習	30
14	膠原病・類縁疾患	講義	予習・復習	30
15	感染症と免疫不全	講義	予習・復習	30
16	テスト			

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅰ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．医学専門用語が多いため，指定教科書だけでなく医学大事典（電子辞書含む）や解剖学，生理学などの分野で使用した教科書も参考に学習準備しておくと良いでしょう．
＊この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・複数の教員が担当します．
・事前に解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習（復習）を行ってください．
・小テスト，レポートは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

・整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解する．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

・骨，関節，軟部組織等身体各部位における代表的な整形外科疾患について講義を行います．また，必要に応じてグループワークを行います．

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な整形外科領域疾患の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科領域の疾患と解剖生理学を関連付けて説明できる
・整形外科，運動器疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を説明できる

【教科書・リザーブドブック】

・松野丈夫，中村利孝総編集，標準整形外科学 第13版，医学書院，2017年，¥9,400（税別）

【参考書】

・必要に応じて随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，小テスト，筆記試験を総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	第I編　整形外科の基礎科学 第1章　骨の構造，生理，生化学 第2章　骨の発生，成長，維持 第3章　骨の病態，病理 第4章　骨の修復と再生 整形外科	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
3，4	第5章　関節の構造，生理，生化学 第6章　関節の病態，病理 第7章　関節軟骨の修復と再生 第8章　筋・神経の構造，生理，化学 第9章　痛みの基礎科学と臨床	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	第II編　整形外科診断総論 第10章　診療の基本 第11章　主訴，主症状から想定すべき疾患 第12章　整形外科的現症の取り方 第13章　検査	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	第III編　整形外科治療総論 第14章　保存療法 保存療法の基本 保存療法各論 第15章　手術療法	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	第IV編　整形外科疾患各論 第29章　頚椎 第30章　胸郭 第31章　胸椎，腰椎	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	第IV編　整形外科疾患各論 第31章　胸椎，腰椎 第VI編　整形外科外傷学 第38章　脊椎・脊髄損傷	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	第VI編　整形外科外傷学 第38章　脊椎・脊髄損傷	講義（浅海）	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	整形外科学Ｉのまとめ	講義	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	整形外科学Ⅱ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0316-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

リハビリテーションに関連する整形外科分野全般を学習します．医学専門用語が多いため，医学大事典（電子辞書含む）などを準備しておくと良いでしょう．
＊この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学，生理学，運動学，組織学，病理学等の学習を行うこと．
小テスト，レポートは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

整形外科領域における疾患の病態，臨床症状，診断，治療などについて学習し，リハビリテーションに関わる運動器関連基礎疾患を理解する．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,3

(方法)

骨，関節，軟部組織等および身体各部位における分野の中で代表的な疾患について講義等を行う．

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な整形外科領域症例の説明ができる．

【行動目標(SBO)】

・整形外科領域の疾患を説明できる
・整形外科，運動器疾患に対するリハビリテーションの目的や役割を説明できる

【教科書・リザーブドブック】

・松野丈夫，中村利孝総編集，標準整形外科学 第13版，医学書院，2017年，¥9,400（税別）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，小テスト，筆記試験を総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1，2	第IV編　整形外科疾患総論 第16章　軟部組織・骨・関節の感染症 第17章　関節リウマチとその類縁疾患 第18章　慢性関節疾患（退行性，代謝性） 第19章　四肢循環障害と阻血壊死性疾患	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
3，4	第20章　先天性骨系統疾患 第21章　先天異常症候群 第22章　代謝性骨疾患 第23章　骨腫瘍　　第24章　軟部腫瘍 第25章　神経疾患，筋疾患	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
5，6	第V編　整形外科疾患各論 第26章　肩関節 第27章　肘関節 第28章　手関節と手	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
7，8	第32章　股関節 第33章　膝関節 第34章　足関節と足	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
9，10	第VI編　整形外科外傷学 第35章　外傷総論 第36章　軟部組織損傷 第37章　骨折・脱臼 第39章　末梢神経損傷	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
11，12	第VII編　スポーツと整形外科 第40章 スポーツ傷害 第41章 障害者スポーツ	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
13，14	第VIII編　リハビリテーション 第42章　運動器疾患のリハビリテーション 第43章　義肢	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60
15	確認とまとめ	講義・グループワーク	整形外科学関連分野の予習，復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅰ			【担当教員】	森　宏
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT, OT, ST全専攻の学生にとり専門家になるためには臨床神経学は不可欠な基礎知識です。国試にもたくさん出題される分野です。教科書は課題に従って熟読し、必ず全講義に出席して下さい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

復習が重要です。講義開始前に毎回小テスト（約10分）を実施し答え合わせします。これを出席表の代わりにします。前回の講義内容を十分復習してから受講すること。私語は他学生の迷惑になりますので慎むこと。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる、その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠です。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。

(方法)

神経系についての理解を深めるため、正常脳の構造や機能(神経解剖学・神経生理学)、そして障害された後の臨床病像(神経症候学)を学ぶ。そして意識障害、脳神経麻痺、運動・知覚麻痺、失調症、さらに高次脳機能障害等の総論に加え、各論では運動ニューロン疾患、神経変性疾患、脳血管障害、末梢神経疾患、筋疾患、などの病態について学ぶ。特に有病率が高い疾患については重点的に講義します。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心にしながら横断的に学ぶ。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

医療情報科学研究所編集『病気がみえる<vol.7>脳・神経』メディックメディア、¥3,990

【参考書】

坂井建雄、久光正監修　『ぜんぶわかる脳の辞典』成美堂出版、¥1,800
石橋　賢一著　『Navigate 神経疾患』　医学書院, ¥3,360

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および受講状況により総合的に評価する。稀に講義時間内にレポートの提出を求めることがありますが、最終成績評価にはレポート提出は不要です。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	臨床神経学のオリエンテーション 神経系の構造と機能、神経疾患の検査	講義	P1-55 P548-583	20
3.4	脳動脈と脳血管障害：脳卒中とは 脳梗塞、脳塞栓、一過性脳虚血発作	講義	P56-109	30
5.6	脳血管疾患：脳出血	講義	P110-123	30
7.8	脳動脈瘤とくも膜下出血	講義	P124-147	30
9.10	脳血管障害のリハビリテーション 高次脳機能障害	講義	P148-163	30
11.12	脳静脈、髄液循環とその障害 頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア	講義	P164-189	30
13.14	運動と感覚	講義	P190-241	30
15	脳神経とその障害	講義	P242-283	30

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床神経学Ⅱ			【担当教員】	森　宏
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

PT, OT, ST全専攻の学生にとり専門家になるためには臨床神経学は不可欠な基礎知識です。国試にもたくさん出題される分野です。教科書は課題に従って熟読し、必ず全講義に出席して下さい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

復習が重要です。講義開始前に毎回小テスト（約10分）を実施し答え合わせします。これを出席表の代わりにします。前回の講義内容を十分復習してから受講すること。私語は他学生の迷惑になりますので慎むこと。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる、その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠です。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。

(方法)

神経系についての理解を深めるため、正常脳の構造や機能(神経解剖学・神経生理学)、そして障害された後の臨床病像(神経症候学)を学ぶ。そして意識障害、脳神経麻痺、運動・知覚麻痺、失調症、さらに高次脳機能障害等の総論に加え、各論では運動ニューロン疾患、神経変性疾患、脳血管障害、末梢神経疾患、筋疾患、などの病態について学ぶ。特に有病率が高い疾患については重点的に講義します。

【一般教育目標(GIO)】

神経系の構造･機能･病態についての基礎を、臨床的視点を中心にしながら横断的に学ぶ。

【行動目標(SBO)】

神経系の構造･機能･病態について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

医療情報科学研究所編集『病気がみえる<vol.7>脳・神経』メディックメディア、¥3,990

【参考書】

坂井建雄、久光正監修　『ぜんぶわかる脳の辞典』成美堂出版、¥1,800
石橋　賢一著　『Navigate 神経疾患』　医学書院, ¥3,360

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および受講状況により総合的に評価する。稀に講義時間内にレポートの提出を求めることがありますが、最終成績評価にはレポート提出は不要です。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	60							60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	脊髄とその障害 末梢神経とその障害	講義	P284-317	20
3.4	″脱髄性疾患・神経変性疾患 筋疾患・代謝性神経障害″	講義	P318-401	30
5.6	感染性疾患・認知症	講義	P402-443	30
7.8	頭痛・てんかん	講義	P444-474	30
9.10	母斑症・先天奇形	講義	P475-495	30
11.12	腫瘍・外傷	講義	P496-547	30
13.14	神経疾患全般のまとめ	講義		30
15	復習、質疑	講義		30

リハビリテーション学科

【科目名】	小児科学			【担当教員】 松永　雅道、長谷川　聡、塚野　喜恵、佐藤　英利、榊原　清一、江村　重仁、福地　雄太、布施　拓也
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	S148	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	oshiki@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月・水・木　10:30～16:00

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

解剖学、生理学等の基礎が習得されているものとして講義を行うので、よく勉強しておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小児科学は非常に広い分野を学ぶので、膨大な知識を要求される。毎回配布のプリントを講義の内容をもとに、教科書だけでなく、参考書を調べるなどして自分なりに復習し、知識を習得することが必要となる。日々の復習を怠らないことが重要である。

【講義概要】

(目的)

小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つ」ということを理解した上で、その
成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら多角的に考えることを要求される。小児科学は、
そのための知識と技術を習得することを目的とする。

(方法)

教科書、プリントを使い、正常児の発育・発達についてスライドを使って写真や図を見たりしながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い知識を得る。

【一般教育目標(GIO)】

小児に対する適切なリハビリテーションを行うために、正常小児の成長・発達を正しく理解し、小児の疾患やその症状を知る。

【行動目標(SBO)】

1　正常小児の発育・発達、生理、栄養、仕組み等を理解する。。
2　小児の異常や疾患を簡潔に説明できる。
3　小児特有の問題点を理解し、解決方法を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学』 第5版　冨田 豊編集 医学書院

【参考書】

講義内に随時紹介

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則既定のＧＰＡ制度に従う。
提出課題・確認テスト、試験を下記表の割合を目安として、総合的に判断、評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		95						5	100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力	15							15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・小児の感染症の特徴について、学ぶ。 ・それぞれの臓器における感染症について、代表例について、学ぶ。 ・講義で配布するプリントを主体に、講義を行う。	講義 布施拓也先生	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野・小児科学』(医学書院)の第8章の内容をあらかじめ読んでおく。	９０分
3・4	・遺伝と小児の内分泌疾患について学ぶ ・スライド形式で講義を行う（プリント配布無）	講義 佐藤英利先生	講義ノートなどをもとに、復習する	90分
5・6	・小児の呼吸器疾患・アレルギー疾患について学ぶ ・スライド形式で講義を行う	講義 江村重仁先生	クループ、急性喉頭蓋炎、急性細気管支炎、肺炎、百日咳、結核、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について	90分
7・8	・小児の循環器疾患について ・小児の心肺蘇生法について	講義 長谷川聡先生	・教科書（標準理学療法学・作業療法学）の「循環器疾患」に準じて学習する ・小児の心肺蘇生法について学習し実践できるようにする	90分
9・10	・腎臓の発達、構造、機能の概略を知る。 ・血尿や蛋白尿を来す疾患について理解する。 ・脳神経の発達、構造、機能の概略を知る。 ・中枢神経疾患、てんかん、筋疾患、発達障害などについて理解する。	講義 福地雄太先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第13章A項、第5章B項、C項、D項、E項、H項を事前学習する。	90分
11・12	・新生児・未熟児疾患について学ぶ ・講義で配布するプリントを主体に講義を行う	講義 榊原清一先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第3章について、プリントと併せて復習する	90分
13・14	・小児の心身医学的疾患、虐待、その他について学習する。 ・講義で配布するプリントを中心に、解説する。	講義 塚野喜恵先生	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野・小児科学』(医学書院)の第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待(201～205ページ)の内容をあらかじめ読んでおく。	90分
15	・小児の消化器疾患・血液疾患・悪性腫瘍について学ぶ ・講義で配布するプリントを主体に講義を行う	講義 松永雅道先生	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　小児科学の第9章、第11章、第14章と脳腫瘍（p91）、Wilms腫瘍(p196)についてもプリントと併せて復習する	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	精神疾患とその治療			【担当教員】	的場 巳知子
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基本的な精神疾患を理解するだけでなく、医療人として心の病を持つ患者様に対する実際の対応の仕方を修得することが求められる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

この科目は公認心理師養成のための必修科目である。精神医学についての一般的な知識を身につけるだけでなく、ﾘｴｿﾞﾝ等を含み広くﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ分野および心理臨床分野での精神医学的ｱﾌﾟﾛｰﾁを下記①②③を中心に実践的に学ぶ。
①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）
②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化
③医療機関との連携

(方法)

疾患別の講義のほか、社会･司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。

【一般教育目標(GIO)】

・ ICD に準じた基本的な精神疾患について理解する。
・ 精神医学独特の専門用語について理解し、使いこなすことができる。

【行動目標(SBO)】

・ 自己を知り、他者との客観的対応について理解した上で、様々な治療技法について臨床現場で応用出来る

【教科書・リザーブドブック】

標準理学療法学･作業療法学-専門基礎分野(精神医学)第4版 2015年. 医学書院

【参考書】

奈良勲　鎌倉矩子　上野武治　標準理学療法学･作業療法学―専門基礎分野（精神医学）第4版 2015年. 医学書院

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

･成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	発達障害（神経発達症候群/神経発達障害群）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
3.4	精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族の支援、不安に関した障害、摂食障害、排泄障害、睡眠覚醒障害、秩序破壊的衝動制御、素行症、パーソナリティー障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
5.6	物質関連障害および嗜好性癖障害 認知症（神経認知障害）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
7.8	統合失調症（統合失調症スペクトラム障害） 双極性障害、抑うつ障害	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
9.10	向精神薬を始めてとする薬剤による心身の変化	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
11.12	法的変遷と実際	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
13.14	精神科治療における心理的アプローチについて 医学的治療と心理学的ケア 精神科医療における公認心理師の役割	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30
15	チーム医療（医療機関への紹介）	講義	該当する講義内容について各自調べておく	30

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション工学			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0345-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜～金曜　5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

前半は支援機器についての説明を行います。自分で支援機器を考える時間と発表する時間を設けます。
後半は生体力学の基礎について説明します。その際に、数学や物理学の知識を必要とします。
この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義資料を配りません。電子媒体で配布しますので、PCまたはタブレットがあると便利です。
車椅子など重いものを運ぶ場合が有るので、授業準備は複数名（3名）くらいで来てください。
試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法士は日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、理学療法を提供していく必要性がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3,O-3,R-1

(方法)

電子媒体にて資料を配布します。各自PCかタブレットを使ってください。
グループ学習とグループ発表を行います。
授業が終了後にICTを利用した、確認テストを行います。その際はoffice365のサインインが必要になります。

【一般教育目標(GIO)】

人間支援工学を習得するために、人間の動作や姿勢における生体力学を理解し、かつ人間支援機器の種類や使用方法について理解する。

【行動目標(SBO)】

生態におけるバイオメカニクスを説明する。
生活支援機器の種類や使用法を説明する。
生活支援機器の構造を理解し、自ら作成案を提示できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊福部達　福祉工学の基礎　株式会社コロナ社　4428円

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		25	25				100
評価指標	取り込む力・知識	25							25
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	リハビリテーション工学について	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
2	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
3	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子関連用品）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
4	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（車椅子シーティング）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
5	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（人の心の杖となれ）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
6	生活支援 （疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 移動支援機器（環境制御装置）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
7	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 演習（福祉機器の考察）	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
8	支援機器の作成案	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20

9	支援機器の作成作成案	演習 星野浩通 B講堂	設計図を元に作成しますので 設計図を作成してください。	20
10	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	演習 星野浩通 B講堂	発表 ICTによる評価	20
11	生活支援（疾患・障害別における工学的支援技術と福祉用具） 成果発表	演習 星野浩通 B講堂	発表 ICTによる評価	20
12	生体工学（バイオメカニズムに関する用語）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
13	生体工学（テコ）	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
14	生体工学（具体的な用途）①	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20
15	生体工学（具体的な用途）②	講義 星野浩通 B講堂	資料はポータルサイトからダウンロードしてください。 授業終了後はICTにて課題を行ってください。	20

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション医学			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0350-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・理学療法、作業療法、心理全専攻の学生にとり重要不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席して下さい。
・この科目は実務経験者対応科目です

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テストについては、返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医学が対象とする疾患、脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できることを目標とします。

当該科目と学位授与方針との関連性：A-3

(方法)

主として教科書と配布資料を使用して講義を行います。
脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学びます。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等についても学びます。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーション医学の基本を理解する。

【行動目標(SBO)】

脳卒中、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等について説明できる。
治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、評価、治療等を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊藤利之他編：「標準リハビリテーション医学　3版」医学書院　2012、￥7350

【参考書】

三上真弘，他：リハビリテーション医学テキスト，改訂第3版，南江堂，2010，￥5300

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	10					20	100
評価指標	取り込む力・知識	50	10						60
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	リハビリテーション医学総論 対象疾患、他オリエンテーション	講義 （高橋）	リハビリテーション概論で学んだことを復習しておくこと 今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp3-33)を読んでおくこと	30
2 前期	脳卒中の疾患概念：CI(脳梗塞)、CH(脳出血)、SAH(クモ膜下出血)等 脳卒中のリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp304-323)を読んでおくこと	30
3 前期	TBI(頭部外傷)疾患概要：脳挫傷(直撃・対側撃)、硬膜外血腫、慢性硬膜下血腫 TBIに対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp341-350)を読んでおくこと	30
4 前期	脊髄疾患概要：脊髄損傷（頸髄損傷、胸腰髄損傷）、二分脊椎（SBO） 脊髄損傷に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp324-340)を読んでおくこと	30
5 前期	小児の疾患概念：脳性まひ（CP）、重症心身障害児 小児疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書を読んでおくこと	30
6 前期	変性疾患概念：PD、ALS、SCD、MSA、MD、他 変性疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp366-386)を読んでおくこと	30
7 前期	整形外科疾患の概念：RA、OA、Fx、切断、その他運動器不安定症 整形外科疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （小林）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）今回の講義の復習。配布資料と教科書(pp416-426)を読んでおくこと	30
8 前期	内部疾患の概念：メタボリックシンドローム（高血圧、肥満、糖尿病）、心不全、呼吸器疾患 内部疾患に対するリハビリテーション	小テスト 講義 （高橋）	（予習）前回の講義の復習。 （復習）試験に向けて、これまでの全ての内容について確認しておくこ	30

リハビリテーション学科

【科目名】	医療安全管理学			【担当教員】	瀬尾　憲司
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0355-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	seo@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)授業開講日、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

医療人として仕事をする上で最も基本的な手技です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

真面目に授業を受けることができることが受講の条件です。実習用の人形を忘れないで準備すること

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションは心疾患や脳疾患を有した患者など、リスクを抱えながら進めることになる。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。

(方法)

緊急時の場合にはどうすれば安全なに援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止
に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。

【一般教育目標(GIO)】

・一次救命処置を実施できる。

【行動目標(SBO)】

・救命処置の手順を理解できる。
・救命処置の手順の科学的背景を理解できる。

【教科書・リザーブドブック】

AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために（医歯薬出版）
CPR・AED学習キットMiniAnne

【参考書】

AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために
医歯薬出版 瀬尾憲司(著) ISBN：9784263444887

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60		10		20		10	100
評価指標	取り込む力・知識	60				20			80
	思考・推論・創造の力			10				10	20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1、2	総論	講義	テキストを読んでおく	90
3, 4	バイタルサイン	講義	テキストを読んでおく	90
5, 6	バイタルサイン	講義・実習	テキストを読んでおく	90
7, 8	バイタルサイン	講義・実習	テキストを読んでおく	90
9, 10	成人のＣＰＲ	講義・実習	テキストを読んでおく	90
11, 12	ＡＥＤ	講義・実習	テキストを読んでおく	90
13, 14	小児のＣＰＲ・窒息	講義・実習	テキストを読んでおく	90
15	まとめ	講義・実習	テキストを読んでおく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	感染症学			【担当教員】	平田　恒彦
【授業区分】	専門基礎分野(臨床医学)	【授業コード】	2-12-0360-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時に対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後：臨床実習を行う学生には、感染症から自分自身を守るためには大切な知識を提供するので受講してほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

マスメディアの情報、ニュースに注目。聴講時の飲食・雑談および無言勝手な出入りは厳禁である。

【講義概要】

(目的)

数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。
そんな時に病原大腸菌O-157が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な場面があるが、忘れてはいけない医生物科学の分野である。そのため、感染症予防対策を伝染病という観点からも眺める。

(方法)

本講座においては、他の生物の兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疾学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現象の中での具体的な問題を考察する。

【一般教育目標(GIO)】

・感染症について理解し、医療現場（特にリハビリテーション現場）での感染予防について理解することができること。

【行動目標(SBO)】

・感染症に関する話題を語れるようになること。

【教科書・リザーブドブック】

岩田健太郎「絵でわかる感染症」講談社

【参考書】

講義内で必要であれば紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験およびレポート点等により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		85		10				5	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力	50						5	55
	コラボレーションとリーダーシップ	15							15
	発表力	10		5					15
	学修に取り組む姿勢	10		5					15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	感染症の全体像	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
3・4	抗菌薬（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
5・6	抗菌薬（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
7・8	症候からの感染症（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
9・10	症候からの感染症（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
11・12	微生物からの感染症（1）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
13・14	微生物からの感染症（2）	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分
15・16	院内感染・予防接種、その他	講義	新聞等マスメディアの中から課題を読み取る。	10分

17・18	只今の社会における感染症の実際	講義（補講）	同上	同上
19・20	当今の抗生剤等薬剤の在り方	同上	同上	同上
21	試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	リハビリテーション概論			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・リハビリテーションとは、理学療法、作業療法、心理全専攻(リハビリテーション専門職)の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

小テストについては、返却します。
試験の解答については、原則返却しません。

予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2,3

(方法)

テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。

【一般教育目標(GIO)】

保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。

【行動目標(SBO)】

１．リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。２．障害の概念や分類について説明できる。３．リハビリテーションの過程について説明できる。４．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。５．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。６．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

上好昭孝、他：医学生・コメディカルのための手引書，リハビリテーション概論，改訂第3版，永井書店，2014，￥3000（税別）

【参考書】

①砂原茂一著：リハビリテーション概論，岩波新書，1997、¥630
②真柄彰、他：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション概論，理工図書，2017，￥4700（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験および小テストにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10					10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１・２ 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 （高橋明美）	（予習）指定教科書に目を通しておく （復習）講義で配布された資料、教科書(pp1-18)を読むこと	30
３・４ 前期	健康と障害の概念、分類	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp19-30)を読むこと	30
５・６ 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp69-80,117-124)を読むこと	30
７・８ 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp81-98)を読むこと	30
９・１０ 前期	作業療法概論	講義 （澁井）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１１・１２ 前期	言語聴覚士概論	講義 （高橋圭三）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１３・１４ 前期	リハビリテーション心理概論	講義 （未定）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30
１５・試験 前期	医療とリハビリテーション専門職、役割 理学療法概論 試験	小テスト、講義 （高橋明美）	（予習）前回の講義の復習 （復習）講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	社会保障論			【担当教員】	鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0370-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	jajamaru@rose.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 出講時、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特に無し

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特に無し

【講義概要】

(目的)

本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生涯をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。

(方法)

講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を用いる。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。

【一般教育目標(GIO)】

・我が国における社会保障の変遷及び現行の社会保険、社会扶助の体系に則してその理念と機能について立体的に概説できる。

【行動目標(SBO)】

・我が国おける社会保障の変遷及びその特徴について概説できる。・社会保障の理念と機能、その体系・構造について立体的に説明できる。・社会保障の財源と費用について概説できる。・年金保険制度について概説できる。・医療保険制度について概説できる。・介護保険制度について概説できる。・公的扶助等の社会福祉制度・サービスについて概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

そのつど、プリントを配布します。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力	25		25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	生涯を支える社会保障の全体像（社会保障費における給付と負担の推移)	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	社会保険の仕組み	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	年金制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	介護保険の現状と課題	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	医療保険制度の概要	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	公的扶助	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15-16	これからの社会保障のあり方	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	公的扶助論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

本邦における公的扶助の概念と仕組みについて総論的に理解することを目的とする。また、生活保護制度の原理・原則・仕組みを理解することを目的とする。講義においては、公的扶助が必要となる低所得層の生活実態、女性の貧困、子どもの貧困などの実際を学び、個人責任のみとは言えない貧困の社会的背景を理解する。医療・福祉専門職として、貧困に対する捉え方、福祉ニーズが必要な方への支援態度について理解する。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は公的扶助が必要となった事例について配布資料・映像資料を用いてイメージを作り、その後、教科書・統計情報等の配布資料を用いながら、公的扶助に関する総論的講義を行います。憲法における生存権の保障をもとに、生活保護制度の理念、原理原則、発展過程の講義を行います。地域における低所得層支援の実際事例を伝えていきます。

【一般教育目標(GIO)】

・公的扶助に関する概略を理解する。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を理解する。
・憲法に保障された生存権の保障について理解する。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を理解する。
・低所得等により支援が必要な方の心情を理解し支援を必要とする方に対する専門職としての支援態度を理解する。

【行動目標(SBO)】

・公的扶助とはどのようなことか説明できる。
・公的扶助が必要となる様々な社会的背景を説明できる。
・憲法に保障された生存権の保障について説明できる。
・生活保護制度の原理・原則・仕組みの概略を説明できる。
・低所得等により支援を必要とする方に対する、専門職としての支援態度を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

杉村宏/岡部卓/布川日佐史[編]，よくわかる公的扶助　低所得者支援と生活保護制度，ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・公的扶助の理解を促進するための動画視聴/過去の新聞記事等（資料配布）
・厚生労働省/直近年度の厚生労働白書・直近年度の被保護者調査結果（資料配布）
・地方自治体発行の生活保護の手引き等（資料配布）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識	0	0	60	0	0	0	0	60
	思考・推論・創造の力	0	0	20	0	0	0	0	20
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	0	0	0	0	0
	発表力	0	0	0	0	0	0	0	0
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	0	0	0	20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	現代社会の中の貧困について理解する 「貧困」に対する学生が持つイメージと「貧困の実際」についての違いを理解する。 「見える貧困」「見えない貧困」について動画視聴・資料等を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	低所得・貧困における生活課題の実際について、動画や資料を基に解説講義を行う。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	本邦における公的扶助制度の発展・歴史について理解する。劣等処遇から権利としての公的扶助への発展について理解する。恤救規則、救護法、旧生活保護法、生活保護法の違いについて理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	生活保護制度について理解する。 憲法２５条生存権保障，生活保護法の原理について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	生活保護制度について理解する。 生活保護法の原則について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	生活保護制度について理解する。 生活保護法の仕組みの概略について理解する。 生活保護における各種加算について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	生活保護制度の現状について理解する。 厚生労働省の調査である被保護者調査等を用いながら、生活保護制度の現状と課題について理解する。	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	公的扶助論まとめ レポート課題を提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	権利擁護と成年後見制度論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0385-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

少子高齢社会では、認知症の方や障がいを持たれた方への支援の重要性は増しています。この科目は臨床で求められる権利擁護と成年後見制度の基礎的知識を養うものです。権利擁護を総論的に理解するとともに、その具体的な手法の一つである成年後見制度による支援方法を学びます。

(方法)

主として、教科書と配布資料を使用して、前半は権利擁護が必要になる事例を提示して、権利擁護についての講義を行ないます。後半では権利擁護の方法として、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制定背景、仕組みへの理解を深める。また権利擁護に関連する周辺法律である高齢者虐待防止法、障がい者虐待防止法、児童虐待防止法についても講義します。

【一般教育目標(GIO)】

・本邦における権利擁護に関する法制度の概略を理解する。
・本邦における成年後見制度の概略を理解する。
・本邦における日常生活自立支援事業の概略を理解する。
・本法における各虐待防止法の概略を理解する。

【行動目標(SBO)】

・権利擁護、成年後見制度、日常生活自立支援事業が求められる社会的背景を説明できる。
・成年後見制度における任意後見制度と法定後見制度の違いを説明できる。また、後見・保佐・補助の違いを説明できる。
・本邦における高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、児童虐待防止法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：永田祐/堀義昭/生田一郎/松宮良典[編著]，よくわかる権利擁護と成年後見制度（改訂版），ミネルヴァ書房，改訂第一刷，¥2600（税別）

【参考書】

・直近年度の厚生労働白書
・法務省　成年後見制度/成年後見登記パンフレット（印刷資料配布）
・新潟県社会福祉協議会　日常生活自立支援事業/成年後見制度パンフレット（印刷資料配布）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ			0					0
	発表力			0					0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	・オリエンテーション ・地域・家族・臨床現場における権利侵害事例 ・権利擁護が求められる社会的背景 ・権利擁護活動の実際（事例紹介）	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	・日本国憲法の基本原理理解 ・民法の理解 　意思能力、行為能力、契約、不法行為等 ・行政法の理解 　行政行為、不服申立等	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	成年後見制度① 　成年後見制度の概要 　後見・保佐・補助の概要 　任意後見制度 　成年後見人の具体的な職務	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	成年後見制度② 　成年後見制度の概要 　後見・保佐・補助の概要 　任意後見制度 　成年後見人の具体的な職務	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	関連領域である各種虐待防止法 　障がい者の権利に関する条約 　障がい者虐待防止法/高齢者虐待防止法/児童虐待防止法/消費者被害への対応	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	日常生活自立支援事業 　日常生活自立支援事業の概要 　専門員と生活支援員の役割 　日常生活自立支援事業の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	権利擁護に係る組織・団体の役割 　家庭裁判所/法務局/市町村/社会福祉協議会/弁護士/司法書士/社会福祉士/市民後見人/地域包括支援センター等の理解	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	権利擁護と成年後見制度まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	地域福祉論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・地域福祉に関する概略を理解する。
・コミュニティケアの概略を理解する。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。
・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。
・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。
・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。
・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：上野谷加代子/松端克文/山縣文治[編]，よくわかる地域福祉（第５版），ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・地域福祉理解を促進するための視聴動画
　制作・著作NHK　題名：NHKドラマ10「サイレント・プア」（放送年：2014.4.8-2014.6.3）
・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60				0	60
	思考・推論・創造の力			20				0	20
	コラボレーションとリーダーシップ			0				0	0
	発表力			0				0	0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	地域福祉という考え方 　地域住民一人ひとりを支える福祉活動	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3-4	地域福祉の理解 　地域福祉の理解を促進するため動画を視聴し、解説講義	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5-6	地域福祉の理念と概念 　コミュニティケア/ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/協働/エンパワメント/アドボカシー/地域自立生活	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7-8	地域福祉計画の理解 　地域福祉計画のとらえ方やプロセス 　地域福祉活動の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
9-10	地域福祉の歴史と展開（本邦を中心として） 地域福祉に関わる法・制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
11-12	地域福祉に関わるサービスと活動 地域福祉に関わる方法	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
13-14	地域福祉に関わるマンパワー・機関等の理解 ボランティアコーディネーター/ケアマネジャー/地域住民とボランティア/民生委員・児童委員/各種専門職/町内会・自治会/地域包括支援センター/社会福祉協議会/NPO	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
15	地域福祉論まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	地域福祉論			【担当教員】	林　正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)授業後とメールで質問相談に応じる	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。

(方法)

主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。

【一般教育目標(GIO)】

・地域福祉に関する概略を理解する。
・コミュニティケアの概略を理解する。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。
・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。
・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。
・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。
・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。
・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

教科書：上野谷加代子/松端克文/山縣文治[編]，よくわかる地域福祉（第５版），ミネルヴァ書房，¥2200（税別）

【参考書】

・地域福祉理解を促進するための視聴動画
　制作・著作NHK　題名：NHKドラマ10「サイレント・プア」（放送年：2014.4.8-2014.6.3）
・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。
・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60				0	60
	思考・推論・創造の力			20				0	20
	コラボレーションとリーダーシップ			0				0	0
	発表力			0				0	0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	地域福祉という考え方 　地域住民一人ひとりを支える福祉活動	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
2	地域福祉の理解 　地域福祉の理解を促進するため動画を視聴し、解説講義	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3	地域福祉の理念と概念 　コミュニティケア/ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/協働/エンパワメント/アドボカシー/地域自立生活	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
4	地域福祉計画の理解 　地域福祉計画のとらえ方やプロセス 　地域福祉活動の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5	地域福祉の歴史と展開（本邦を中心として） 地域福祉に関わる法・制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
6	地域福祉に関わるサービスと活動 地域福祉に関わる方法	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7	地域福祉に関わるマンパワー・機関等の理解 ボランティアコーディネーター/ケアマネジャー/地域住民とボランティア/民生委員・児童委員/各種専門職/町内会・自治会/地域包括支援センター/社会福祉協議会/NPO	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
8	地域福祉論まとめ 　レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第１回から第７回までに学習した内容を復習をしておく	90

リハビリテーション学科

【科目名】	福祉財政論			【担当教員】	鈴木　昭
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	jajamaru@rose.ocn.ne.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 出講時、非常勤控室で対応	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【講義概要】

(目的)

国・都道府県・市町村の役割とその財源、国と地方の関係、組織及び団体、専門職の役割等、地域福祉の基本的考え方について理解する。

(方法)

講義を中心に行う。財政については複雑になる場合が多いので、映像資料を適宜使用する。

【一般教育目標(GIO)】

・我が国の社会保障制度の変遷とその特徴について理解する。
・社会福祉の行財政について理解する。

【行動目標(SBO)】

・福祉行財政の動向について概説できる。
・社会保障費用統計の推移と現況について概説できる。
・社会福祉に関連する法規と課題について概説できる。
・財政の現況を踏まえこれからの社会保障について、自分の考えを組み立て概説できる。

【教科書・リザーブドブック】

そのつど、プリントを配布します。

【参考書】

直近年度の厚生労働白書　地方財政白書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	25		25					50
	思考・推論・創造の力	25		25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
3-4	社会福祉行政の実施体制（国と地方の役割）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
5-6	財政の機能（国家予算と地方財政）	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
7-8	生涯を支える社会保障の全体像とその財源	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
9-10	年金制度について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
11-12	高齢者福祉と介護保険制度	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
13-14	医療保険制度について	講義	講義内容・配布資料の復習	20分
15-16	少子高齢社会と社会保障の将来像	講義	講義内容・配布資料の復習	20分

リハビリテーション学科

【科目名】	高次脳機能障害学概論			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0400-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13：30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

高次脳機能障害とはいかなる疾患か、あるいは当該患者が社会生活を送る上でどのような支障を生じるかなどについて学ぶ科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では、神経解剖学的な基礎学力を必要とします。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのかなどについて学ぶ。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

上記の高次脳機能およびその障害像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能の抽出に使用する各種の検査等についても紹介する。

【一般教育目標(GIO)】

高次脳機能障害患者が抱える諸問題について、その病態を知りどのような形でアプローチすることが大切であるか評価を含めて理解する。

【行動目標(SBO)】

高次脳機能とは、どのようなものか言える。
高次脳機能障害にはどのような障害があるか言える。
それぞれの高次脳機能障害につて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

藤田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【参考書】

武田克彦　波多野和夫　著　「高次脳機能障害その概念と画像診断」中外医学社　2007年　￥7,800
森惟明　鶴見隆正　著　「PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見　第２版」医学書院　2010年　￥5,250

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
評価は、講義終了後の筆記試験にて行う。
出席点は評価に含めません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	高次脳機能障害とは	講義	復習	30分
3.4	映像による理解	講義	復習	30分
5.6	視覚の障害	講義	復習	30分
7.8	聴覚の障害	講義	復習	30分
9.10	触覚の障害	講義	復習	30分
11.12	病態認知の障害	講義	復習	30分
13.14	行為と記憶の障害	講義	復習	30分
15	前頭葉の障害	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	摂食・嚥下障害学概論			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0405-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金　10:30～12:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

摂食嚥下のメカニズムや、口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練等に興味を持ち、将来の臨床現場等で本領域の知識や技術を活用したいと思う学生が聴講するのが望ましい。
この科目は実務経験者（歯・口腔の機能とりわけ咀嚼機能に精通した歯科医師）が担当する科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

必要に応じて視聴覚教材や模型、臨床で使う器具類を使用しながら、講義を進めていく。
効率的な学習が行えるよう、講義室の座席は前の方から詰めて着席すること。
どの専攻の学生も、１年次に学んだ解剖学・生理学のうち、特に顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の事項について復習をしておくと、本講義が理解しやすくなる。
定期試験の答案は返却する。レポートは添削後に返却する。

【講義概要】

(目的)

はじめに、摂食嚥下機能と関係の深い顔面・口腔・咽頭・喉頭領域の構造と機能を学び、次に、正常な構造や機能が障害された場合の病態像や、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。本講義の履修は、臨床実習や臨床現場で摂食嚥下機能が低下した方に対応する際に、言語聴覚士のみならず理学療法士・作業療法士・心理専門職等のリハビリテーションスタッフが、どのように関わったらよいかを知ることにつながる。
当該科目と学位授与方針等との関連性；　A-2,3　P-3　O-2　R-1

(方法)

主として、毎回配布するプリントを使用して講義を行う。
また、必要に応じて視聴覚教材や模型を使用したり、口腔内を観察したり、臨床で使う器具類を提示・使用したり、嚥下食等の試食をしたり匂いを嗅いだりするなど、学生の五感をフルに活用させながら、立体的に講義を進めていく。

【一般教育目標(GIO)】

摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、理学療法士・作業療法士・心理専門職として、基本的な役割を果たすために、摂食嚥下の機能および障害領域に関する基礎的事項を理解し、将来の臨床現場で役に立つ知識や技術を身につける。

【行動目標(SBO)】

- 摂食嚥下障害とそのリハビリテーションの概要について説明できる。
- 摂食嚥下に関係する諸器官の解剖、生理について説明できる。
- 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて説明できる。
- 口腔機能に関する基本的な検査・診断・評価・訓練を実施できる。
- 摂食嚥下障害に関するチーム医療の概要について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

プリントを配布する。

【参考書】

向井美惠（他著）『摂食・嚥下障害ベストナーシング』 学研，2010年．　¥2,592（税込）
倉智雅子（編著）『言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学』医歯薬出版，2013年．¥4,752（税込）
山田好秋（著）　『よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版」医歯薬出版，2013年．¥4,536（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
すべての講義終了後に記述式試験を実施する。試験80%、授業中の態度（出席状況を除く）やレポート等課題の達成度20% の割合で総合的に評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	10		10					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	咀嚼とは何か。嚥下とは何か。 摂食とは何か。 （それぞれの定義を理解する。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
3,4	歯・口腔・顎・顔面の構造 歯・口腔・顎・顔面の機能 （口腔解剖学・口腔生理学の内容を深める。）	講義	（予習）これまでに学んできた 口腔・咽頭領域の 解剖・生理について 復習をしておく。	９０分
5,6	咀嚼の仕組み 咀嚼の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
7,8	嚥下の仕組み 嚥下の神経性制御機構 （生理学的観点から学ぶ。）	講義	（復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	９０分
9,10	摂食・嚥下障害の病態 摂食・嚥下障害の症状 誤嚥の種類 誤嚥性肺炎 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp14～p17を読んで おく。 次回の講義に関連する レポート課題を行う。	２０分 ７０分
11,12	摂食・嚥下障害の原因 機能的摂食・嚥下障害 器質的摂食・嚥下障害 加齢による摂食・嚥下機能の低下 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp17～p25を読んで おく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分
13,14	摂食・嚥下機能の検査・評価 摂食時の観察、医療面接、視診、触診 一般検査、神経学的検査、スクリーニング 非VF系嚥下機能評価 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp28～p47を読んで おく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分
15	摂食・嚥下リハビリテーション（訓練・治療） 摂食・嚥下訓練開始前の準備・ケア 訓練の組み立て 間接訓練、直接訓練 （臨床につなげる。）	講義	（予習）プリントp62～p72を読んで おく。 （復習）学修した内容を整理し ノートにまとめる。	３０分 ６０分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学概論			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0515-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・解剖学，生理学と関係の深い分野です．1年前期から学習した解剖学，生理学の内容を各自復習し，運動学の基礎学習としてください．
・PT専攻，OT専攻の学生向けの講義が中心となります．
※この科目は実務経験者対応科目です．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・A4サイズのレポート用紙を各自準備してください．
・レポート，小テストは随時返却します．

【講義概要】

(目的)

・リハビリテーションを実施するためには身体運動の分析が必要です．本講義では，運動に関する用語や，身体運動に関する基本的概念を学びます．また，身体の構造や機能について，解剖学や生理学の知識を統合し，運動の捉え方を学習します．
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-3

(方法)

・講義とグループワークを行いながら，身体運動に関するの知識を深めます．また事前・事後学習や発表，レポート作成などを行います．

【一般教育目標(GIO)】

・運動や動作の観察と分析を行うための基本的手段や用語を理解し，記述・説明することができる

【行動目標(SBO)】

・運動や動作に必要な身体機能と構造を理解し，記述・説明することができる
・姿勢や歩行について運動学用語を使って記述・説明することができる
・グループで協力して学習を進めることができる

【教科書・リザーブドブック】

・Donald A.Neumann 原著，カラー版　筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版，医歯薬出版（株），2018年，¥12,000（税別）・中島雅美，他編著，PT･OT基礎から学ぶ運動学ノート 第2版，医歯薬出版（株）,2016年，¥4,000（税別）

【参考書】

・中村隆一，他，基礎運動学 第6版，医歯薬出版，2003年，¥6,800（税別）
・解剖学，生理学の講義・実習で使用している教科書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則指定のGPA制度に従う．
・学内試験規定に基づく出席回数，提出課題（レポートを含む），授業態度（ディスカッション），小テスト，筆記試験を総合的に評価する．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10	10					100
評価指標	取り込む力・知識	70	10	5					85
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義ガイダンス ・解剖学，生理学などの確認	講義，小テスト	解剖学，生理学の復習	60
3,4	・下肢（1）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習	60
5,6	・下肢（2）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
7,8	・体幹	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
9,10	・上肢（1）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
11,12	・上肢（2）	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
13,14	・姿勢．歩行	講義，グループワーク	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60
15	・確認とまとめ	講義	解剖学，生理学の復習 前回実施内容の復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学各論Ⅰ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0520-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	sasaki@hur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動概論を履修していることが望ましい

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートは他に支障がない限り返却する

【講義概要】

(目的)

基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。
身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習について的確に説明
でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。
＊当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2
＊当該科目と学位授与方針との関連性：P-1,2

(方法)

教科書を使用し、講義を中心に行う。
レポート課題を適宜課す

【一般教育目標(GIO)】

・身体運動について、四肢と体幹の運動を理解し、動作の分析方法を理解できる
・体力と運動処方について理解できる
・正常な姿勢、歩行について理解し、異常動作の分析方法について理解できる
・運動発達、運動学習について理解できる

【行動目標(SBO)】

・身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した解剖学、生理学、運動学の基礎知識を用いて
説明することができる
・体力と運動処方の概要を説明することができる
・異常姿勢、異常歩行の概要を説明することができる
・運動発達、運動学習の概要を説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

基礎運動学各論　第6版　中村隆一他

【参考書】

担当教員より適宜指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90		10					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10		5					15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１、２	四肢と体幹の運動（上肢）	講義	予習）P213-245を読んでくること 復習）上肢の各関節の構造や動き、周囲の筋を理解する	60分
３、４	四肢と体幹の運動（下肢）	講義	予習）P246-271を読んでくること 復習）下肢の各関節の構造や動き、周囲の筋を理解する	60分
５、６	四肢と体幹の運動	講義	予習）P271-292を読んでくること 復習）体幹の動きを理解する	60分
７、８	運動と動作の分析①	講義	予習）P297-313を読んでくること 復習）動作分析が表記できるようになること （レポート：スクワットの動作分析）	60分
９、１０	運動と動作の分析②	講義	予習）P313-324を読んでくること 復習）身体運動能力検査について理解する	60分
１１、１２	体力と運動処方①	講義	予習）P327-332を読んでくること 復習）体力について理解する	60分
１３、１４	体力と運動処方②	講義	予習）P332-345を読んでくること 復習）運動処方について理解する	60分
１５	まとめ	講義	予習）本講義の疑問点を明らかにしておくこと 復習）身体の動き、体力について説明できる	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動学各論Ⅱ			【担当教員】	佐々木　理恵子、押木　利英子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	3-15-0520-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	佐々木：sasaki@hur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 佐々木　月木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

基礎運動学各論Ⅰを履修すること

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

レポートは他に支障がない限り返却する

【講義概要】

(目的)

基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。
身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習について的確に説明
でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。

(方法)

教科書を使用し、講義を中心に行う。
レポート課題を適宜課す

【一般教育目標(GIO)】

・身体運動について、四肢と体幹の運動を理解し、動作の分析方法を理解できる
・体力と運動処方について理解できる
・正常な姿勢、歩行について理解し、異常動作の分析方法について理解できる
・運動発達、運動学習について理解できる

【行動目標(SBO)】

・身体運動と動作のメカニズムについて、これまで学習した解剖学、生理学、運動学の基礎知識を用いて
説明することができる
・体力と運動処方の概要を説明することができる
・異常姿勢、異常歩行の概要を説明することができる
・運動発達、運動学習の概要を説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

基礎運動学各論　第6版　中村隆一他

【参考書】

担当教員より適宜指示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価は本学学則規定のGPA制度に従う
出席点は評価に含まない
成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10		10					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
１、２	姿勢（重心・姿勢の安定性）	講義 佐々木	予習）P347-364を読んでくること 復習）立位姿勢時の重心位置を理解すること 立位姿勢を安定させる因子を理解すること	60分
３、４	姿勢（立位姿勢の異常）	講義 佐々木	予習）P364-377を読んでくること 復習）異常姿勢を理解する	60分
５、６	歩行と異常歩行	講義 佐々木	予習）P379-404、410-415を読んでくること 復習）歩行周期を理解する	60分
７、８	姿勢と歩行（重心動揺計で自分の重心の動揺を測定する）	実技 佐々木	予習）受診動揺計で測定する課題を考えてくること （レポート：重心動揺計の測定データをまとめる）	60分
９、１０	運動発達①	講義 押木		60分
１１、１２	運動発達②	講義 押木		60分
１３、１４	運動学習	講義 押木		60分
１５	まとめ	講義 佐々木	本講義の疑問点を明らかにしておくこと 疑問点を解決する	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅰ			【担当教員】	小野　敏子
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0425-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 在室時(12：50～13：20)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

学生それぞれが目指す職業とかかわりの深い多くの専門職業を知るために、広い視野と柔軟性を持って授業に臨んでいただきたい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

同級生との討論・まとめ・発表などの自主的な活動を中心に授業が進むので、率直な意見交換ができるよう、日ごろから自分の考えや感じたことを他の人に伝えたり、他の人の意見を聴くように心がけていただきたい。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携 の重要性はもちろんのこと、心理職をはじめとするその他の多くの専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。

(方法)

実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーションサービスを効果的に進めていくために不可欠な多くの専門職を知り、その人々との連携の重要性を理解するとともに、チームの一員としての自分の近未来の役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

＊以下の事項について、班ごとで討論･記録し、発表することができる。
①リハ医療に関連する専門職10種類以上の名称と役割の概要について。
②多くの職種による連携の必要性について。
③急性期から終末期に至るまでの連携の重要性について。
④サービス継続、多職種連携のポイントについて。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		10					40
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・科目の流れについてのオリンテーション ・提示された仮想症例への最大限の援助を考えてみる（その１）。	・講義 ・討論 ・一部発表	・関連専門職について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
3・4	・提示された仮想症例への最大限の援助を考えてみる（その２）。	・講義 ・討論 ・発表	・専門職の役割を確認する。 ・討論メモをまとめる。	20分 20分
5・6	・関連する多くの職種とその役割、近未来の自分の職業とのつながりを考える（その１）。	・講義 ・討論 ・発表	・指定された専門職の検索 ・指定された専門職の役割と、近未来の自分の職業とのつながりをまとめる。	20分 20分
7・8	・関連する多くの職種とその役割、近未来の自分の職業とのつながりを考える（その２）。 ・隣接領域の専門職の歴史、役割などを学ぶ。	・発表 ・討論 ・講義	・発表内容を確認する。 ・討論のまとめをする。	10分 20分
9・10	・主に、脳卒中後の片麻痺の急性期・回復期にある方々に対するチーム医療を学ぶ。	・ビデオ供覧 ・講義 ・討論	・脳卒中について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
11・12	・高齢者に対するチーム医療、専門職連携について学ぶ。	・ビデオ供覧 ・講義 ・討論	・高齢者や高齢者施設について調べる。 ・高齢者に対する専門職の役割をまとめる。	20分 20分
13・14	・回復の望めない方々、終末期にある方々に対するリハビリテーション専門職の役割を考える。	・ビデオ供覧 ・討論	・終末期について調べる。 ・専門職の役割をまとめる。	20分 20分
15	・災害時の専門職の役割を考える。 ・サービスの継続性の重要さを学ぶ。 ・より良い連携のための留意点を学ぶ。	・講義 ・討論	・新聞・テレビその他で災害時の専門職の働きを調べる。 ・より良い連携のためのポイントをまとめる。	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	チーム医療学Ⅱ			【担当教員】	長谷川　裕、藤本　聡、佐々木　理恵子、松林　義人
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー)	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目を履修するには、チーム医療学Ⅰを履修していることが望ましい。
・この科目は、実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・遅刻は授業開始後20分まで、早退は終了20分前まで、それ以上の遅刻・早退はすべて欠席扱いとなります。
・試験・レポートのフィードバックが必要な学生は教員に申し出てください。

【講義概要】

(目的)

対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際的な事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。

(方法)

実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。

【一般教育目標(GIO)】

リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。

【行動目標(SBO)】

・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。
・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。
・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。
・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。

【教科書・リザーブドブック】

指定しない。

【参考書】

特に指定しない。
必要に応じて資料を配付する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・試験ならびに試験に準ずるレポート、討論への積極性、受講態度などを総合して評価する。
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		20				5	55
	思考・推論・創造の力	20		10				5	35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その１）－	・講義 ・討論 （担当：藤本）	・リハ専門職、関連専門職について確認する。 ・討論のまとめをする。	20分 20分
2	・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その２）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：藤本）	・新聞から災害時の連携に関する記事を探す。 ・災害時の専門職連携についてまとめる。	30分 20分
3	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その１；診療現場）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：長谷川）	・保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる。 ・症例に対する連携をまとめる。	20分 20分
4	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その２；訪問支援）－	・講義 ・討論 ・発表 （担当：長谷川）	・前回の連携について確認する。 ・症例に対する連携をまとめる。	10分 20分
5	・比較的若年者（壮年期）の急性期・回復期におけるチーム連携のための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：佐々木）	・急性期・回復期について確認する。 ・連携についてまとめる。	20分 30分
6	・高齢者を取り巻く医療・福祉の現状を学び、高齢者に対する専門職連携を深めるための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：佐々木）	・高齢者が置かれている医療・福祉の現状についてまとめる。 ・連携の方策についてまとめる。	30分 30分
7	・病院や施設における専門職連携の実際について知る。 －足を運んでの調査について考える－	・調査方法、調査内容などについての討論 （担当：松林）	・調査対象施設の選定 ・調査についてのまとめ	30分 30分
8	・終末期を生きる方々と家族を支える専門職連携を考える。	・講義 ・討論 ・発表 （担当：松林）	・終末期医療の現状について調べる。 ・連携についてまとめる。	30分 30分

リハビリテーション学科

【科目名】	老年心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0435-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で介護支援専門員としても高齢者のリハビリテーション及び生活支援に従事してきた経験から、高齢期の心身の変化の特徴と支援法について講じていきます。
これからの社会において高齢者の現状や問題は非常に重要です。高齢期に関心を抱く学生さんはどなたでも受講できます。
幸福な一生涯を実現するために私たちはどうような支援をすべきなのかを各人の観点から考えていただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

本科目では、科学的知見に基づいた加齢に伴う心身の変化とその問題を学ぶことを目的とします。
加齢に伴う、①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化についての基礎的な知識及び考え方を学びます。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。

【一般教育目標(GIO)】

「高齢期」の心身の変化の概要と克服すべき課題を知る。
１．高齢期の身体的変化の特徴を知る。
２．高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的変化の様相を知る。
３．高齢期を「サクセスフルエイジング」の観点からとらえていく。
４．高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

「サクセスフルエイジング」を心身両面から支援できる。
「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。
心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。
心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。
毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。

【参考書】

下仲 順子（編著)「老年心理学（現代心理学シリーズ)」／培風館／2012年／
佐藤眞一（編著）「「よくわかる高齢者心理学（〈わかる〉シリーズ)」 ／ミネルヴァ書房／2016年／2,700円
権藤 恭之（編集)「高齢者心理学（朝倉心理学講座）」／朝倉書店／2008年／3,888円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
定期試験を実施する。
出席点は評価に含まれない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	30						20	50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防	講義	復習（要点の整理） 平均寿命と健康寿命の差の推移を調べる。そして、健康寿命を維持する要因を考察する。	15
2	ライフサイクルと高齢期 ・高齢期に対する考え方の変化 ・サクセスフルエイジング	講義	復習（要点の整理） 高齢期を衰退期としてとらえるのではなく、積極的に生きる姿を理解する。	15
3	高齢期の身体機能① ・感覚機能の変化 ・感覚機能の低下が日常生活に及ぼす影響	講義	復習（要点の整理） 感覚機能（視聴覚等）低下が日常生活へ及ぼす影響を理解する。そして、その支援法を考案する。	15
4	高齢期の身体機能② ・運動機能の変化 ・運動機能の低下が日常生活に及ぼす影響 ・機能低下の予防	講義	復習（要点の整理） 「フレイル・サルコペニア」が日常生活へ、そして認知機能へ及ぼす影響を理解し、その予防法を考案する。	15
5	高齢期の認知機能 ・知的機能の変化 結晶性知能と流動性知能 ・記憶機能の低下	講義	復習（要点の整理） 知能には、記憶や数計算等の加齢に伴い低下していく機能と、経験の集積により’熟達化’していく機能があることを理解する。	15
6	高齢期のパーソナリティ ・高齢期の人間関係/家族関係の変化 ・加齢とパーソナリティの変化	講義	復習（要点の整理） 加齢に伴い職業生活や家族構成が変化し、自身の果たす役割も変化していく過程での再適応力を理解する。	15
7	高齢期の精神疾患① ・うつ ・喪失体験と孤独	講義	復習（要点の整理） 重篤な「喪失の体験」を理解し、その対象者に対する精神的健康の支援法を知る。	15
8	高齢期の精神疾患② ・認知症	講義	復習（要点の整理） 認知機能のメカニズムを理解し、その機能の維持及び予防法を知る。また、認知症への適切な対応法を理解する。	15

9	高齢期の精神療法① ・回想法	講義	復習（要点の整理） 「回想法」が生涯をまとめ上げ自我を統合していくうえで重要な役割を果たすことを理解する。	15
10	高齢期の精神療法② ・生きがい・心と体の健康づくり 「きょういく」と「きょうよう」 ・学習療法	講義	復習（要点の整理） 認知機能の低下予防（維持）の考え方、その具体的支援法を理解する。	15
11	高齢者の介護について ・介護者の心理	講義	復習（要点の整理） 介護ストレスとその中での介護者の人間的成長の過程を知る。	15
12	喪失体験と心のケア ・「二人称の死」 ・モーニングワーク	講義	復習（要点の整理） ’大切な人’の死を受け容れ、自身の生活へ再適応させていく心の過程を理解し、適切な支援を考察する。	15
13	「死の受容」① ・キューブラ・ロス モデル	講義	復習（要点の整理） 自身の死を受け容れていく心理過程を理解する。	15
14	「死の受容」② ・キューブラ・ロス モデルの臨床応用	講義	復習（要点の整理） キューブラ・ロス モデルと介護者側の心の変化の類似点を知る。	15
15	まとめ ・超高齢社会における 高齢者の社会参加 高齢者の就業支援と経済的自立	講義	復習（要点の整理） 高齢者の社会参加（再就業及びボランティア等）が本人のよりよく生きていく原動力となり、大きな社会貢献ともなることを理解する。	15

リハビリテーション学科

【科目名】	認知症			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13:30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。

【一般教育目標(GIO)】

高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく把握する。

【行動目標(SBO)】

認知症のタイプや症状について説明できる。
認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。
認知症者に対するトレーニング法について実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊林克彦　著・「認知症を知る」考古堂書店、2011年　￥1,500

【参考書】

田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	認知症とは	講義	復習	30分
3.4	認知症になる原因は	講義	復習	30分
5.6	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	復習	30分
7.8	認知症者の心の内側は	講義	復習	30分
9.10	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	復習	30分
11.12	認知症者の脳の画像は	講義	復習	30分
13.14	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	復習	30分
15	認知症の治療法	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	認知症			【担当教員】	伊林　克彦
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0440-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜　13:30～16：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。
試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。

【講義概要】

(目的)

認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。
当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3

(方法)

座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。

【一般教育目標(GIO)】

高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく把握する。

【行動目標(SBO)】

認知症のタイプや症状について説明できる。
認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。
認知症者に対するトレーニング法について実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

伊林克彦　著・「認知症を知る」考古堂書店、2011年　￥1,500

【参考書】

田郁代　他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年　￥4,725

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	認知症とは	講義	復習	30分
2	認知症になる原因は	講義	復習	30分
3	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	復習	30分
4	認知症者の心の内側は	講義	復習	30分
5	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	復習	30分
6	認知症者の脳の画像は	講義	復習	30分
7	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	復習	30分
8	認知症の治療法	講義	復習	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	薬理学			【担当教員】	桑島　治博
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。
解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。
（フィードバック方法）
最終コマ講義の際に課題レポート演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。

(方法)

教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

①用量と薬理作用の関係を説明する。
②薬物の作用機序を説明する。
③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。
④薬物の副作用・有害作用を説明する。
⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。

【教科書・リザーブドブック】

イラストで理解するかみくだき薬理学　南山堂　¥2,300

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。
・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
3.4	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
5.6	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
7.8	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
9.10	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
11.12	呼吸期・消化器・物質代謝に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
13.14	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
15	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（２）漢方薬	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	薬理学			【担当教員】	桑島　治博
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。
解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。
（フィードバック方法）
最終コマ講義の際に課題レポート演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。

(方法)

教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

①用量と薬理作用の関係を説明する。
②薬物の作用機序を説明する。
③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。
④薬物の副作用・有害作用を説明する。
⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。

【教科書・リザーブドブック】

イラストで理解するかみくだき薬理学　南山堂　¥2,300

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。
・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	薬理学の基礎知識（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
2	薬理学の基礎知識（２）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
3	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
4	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
5	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
6	呼吸期・消化器・物質代謝に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
7	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（１）	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０
8	化学療法（感染症・悪性腫瘍）に用いる薬物（２）漢方薬	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	３０

リハビリテーション学科

【科目名】	生化学			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金　9:30～18:00 の間の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。

【講義概要】

(目的)

生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3

(方法)

本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配布資料を使用して講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。

【行動目標(SBO)】

・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。
・生体物質の代謝とその調節について説明できる。
・代謝の異常について説明できる。
・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

三輪一智他「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（2）生化学（第13版）」医学書院　2014年　￥2,376

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
試験80%　レポート20%の割合で総合的に評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	生体を構成する物質 ●細胞の構造と機能	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
3.4	生体を構成する物質 ●糖質 ●脂質 ●タンパク質 ●核酸	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
5.6	生体を構成する物質 ●水と無機質 ●血液と尿 ●ホルモンと生理活性物質	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
7.8	生体内の物質代謝 ●代謝 ●酵素 ●ビタミンと補酵素	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
9.10	生体内の物質代謝 ●糖質代謝 ●脂質代謝 ●タンパク質代謝 ●核酸代謝	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
11.12	代謝の異常 ●骨粗しょう症 ●糖尿病（糖質代謝異常） ●脂質異常症（脂質代謝異常） ●高尿酸血症・痛風（核酸代謝異常）	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
13.14	代謝の異常 ●先天性代謝異常症 ●その他の代謝異常疾患	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
15	遺伝子の構造と発現調節 ●複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	生化学			【担当教員】	山村　千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金　9:30～18:00 の間の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。

【講義概要】

(目的)

生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3

(方法)

本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配布資料を使用して講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。

【行動目標(SBO)】

・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。
・生体物質の代謝とその調節について説明できる。
・代謝の異常について説明できる。
・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

三輪一智他「系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能（2）生化学（第13版）」医学書院　2014年　￥2,376

【参考書】

なし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。
試験80%　レポート20%の割合で総合的に評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	生体を構成する物質 ●細胞の構造と機能	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
2	生体を構成する物質 ●糖質 ●脂質 ●タンパク質 ●核酸	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
3	生体を構成する物質 ●水と無機質 ●血液と尿 ●ホルモンと生理活性物質	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
4	生体内の物質代謝 ●代謝 ●酵素 ●ビタミンと補酵素	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
5	生体内の物質代謝 ●糖質代謝 ●脂質代謝 ●タンパク質代謝 ●核酸代謝	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
6	代謝の異常 ●骨粗しょう症 ●糖尿病（糖質代謝異常） ●脂質異常症（脂質代謝異常） ●高尿酸血症・痛風（核酸代謝異常）	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
7	代謝の異常 ●先天性代謝異常症 ●その他の代謝異常疾患	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分
8	遺伝子の構造と発現調節 ●複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習：　該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習：　講義ノートを整理する。	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	栄養学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0455-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で摂食嚥下機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人が生きていく上での栄養摂取の重要性を心と身体の両面から講じていきます。
栄養学の基礎知識は、多種多様な専門職のすべての人に必要なものとなっています。
将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

毎回、出欠及び遅刻・早退を確認します。申し出のない中途退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にミニレポートを課す場合があります。
また、食生活調査や栄養計算等も随時課します。

【講義概要】

(目的)

私たちは、生命誕生から生涯を終えるまで、生命活動を維持するために水分と栄養素を摂取し続ける必要があります。
本講義では、「栄養学」の側面からも心と身体の両面からサポートでき、種々の疾患を予防できる基礎を学ぶことを目的とします。
当該科目と学位授与との関連性：A-3, P-3, O-2, S-3, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心になります。
毎回、スライド資料及び関連する参考資料は配布します。
その他、自身の身体・栄養調査等の演習を行っていきます。

【一般教育目標(GIO)】

「食べる」営みが生命維持に必須であることを理解し、生物・栄養的な側面から食品の栄養特性と物性が説明できる。
栄養と健康維持・増進、疾病予防及びリハビリテーションとの関連を説明できる。
「食べる」営みが楽しみや生きがいなどQOLに関わり、心理・社会的な側面からも人の命を支えていることを理解できる。
低栄養状態にストレスが加わるとうつ状態を招き、種々の問題行動を発生させることを知る。

【行動目標(SBO)】

栄養を食品面と身体面の双方から説明することができる。
ライフステージやライフスタイルの変化に伴う食行動の特徴とその問題点を理解し、指導することができる。
医療及びリハビリテーションおける栄養管理法の基礎を修得する。
経口摂取による栄養が、リハビリテーション効果に及ぼす影響を説明できる。
栄養状態と心理状態の関係性を理解し、臨床現場で心身両面から適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

「新カラーチャート食品成分表」 教育図書　￥740

【参考書】

田村明（著)「イラスト栄養学総論」東京教学社; 第7版（2018）　￥2,160
栢下淳・若林秀隆（編著）　「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎」医歯薬出版（2013/12）　¥3,990
若林秀隆（編著　）「リハビリテーション栄養 ハンドブック」医歯薬出版（2012/11）　¥3,780

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20	30					100
評価指標	取り込む力・知識	30	20						50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	要介護高齢者の身体状況 ・タンパク質・エネルギー低栄養状態(PEM)とは？ ・栄養状態の評価法	講義	加齢による「食べること」についての障害を知り、適切な栄養サポートを学ぶ。	
2	低栄養状態と身体・精神機能 ・栄養スクリーニング	講義	低栄養とうつ	15
3	何故食物を摂取するのか？ ・人体の構成 ・消化と吸収	講義	指定教科書　p.4-5 指定教科書　p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
4	経口摂取と摂食・嚥下障害 ・栄養投与ルート	講義	指定教科書　p.16-17 栄養素の吸収のしくみを知る	15
5	栄養素Ⅰ_３大栄養素 ・食品の成分と栄養特性	講義 一部演習	指定教科書　p.5-11 炭水化物、脂質、たんぱく質の種類と機能を知る	15
6	栄養素Ⅱ_５大栄養素 ・ビタミンの種類 ・ビタミンの生理作用 ・ビタミンの過不足による症状	講義	指定教科書　p.12-15 ビタミンの種類と機能を知る	15
7	栄養素Ⅱ_５大栄養素 ・ミネラルの種類 ・ミネラルの生理作用 ・ミネラルの過不足による症状	講義 確認テスト	指定教科書　p.12-15 ミネラルの種類と機能を知る	15
8	食生活と健康 ・栄養表示/特別用途食品/保健機能食品	講義	指定教科書　p.25 指定教科書　p.254-259	30

9	代謝と栄養所要量：栄養ケアプラン （演習）栄養計算	講義 一部演習	指定教科書　p.28-29 指定教科書　p.20-21 エネルギー代謝と食事摂取基準を学ぶ レポート作成	60
10	食品群別摂取量 ・栄養バランスガイド（演習）	講義 一部演習	指定教科書　p.22-27 基本的な栄養アセスメントを学ぶ レポート作成	60
11	ライフステージによる食生活上の留意点	講義 一部演習	指定教科書　p.32	15
12	食生活と生活習慣病 ・脳血管疾患、心疾患、糖尿病等 ・食生活と身体・精神機能	講義	指定教科書　p.30-31 栄養と疾患の関係を理解し、適切な栄養管理ができる。	15
13	介護予防のための栄養食事管理法 ・栄養状態の評価法：栄養ケアマネジメント(NCM)	講義	資料配布 食物摂取状況調査	60
14	介護予防のための栄養食事管理法 ・栄養スクリーニングと栄養アセスメント	講義 一部演習	資料配布 身体計測と臨床検査	30
15	まとめ	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学Ⅰ			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 教員来校時・研究室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」のセット受講となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。

・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3

(方法)

講義を中心として基本的理論を学修する。
本科目は主として、「健康づくり施策概論」、「運動生理学」、「機能解剖とバイオメカニクス」、「体力測定と評価」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・健康と健康づくりの概念と歴史、わが国の疾病状況と現状をふまえ、それを推進する保健医療・介護の制度等を理解する。
・身体活動・運動・スポーツ実施時の生体反応や、トレーニングによって身体機能がどのように適応するか、また体力と発育・発達と老化の関係について理解する。
・運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連づけ、力学的視点から運動の仕組みを理解する。
・各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について学ぶ。

【行動目標(SBO)】

・健康と健康づくりの概念と歴史およびそれを推進する保健医療・介護の制度等を説明できる。
・身体活動・運動・スポーツ実施時の生体反応や、トレーニングによって身体機能がどのように適応するか、また体力と発育・発達と老化の関係について説明できる。
・運動器の骨、筋、靭帯、関節と機能を関連づけ、力学的視点から運動の仕組みを説明できる。
・各体力構成要素の具体的な測定方法ならびに体力テストの実践と評価について実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団）¥4,900

【参考書】

・改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集 NESTA JAPAN ¥2,160
・健康長寿社会を創る 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 ¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	10	30				10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	30					65
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	健康づくり施策(1) p3-8 ・オリエンテーション ・健康の概念、わが国の現状と健康づくり施策について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	10分 20分
3-4	健康づくり施策(2) p8-15 ・生活習慣病とその予防、メディカルチェックについて学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	運動生理学(1) 19-21 ・運動とエネルギーの出力系について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	運動生理学(2) p21-34 ・運動と筋・神経系について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	運動生理学(3) p34-38 ・発育・発達の概要、老化の過程と機能変化について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	機能解剖とバイオメカニクス(1) p42-48 ・骨格、筋、心臓、血管、呼吸器の構造と機能について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	機能解剖とバイオメカニクス(2) p48-53 ・バイオメカニクスの基礎と応用について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	体力測定と評価 p71-96 ・体力測定の理論・形態及び体脂肪の測定・体力について学ぶ。 ・測定の実際と評価、データ処理について学ぶ。	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学Ⅱ			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 教員来校時

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」のセット受講となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。
・当該科目と学位授与方針等との関連性; A-3

(方法)

講義を中心として基本的理論を学修する。
本科目は主として、「栄養摂取と運動」、「健康づくりと運動プログラム」、「運動指導の心理学的基礎」、「運動障害と予防・救急処置」などを講義する。

【一般教育目標(GIO)】

・身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中の代謝、生活習慣病を防ぐための望ましい食事を理解する。
・生活習慣病予防における運動の必要性と効果について学び、安全にかつ効果的な運動プログラムを理解する。
・健康行動に影響を与える要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響、個別指導での動機づけとカウンセリングを理解する。
・運動実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防法理解する。

【行動目標(SBO)】

・身体活動・運動に対する各栄養素の役割及び活動中の代謝、生活習慣病を防ぐための望ましい食事を説明できる。
・生活習慣病予防における運動の必要性と効果について学び、安全にかつ効果的な運動プログラムを立案できる。
・健康行動に影響を与える要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響、個別指導での動機づけとカウンセリング法説明できる。
・運動実施中に発生しうる救急疾病や外科的損傷の病態を理解し、発生時の対応や予防ができる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団）¥4,900

【参考書】

・改訂2版 健康運動実践指導者試験 筆記対策 分野別&模擬問題集 NESTA JAPAN ¥2,160
・健康長寿社会を創る 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 ¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)
・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	10	30				10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	15					50
	思考・推論・創造の力	25		15					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	栄養摂取と運動(1) p57-62 ・栄養学の基礎	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	10分 20分
3-4	栄養摂取と運動(2) p62-67 ・食生活と運動、体重調節	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	健康づくりと運動プログラム(1) p99-103 ・トレーニングの原則、健康増進のための運動効果、身体活動指針の具体例	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	健康づくりと運動プログラム(2) p103-108 ・運動プログラムの基本的考え方、目標設定	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	健康づくりと運動プログラム(3) p108-116 ・運動のプログラミング	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	運動指導の心理学的基礎 p119-126 ・運動における行動変容	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	運動障害と予防・救急処置(1) p205-218 ・内科的障害 ・救急蘇生	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	運動障害と予防・救急処置(2) p218-226 ・整形外科的障害 ・外科的救急処置とテーピング	講義	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	健康実践科学実習			【担当教員】
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	34	(オフィスアワー) 教員来校時・研究室にて対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は「健康実践科学Ⅰ」・「健康実践科学Ⅱ」を履修することが前提です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などを目的とした実習（健康管理指導、エアロビックスなどの運動プログラム、ストレッチング、体力測定など）を行い内容を理解する。

(方法)

「健康実践科学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ理論を基に各種の運動プログラム・指導を体験し理解する。

【一般教育目標(GIO)】

・健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導く方法について理解する。

【行動目標(SBO)】

・健康の保持・増進を目的とした日常的に行う代表的な運動の実践と集団への指導方法を学び、多くの人が安全で効果的に楽しく継続できるように導くことができる。

【教科書・リザーブドブック】

「健康運動実践指導者養成講習会テキスト」（財団法人健康・体力づくり事業財団） ¥4,900

【参考書】

・健康長寿社会を創る　公益財団法人 健康・体力づくり事業財団　¥1,080

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	20		50		10	100
評価指標	取り込む力・知識		10	10		20			40
	思考・推論・創造の力		10	10		20			40
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	体力測定と評価・実習(1) p71-81 ・有酸素性および無酸素性体力の測定法 ・身体組成測定	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
3-4	体力測定と評価・実習(2) p81-96 ・新体力テスト ・体力測定結果の分析・評価・活用	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
5-6	運動障害と予防・救急処置・実習(1) p211-218 ・救急蘇生法	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
7-8	運動障害と予防・救急処置・実習(2) p218-226 ・外科的救急処置とテーピング	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
9-10	健康づくり運動の実際(1) p129-140 ・ウォームアップとクールダウン	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
11-12	健康づくり運動の実際(2) p141-150 ・ストレッチング	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
13-14	健康づくり運動の実際(3) p151-p168 ・ウォーキングとジョギング(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
15-16	健康づくり運動の実際(4) p151-168 ・ウォーキングとジョギング(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

17-18	健康づくり運動の実際(5) p169-177 ・エアロビックダンス(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
19-20	健康づくり運動の実際(6) p169-177 ・エアロビックダンス(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
21-22	健康づくり運動の実際(7) p169-177 ・エアロビックダンス(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
23-24	健康づくり運動の実際(8) p178-186 ・水泳･水中運動(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
25-26	健康づくり運動の実際(9) p178-186 ・水泳･水中運動(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
27-28	健康づくり運動の実際(10) p178-186 ・水泳･水中運動(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
29-30	健康づくり運動の実際(11) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(1)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
31-32	健康づくり運動の実際(12) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(2)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分
33-34	健康づくり運動の実際(13) p187-201 ・レジスタンスエクササイズ(3)	実習	・教科書の授業範囲を確認しておく ・ノート整理	20分 20分

リハビリテーション学科

【科目名】	心理測定法			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0485-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で医師の指示の下、言語・高次脳機能障害や精神機能障害等の評価に従事してきた経験から、言語及び臨床心理・神経心理検査等の数値が意味するものについて講じます。
本科目の内容は、種々の心理テスト実施法ではなく、心理学で用いられている基本的な統計手法の知識、つまりいろいろな心理事象の数量的記述の基本的な考え方を学んでいきます。
※注意：理学専攻及び作業専攻の学生で、心理テスト法の実践を学びたい場合は、他臨床心理系科目を選択してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義時間内で随時、簡単な実験及び基本的な心理統計処理を演習形式で実施して、理解を深めていきます。
この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。
この科目の学修には統計学の基本的知識が必須ですので、よく復習しておいてください。
試験結果・レポート・授業で実施した実験/心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

心理学における数量の性質を理解し、目的に合致したデータ収集法及び適切なデータ解析法を学ぶ。
講義および演習を通じて、1) 科学的手法に基づいてデータを収集するためにはどのような測定が必要となるのか、2) その得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのか等を学ぶことを目的とする。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-3, O-3, S-1, R-1

(方法)

心理学で用いられている実証的な研究方法について紹介していく。
人間の行動・態度・人格を計量的に測定するとはどういうことなのかを具体的に概説し、さらに臨床現場で一般的に用いられている検査法の基本についても説明し、得られたデータの意味を正しく解釈できるように進めていく。
毎回、各手法を実際に体験学習して、その理解を深めていく。
ST専攻の学生には、国家試験関連問題を課して、キーワードの理解を深めていく。

【一般教育目標(GIO)】

1) 心理学で用いられる測定法や評価法に関する基本的な知識を身につける。
2) 臨床現場で用いられる種々の検査法における数量的特性について理解する。
3) 心理学的データの基本的な扱い方及び解釈を習得すると同時に、その限界についても知る。

【行動目標(SBO)】

1) 授業に毎回出席し、与えられた課題に主体的に取り組める。
2) 心理測定法の特性を理解し、どのような場合にどの検査を用いたらよいかを適切に選択できる。
3) 科学的（客観性、再現性のある）手法に基づくデータ収集法を学ぶ。
4) 得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのかを理解できる。

【教科書・リザーブドブック】

特に指定せず。原則、毎回プリントを配布します。
言語聴覚学専攻の学生は、「言語聴覚士国家試験出題基準」の「Ｖ心理学_２心理測定法」のキーワードを随時確認すること。

【参考書】

1)　山田弘幸（編・著）／言語聴覚士のための心理学：第3章「心理学的測定」／医歯薬出版／定価 4,320円（税込）
2)　大山正他著／コンパクト心理学ライブラリ 12「心理学研究法」／サイエンス社／定価 2,310円（税込）
3)　市川伸一編著／新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」／サイエンス社／定価 2,835円（税込）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。
心理測定法の基本知識につき、定期試験を実施する。
出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20			30			100
評価指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	心理測定法とは	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
2	測定の水準と変数 データ収集法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
3	基礎的な心理統計Ⅰ 記述統計量：代表値と散布度	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
4	基礎的な心理統計Ⅱ 推測統計：母集団と推定 確率分布と正規分布	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
5	基礎的な心理統計Ⅲ 関係の測度（散布度と相関）	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
6	基礎的な心理統計Ⅳ 統計的仮設検定（統計的有意性と偶然） 平均の差の検定	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
7	テスト理論Ⅰ 歴史的背景	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
8	テスト理論Ⅱ 信頼性と妥当性 「標準テスト」の意味	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20

9	テスト理論Ⅲ 基準と換算点 「IQ数値」の評価法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
10	精神物理学的測定法Ⅰ 刺激閾、弁別閾、主観的等価点	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
11	精神物理学的測定法Ⅱ 調整法、極限法、恒常法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
12	精神物理学的測定法Ⅲ 恒常誤差：測定値の誤りと偏り	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
13	尺度構成法Ⅰ 直接法：マグニチュード推定法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
14	尺度構成法Ⅱ 間接法：評定尺度法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
15	まとめ 国試過去問に見る「心理測定法」を説明し、 要点（キーワード）を整理する。	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20

リハビリテーション学科

【科目名】	認知心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0490-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。
「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。
リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々に対する支援するための基礎知識となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、②人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。
人間の認知情報処理過程（感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など）について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて実例から学び、その支援法を考えていきます。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-3, P-2, O-3, S-2, R-1

(方法)

講義と演習ですすめていく。
障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。
可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。
毎回、資料としてプリントを配布する。

【一般教育目標(GIO)】

・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。
・認知の障害について理解する。

【行動目標(SBO)】

・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。
・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。
・ST国家試験過去問に対応できるだけの知識を身につける。
・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。

【教科書・リザーブドブック】

大山正編著　『実験心理学』（コンパクト新心理学ライブラリー16）　サイエンス社　1,850円+税

【参考書】

森 敏昭・井上 毅・松井孝雄　『グラフィック認知心理学』　サイエンス社　2400円＋税
行場次朗・箱田裕司編　『知性と感性の心理学：認知心理学入門』　福村出版　2700円＋税
井上毅・佐藤浩一編　『日常認知の心理学』　北大路書房　3400円＋税

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	感覚Ⅰ 感覚の種類、感覚の範囲と感度	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
2	感覚Ⅱ 感覚の物理量と心理量 感覚の順応・対比・加重	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
3	知覚・認知Ⅰ 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
4	知覚・認知Ⅱ 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
5	知覚・認知Ⅲ 認知地図、対人認知、感覚遮断 視知覚・認知の障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
6	知覚・認知Ⅳ 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
7	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義 一部演習	第1～6回目までの知識の整理	30
8	記憶Ⅰ 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、 ワーキングメモリ	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15

9	記憶Ⅱ 　長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
10	記憶Ⅲ 　忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
11	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	30
12	思考Ⅰ 　演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
13	思考Ⅱ 　問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
14	言語 　言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ　国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第12～15回目までの知識の整理	30

リハビリテーション学科

【科目名】	学習心理学			【担当教員】	宮岡　里美
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20,他研究室在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。
人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。
特に、将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。
他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。
試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。
資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。
講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。

【講義概要】

(目的)

①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。　ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, S-2, R-1

(方法)

Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。
毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。

【一般教育目標(GIO)】

学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。
言語習得の基本プロセスと言語の機能（役割）を理解する。
学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。

【行動目標(SBO)】

人間の行動は変化することを説明できる。
人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。
学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。
障害に対して適切な支援ができる。

【教科書・リザーブドブック】

グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊（編著）／サイエンス社 ／¥2,677（税込）

【参考書】

学習心理学への招待（新心理学ライブラリ）／篠原彰一著 ／ サイエンス社 ／¥ 2,520
メイザーの学習と行動 ／ジェームズ E メイザー(著) ／二瓶社（2008/06）／ ¥4,200

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70				30			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例　条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p.1-14 指定教科書p.15-24	20
2	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去　汎化と弁別	講義	指定教科書p.24-35	20
3	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ　実験神経症　行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.36-42	20
4	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例　オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p.43-64 指定教科書p.149-154	20
5	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p.64-74	20
6	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p.74-92	20
7	社会的学習 ・社会的学習とは何か　模倣学習　観察学習	講義	指定教科書p.125-134	20
8	社会的学習 ・攻撃行動　罰の効果　いじめの発生	講義	指定教科書p.134-144	20

9	社会的学習 ・自己効力感（セルフ・エフィカシィ-） 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p.144-148	20
10	技能学習 ・学習曲線　結果の知識　練習条件	講義 一部演習	指定教科書p.93-102	20
11	技能学習 ・技能の記憶　技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p.102-124	20
12	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p.175-190	20
13	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能	講義	指定教科書p.184-199	20
14	言語障害への支援 ・失語症 ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
15	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用 まとめ	講義	指定教科書p.149-174	20

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法概論Ⅰ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	１５	(オフィスアワー)月木　12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、理学療法を学んでいく上での基礎となる科目
＊この科目は実務経験者対応科目である

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

遅刻は、講義開始後20分以内の入室とします
試験結果･レポートは他に支障のない限り返却します

【講義概要】

(目的)

リハビリテーション医学の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大している。理学療法を取り巻く状況（対象疾患、理学療法手技職域、法律制度など）を理解し、理学療法の全体像を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与脳新との関連性：A-1,2、P-1

(方法)

資料を配布し、理学療法を取り巻く状況の概要を学び、理学療法の全体像を理解できるように講義する

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織、法律や制度について理解する
・理学療法士を目指すうえで必要な知識（対象や治療手技、心理面）やその分野に求められる倫理について理解する
・理学療法発展のための教育および研究等について理解する

【行動目標(SBO)】

・理学療法の歴史を理解し、理学療法を取り巻く組織や法律を理解することができる
・理学療法士になるうえでの必要な知識（管理、適正など）について理解することができる

【教科書・リザーブドブック】

シンプル理学療法学シリーズ　理学療法概論テキスト　改訂第3版（南江堂）

【参考書】

適宜紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う
筆記試験を行い評価する
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		5	10			5	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ	10			5				15
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢	10		5				5	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション・グループディスカッション（自己紹介）	ディスカッション	特に無し	0分
2	グループディスカッション（自己紹介）	ディスカッション	特になし	0分
3	理学療法の定義と歴史	講義	・テキストのP1-22を読んでくること ・理学療法の概要を理解する	15分 20分
4	理学療法に関連する法律	講義	・テキストP22-28を読んでくること ・法規の概要について理解する	10分 20分
5	理学療法士の役割（１）	講義	・テキストP29-33を読んでくること ・理学療法士の倫理・使命を理解する	15分 15分
6	理学療法士の役割（２）	講義 グループワーク	・テキストP34-55を読んでくること ・理学療法の対象となる疾患について調べる（レポート提出）	15分 30分
7	発表（レポートの内容について発表する）	プレゼンテーション	レポート課題が発表できるように準備する	60分
8	発表（レポートの内容について発表する）	プレゼンテーション	レポート課題が発表できるように準備する	60分

9	理学療法の流れ	講義	・テキストP61-74を読んでくること ・理学療法の概略を理解する	15分 15分
10	理学療法士の働く現場 職能とは	講義	・テキストP75-104を読んでくること ・理学療法士の仕事内容と職能を理解する	20分 15分
11	理学療法教育	講義	・テキストP105-136を読んでくること ・理学療法士の卒前・卒後教育を理解する	15分 15分
12	理学療法研究	講義	・テキストP137-154を読んでくること ・理学療法士が行う研究手法について理解する	15分 15分
13	理学療法士の管理運営に必要なこと	講義	・テキストP155-176を読んでくること	15分
14	理学療法士の管理運営に必要なこと	講義	・テキストP155-176を読んでくること ・医療保険および介護保険の概略を理解する ・医療事故の予防について理解する	15分 20分
15	グループディスカッション （前期前半を振り返って）	ディスカッション	特に無し	0分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法概論Ⅱ			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	１５	(オフィスアワー) 水・木　12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法概論Ⅰを受講すること
理学療法学専攻教員によりオムニバスにて講義を進める
＊この科目は実務経験者対応科目である

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

理学療法概論Ⅰを受講すること
レポートは可能な限り返却する

【講義概要】

(目的)

理学療法にはさまざまな分野がある。本講義では、専攻教員から、各教員の専門分野等の講義を受けることで、自分の目指す理学療法士像を明確にすることを目的に行う。
該当科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2

(方法)

専攻の各教員から講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の各専門分野や理学療法士を取り巻く現状について学ぶ

【行動目標(SBO)】

・自分の目指す理学療法士像を明確にする

【教科書・リザーブドブック】

特になし

【参考書】

適宜紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

講義後にレポートを作成する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			10					10
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢			50				10	60

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	名称「理学療法士」の使用前・使用後	講義（粟生田）	講義内容を理解する	0分
2	理学療法分野におけるコンピュータの活用	講義（浅海）	講義内容を理解する	0分
3	日本の理学療法士教育の始まりと私の経験談	講義（押木）	講義内容を理解する	0分
4	選ばれる理学療法士になるために必要なこと ーなぜ腰痛疾患を専門にしているのかー	講義（北村）	講義内容を理解する	0分
5	理学療法士になろうと思ったきっかけと、人とのつながり	講義（木村）	講義内容を理解する	0分
6	女性アスリートの膝関節外傷について	講義（佐々木）	講義内容を理解する	0分
7	私が理学療法士になって得たこと。伝えたいこと。	講義（高橋）	講義内容を理解する	0分
8	どんな理学療法士になりたい？ どんな場所で活躍したい？	講義（長島）	講義内容を理解する	0分

9	学生時代の勉強方法とこれまでの歩み	講義（星野）	講義内容を理解する	0分
10	理学療法士としての夢　～学生と今～	講義（松林）	講義内容を理解する	0分
11	事務員の紹介と福祉用具専門相談員について	講義（菅原）	特に無し	0分
12	ディスカッション	グループディスカッション	特に無し	0分
13	理学療法士を取り巻く現状	小林量作	講義内容を理解する	0分
14	理学療法士を取り巻く現状	小林量作	講義内容を理解する	0分
15	グループディスカッション	ディスカッション	特に無し （レポート：1年前期を振り返って、夏休み中に行うこと）	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	動作解析学実習Ｉ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0510-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜;8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学および基礎運動学各論を履修したことを前提としています。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・この講義は事前にビデオ学修をしておくことが前提です。(ビデオには小テストが含まれることがあります。)
・ビデオ学修方法については初回の授業で説明する。
・Office365のアカウント・パスワードを確認しておいてください。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。
※この科目は実務経験者対応科目です。

【講義概要】

(目的)

・正常な運動についての理解に基づき、何らかの原因で生じた運動障害について理解するため運動学的分析の方法を実習を通して理解する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

・運動学の基礎知識を講義で理解したうえで教科書に示された実習を実施する。
・授業では理解度チェックや小テストなどをパソコンあるいは携帯電話(スマホ)を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので確認しておいてください。

【一般教育目標(GIO)】

・運動解析の基礎的技術を知る。

【行動目標(SBO)】

・基礎的運動解析手法について説明・実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

・中村隆一　斎藤宏　他著・『運動学実習　第3 版』医歯薬出版, 2004 年. ¥3,672

【参考書】

・中村隆一　斎藤宏　他著・『基礎運動学　第6 版』医歯薬出版,2003 年.¥7,344 円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
※レポート点は宿題も含みます。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			40	50				10	100
評価指標	取り込む力・知識		30	30					60
	思考・推論・創造の力		10	20					30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション; 授業の進め方、実習に注意点、レポートの書き方を説明	講義(マルチメディア教室)	・運動学実習の手引き page 1～5 を読んでおく。 ・ビデオ学修	15分 20分
3-4	・物体の落下運動について理解する。	演習・グループ学修(マルチメディア教室)	・速度、加速度、位置エネルギーについて調べる。 ・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 30分 1時間
5-6	・落下運動についてパソコンを使用しシミュレーションする。	演習・グループ学修(マルチメディア教室)	・モーメントとトルクについて調べておく。 ・ビデオ学修 ・レポート作成	15分 30分 1時間
7-8	・モーメントの計算を理解する。 ・人体におけるモーメントを関節と筋張力の関係に応用する。	講義・実習 グループ学修(マルチメディア教室・運動解析室)	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 1時間
9-10	・関節モーメントの計算	講義・実習 グループ学修(マルチメディア教室)	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分
11-12	・テコの種類と物体の釣合について学ぶ。 ・体重心の計算方法について学ぶ。	実習・マルチメディア教室	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分
13-14	・重心動揺計の利用について学ぶ	実習・マルチメディア教室、運動解析室	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 1時間
15-16	・体重計を用いた重心の測定法	実習・マルチメディア教室、運動解析室	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分

17-18	・反応時間とは何か、その意義について学ぶ。	実習・マルチメディア教室	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 30分
19-20	・落下テストを用いた反応時間測定の測定	実習・マルチメディア教室	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 30分
21-22	・パソコンを用いた反応時間測定について学ぶ。	実習・マルチメディア教室	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 30分
23-24	・筋電図の概要と表面筋電図の測定法について学ぶ。 ・動作学的筋電図の利用について学ぶ。	実習・マルチメディア教室、運動解析室	・ビデオ学修 ・レポート作成	30分 30分
25-26	・筋電図実習(1) ポリグラフ・EMG ロッガー	実習・マルチメディア教室、運動解析室	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分
27-28	・筋電図実習(2) ポリグラフ・EMG ロッガー	実習・マルチメディア教室、運動解析室	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分
29-30	・歩行の観察法について学ぶ。 ・歩行速度の違いによる歩行パラメーターの変化を測定する。 ・まとめ	講義	・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 30分

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法研究法Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0545-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・統計学を復習しておくこと。
・この科目は理学療法研究法Ⅰ・Ⅱのセット履修となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料はOneNoteにて配信されます。
・授業ではパソコンを使用し資料を閲覧しますので毎回パソコンを持参してください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。※この科目は実務経験者対応科目です。

【講義概要】

(目的)

・理学療法での研究を行う上で必要となる。基礎的知識を学習します。研究とは何か、サンプリングの方法、少数例・多数例の標本の研究法、研究発表の方法について演習・実習を通し学修していきます。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

・教科書を参照しながら研究方法論の講義、演習、実習をおこなう。
・授業では理解度チェックや小テストなどを携帯電話(スマホ)を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので確認しておいてください。

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な理学療法研究手法について知る。

【行動目標(SBO)】

・理学療法研究において研究の立案から発表まで一貫して実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

・千住秀明／玉利光太郎; はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ¥4,860

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	40	20			10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20	5				45
	思考・推論・創造の力		10	20	5				35
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・オリエンテーション ・科学の歴史と研究法の発達について学ぶ。 ・理学療法研究の領域	講義・演習(マルチメディア教室)	・ビデオ学修 ・質的研究・量的研究について整理する。	20分 20分
3・4	・小数例を対象とした研究法について学ぶ。 ・シングルケーススタディーとは何かまたその具体的方法を学ぶ。 ・少数例を対象とした実験を計画する。	講義	・ビデオ学修 ・シングルケーススタディーの特徴をまとめてみる。	20分 15分
5・6	・グループで計画した少数例の実験を行う。	演習(マルチメディア教室)	・実験計画をまとめ必要なものを確認しておく。 ・実験結果を整理する。	20分 20分
7・8	・実験結果を分析してみる。	演習(マルチメディア教室)	・授業後レポートを作成する。	1時間
9・10	・データ抽出法の利点について学ぶ。 ・データ抽出の種類と特徴について学ぶ。	講義	・ビデオ学修 ・データ抽出法ごとの利点と欠点を整理する。	20分 20分
11・12	・無作為抽出の方法について学ぶ。	演習(マルチメディア教室)	・無作為抽出とは何か、また具体的方法について調べておく。 ・ビデオ学修 ・ノート整理	30分 20分 20分
13・14	・研究のスタイルと特徴 ・多標本を使用した実験計画の基本型を学ぶ。	講義	・検定について復習する。 ・ビデオ学修 ・ノート整理	20分 20分 20分
15 試験	・まとめ ※試験	講義	・今までの講義の復習	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法研究法Ⅱ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0545-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目の履修は理学療法研究Ⅰを履修していることが前提となります。
・統計学を復習しておくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料はOneNoteに配信されます。
・授業ではパソコンを使用し資料を閲覧しますので毎回パソコンを持参してください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

・理学療法での研究を行う上で必要となる。基礎的知識を学習します。研究とは何か、サンプリングの方法、少数例・多数例の標本の研究法、研究発表の方法について演習・実習を通し学修していきます。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3
※この科目は実務経験者対応科目です。

(方法)

・教科書を参照しながら研究方法論の講義、演習、実習をおこなう。
・授業では理解度チェックや小テストなどを携帯電話(スマホ)を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので確認しておいてください。

【一般教育目標(GIO)】

・基本的な理学療法研究手法について知る。

【行動目標(SBO)】

・理学療法研究において研究の立案から発表まで一貫して実施できる。

【教科書・リザーブドブック】

・千住秀明／玉利光太郎; はじめての研究法 コ・メディカルの研究法 第2版、神陵文庫 ¥4,860

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			30	40	20			10	100
評価指標	取り込む力・知識		20	20	5				45
	思考・推論・創造の力		10	20	5				35
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・オリエンテーション ・研究計画書の発表 ・研究計画書の基本的構成について学ぶ ・研究計画書を見直す。	演習(マルチメディア教室)・グループ学修	・ビデオ学修 ・研究計画書を見直す。	20分 20分
3・4	・パイロットスタディを実施する。 ・研究計画書を見直す。	演習(マルチメディア教室・運動解析室)・グループ学修	・実験に必要なものを準備しておく。 ・研究計画書を見直す。	20分 20分
5・6	・実験-1	演習(マルチメディア教室・運動解析室)・グループ学修	・実験に必要なものを準備しておく。 ・データ整理	20分 30分
7・8	・実験-2	演習(マルチメディア教室・運動解析室)・グループ学修	・実験に必要なものを準備しておく。 ・データ整理	20分 20分
9・10	・データ整理 ・プレゼンテーション作成	演習(マルチメディア教室)・グループ学修	・参考文献を集めておく ・プレゼンテーションを完成させる。	30分 1時間
11・12・13・14	発表会	演習(マルチメディア教室)・グループ学修	・参考文献を集めておく ・プレゼンテーションを完成させる。	30分 1時間
15 試験	まとめ ※科目テスト	演習(マルチメディア教室)	・今までの講義の復習	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動療法学Ⅰ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0550-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木の17:00～	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は理学療法治療の中の、運動療法の基礎を学び。
この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学、運動学、生理学の知識が非常に大切になる。
受講までに骨学、筋学、神経学をしっかりと復習するとよい。
試験結果・課題については支障のない限りで返却します。

【講義概要】

(目的)

運動療法は運動機能障害に対するものだけにとどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3

(方法)

運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。
その他グループ学習及び、必要に応じて実技も行いながら講義を進める。

【一般教育目標(GIO)】

運動療法の基礎知識を取得するため、運動療法の歴史、種類、方法、効果について理解する。

【行動目標(SBO)】

１）運動療法に必要な神経学を説明できる。
２）運動の仕組みについて説明できる。
３）神経学的な知識と運動療法を結び付けて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

吉尾雅春　標準理学療法学　運動療法学総論　医学書院　2006年　4700円

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30			20		100
評価指標	取り込む力・知識	40		20					60
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力						10		10
	学修に取り組む姿勢			10			10		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	運動療法概論 （授業の進め方、運動療法の歴史）	講義		
3・4	神経機能の理解	講義	細胞・神経細胞の役割・機能	30
5・6	末梢神経と中枢神経について	講義	中枢と末梢の言葉を理解する	30
7・8	大脳と大脳基底核について	講義	各脳の位置関係・働き （レポート提出：末梢神経と中枢神経について）A41枚にまとめる。	30
9・10	小脳、中脳、脳幹について	講義	各脳の位置関係・働き	30
11・12	脊髄について	講義	各脳の位置関係・働き	30
13・14	反射と統合 随意運動	講義	随意運動と反射	
15	運動学習	講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	基礎運動療法学Ⅱ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0550-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～木の17:00～	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

この科目は理学療法治療の中の、運動療法の基礎を学び。
この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

解剖学、運動学、生理学の知識が非常に大切になる。
受講までに骨学、筋学、神経学をしっかりと復習するとよい。
試験結果・課題については支障のない限りで返却します。

【講義概要】

(目的)

運動療法は運動機能障害に対するものだけにとどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-3

(方法)

運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。
その他グループ学習及び、必要に応じて実技も行いながら講義を進める。

【一般教育目標(GIO)】

運動療法の基礎知識を取得するため、運動療法の歴史、種類、方法、効果について理解する。

【行動目標(SBO)】

１）運動療法に必要な骨学、筋学、関節学、運動学を説明できる。
２）基本的な関節可動域運動について説明できる。
３）基本的な筋力増強運動について説明できる。
４）運動療法の種類を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

吉尾雅春　標準理学療法学　運動療法学総論　医学書院　2006年　4700円

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		30			20		100
評価指標	取り込む力・知識	40		20					60
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力						10		10
	学修に取り組む姿勢			10			10		20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	骨と骨の障害について	講義	教科書p140～143を読んでおくこと	
3・4	関節の構造と関節障害について	講義	教科書p143～146を読んでおくこと	30
5・6	筋の構造と筋障害について	講義	教科書p147～153を読んでおくこと	30
7・8	関節可動域運動	講義	教科書168～194を読んでおくこと	30
9・10	関節可動域運動の実際	演習	教科書168～194を読んでおくこと	30
11・12	筋力増強運動	講義	教科書p195～230を読んでおくこと	30
13・14	筋力増強運動の実際	講義	教科書p195～230を読んでおくこと	
15	運動療法の種類	講義	教科書p231～239を読んでおくこと	

リハビリテーション学科

【科目名】	動作解析学実習Ⅱ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0555-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	18 コマ	(オフィスアワー) 月～金 5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学・臨床運動学の教科書を復習しておくこと。
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

患者に対して理学療法を実施する上では、患者の動作を観察・分析する必要性がある。この科目では、中枢性疾患や運動器疾患患者の動作分析の実際について解説し、それらの結果を臨床的に解釈することの重要性を理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-2, 3　P-2,3

(方法)

目視や機器（三次元動作解析装置、表面筋電図など）による動作分析の実習を中心とした授業形態とする。

【一般教育目標(GIO)】

・動作解析学の技術・手法を習得するために、各機器の使用方法や原理を理解する。

【行動目標(SBO)】

・動作、姿勢観察を実践できる。
・三次元動作解析装置の使用方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『運動学実習 第3 版』医歯薬出版, 2004 年. ¥3,672

【参考書】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『基礎運動学 第6 版』医歯薬出版,2003 年.¥7,344 円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含みません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		50						50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・グループ分け、スケジュール ・レポートの書き方	講義・演習(星野・マルチメディア教室)	・Office365を使用できるようにしておくこと。 ・ビデオ学修	30
2	・立位アライメントについて学ぶ。 ・姿勢の変換に伴う反射について学ぶ。 ・姿勢の運動分析法について学ぶ。	講義・星野専攻教室	・人体の抗重力機構について調べておく。 ・姿勢の運動学的分析方法について整理する。	30
3	・立位姿勢のアライメントを分析する。 ・片側上肢外転位時のアライメント偏移を観察する。 ・立ち直り反射と傾斜反応について運動分析する。	実習・星野運動解析室	・教科書の実習手順を読んでおく。 ・レポートをまとめる。	30
4，5	・3 次元動作解析装置の原理を学ぶ。	講義・星野専攻教室	・3 次元動作解析装置の使用用途を調べておく。 ・この装置により何が明らかになるか整理する。	30
6．7	・3 次元動作解析装置で立ち上がり動作を測定する。 ・3 次元動作解析装置のデータ分析を学ぶ。	実習・星野運動機能科学実験実習室	・前回の配布資料を読んでおく。 ・レポートにまとめる。	30

リハビリテーション学科

【科目名】	動作解析学実習Ⅱ			【担当教員】	星野　浩通
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0555-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	hoshino@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	18	(オフィスアワー) 月～金 5時限	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学・臨床運動学の教科書を復習しておくこと
・この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

患者に対して理学療法を実施する上では、患者の動作を観察・分析する必要性がある。この科目では、中枢性疾患や運動器疾患患者の動作分析の実際について解説し、それらの結果を臨床的に解釈することの重要性を理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性;　A-2, 3　P-2,3

(方法)

観察や機器（表面筋電図など）による動作分析の実習を中心とした授業形態とする。
・授業では理解度チェックや小テストなどを携帯電話（スマホ）を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので理解しておいてください。

【一般教育目標(GIO)】

・運動解析の基礎的技術を知る。

【行動目標(SBO)】

・基礎的運動解析手法について説明・実践できる。

【教科書・リザーブドブック】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『運動学実習 第3 版』医歯薬出版, 2004 年. ¥3,672

【参考書】

・中村隆一 斎藤宏 他著・『基礎運動学 第6 版』医歯薬出版,2003 年.¥7,344 円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		50						50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			25					25

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
８・９	・運動が循環系に与える影響について学ぶ。	実習・星野 運動解析室	・実習手順を読んでおく。	30
10・11・12	・負荷心電図を取ってみる。P121-126 ・運動負荷試験の実際を学修する。	実習・星野 運動解析室	・実習手順を読んでおく。 運動負荷と心電図についてレポートにまとめる	30
13・14・15	・身体作業能力測定について学ぶ。P127	実習・星野 運動解析室	・実習手順を読んでおく。 身体作業能力についてレポートにまとめる	30
16・17・18	・運動負荷時の影響を、呼気ガス分析装置を用いて分析する。(AT ポイント)	実習・星野 運動解析室	呼気分析を用いて、AT測定のレポートを作成する。	30
				30
				30

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床運動学			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】	3-15-0570-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45〜13:15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・基礎運動学概論，基礎運動学各論が履修済みであること.
*この科目は実務経験者対応科目です.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・事前に講義に関する情報提供を行うので，予習を必ず行うこと.
・グループディスカッションを行うので，積極的に参加すること.
・講義期間中に作成したレポートは返却します.

【講義概要】

(目的)

・臨床症例における身体運動を分析する際の基本的知識，技術，思考過程を習得する目的で行います.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

・様々な疾患の中から特徴的な「動き」について，画像や映像などを使用し，観察や評価を通して，運動学的な分析を行う過程を学習します.

【一般教育目標(GIO)】

・臨床で必要とされる動作や身体運動の観察と分析を行い，その内容を記述・説明することができる

【行動目標(SBO)】

・対象者の動きを観察し，運動学用語を用いて図示・説明することができる
・観察した対象者の動きから，その成立要因を推察し，記述・説明することができる
・対象者の動きと成立要因を解釈・統合し，理学療法評価・治療に結びつけて考え，説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

・武田功監修，臨床歩行分析ワークブック 改訂第2版，メジカルビュー社，¥4,000（税別）

【参考書】

・基礎運動学概論，基礎運動学各論，動作解析実習等の各講義で使用したもの

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・学内試験規定に基づく出席回数，提出課題（レポート），授業態度（ディスカッション，発表），筆記試験を総合的に評価する.
・初回講義時に提出課題および筆記試験の評価規準を提示する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	20	30	10				100
評価指標	取り込む力・知識	20	20	10					50
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	基礎運動学の確認	小テスト，講義	予習：基礎運動学の復習	60
2	身体運動の基礎（1）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
3	身体運動の基礎（2）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
4	姿勢と動作（1）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
5	姿勢と動作（2）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
6	姿勢と動作（3）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
7	歩行（1）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
8	歩行（2）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30

9	臨床動作分析：ケーススタディ（1）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
10	臨床動作分析：ケーススタディ（2）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
11	臨床動作分析：ケーススタディ（3）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
12	臨床動作分析：ケーススタディ（4）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
13	臨床動作分析：ケーススタディ（5）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
14	臨床動作分析：ケーススタディ（6）	講義，グループディスカッション，発表	予習：基礎運動学の復習 復習：講義内容	30 30
15	まとめ	講義・演習	まとめ	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法見学実習			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(基礎理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 毎週水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・理学療法学専攻1年次の実習科目です.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・学外実習期間以外にも事前ガイダンスや事後セミナーが行われます.

【講義概要】

(目的)

・理学療法士が所属している医療施設または老人保健施設等の福祉施設に赴き，理学療法を実施している場面を実際に見学しながら理学療法士の職場環境や他の医療職種との関わりなどについて学び，自ら進む理学療法士像のイメージを創る.
※当該科目と学位授与方針等との関連性;A-1,2,3　P-1,2,3,4

(方法)

・少人数(3〜4名)のグループを構成し，1週間の日程とする．医療施設または老人保健施設等理学療法士が勤務している施設に学生が赴き，学内にて専任教員のもとセミナーを実施する.
・見学実習の詳細は，学内ガイダンスで提示する.

【一般教育目標(GIO)】

・臨床現場での理学療法士の業務全般を学ぶ

【行動目標(SBO)】

・臨床現場での理学療法士の業務と役割を理解する
・理学療法士としての自分の将来像を獲得する

【教科書・リザーブドブック】

特になし（資料配付）

【参考書】

特になし（随時提示）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う.
・学内での活動や学外実習の評価すべてを総合的に判断する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				30	30		10	30	100
評価指標	取り込む力・知識			10			5		15
	思考・推論・創造の力			10	10				20
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10	10		5	20	45

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	事前ガイダンス	講義，グループワーク	実習に向けた準備	60
2	見学実習（1）	各実習施設	実習課題をまとめる	60
3	見学実習（2）	各実習施設	実習課題をまとめる	60
4	見学実習（3）	各実習施設	実習課題をまとめる	60
5	事後セミナー	グループワーク，全体討議	セミナーの準備とまとめ	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学Ⅰ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-16-0575-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜：午前，木曜：終日	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は，実技(教科書を見ながら)を中心に実施します．動きやすい服装できてください．
また，2年次に履修する理学療法評価学実習の基礎にあたります．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【重要】
本科目は，前期後期で学習する解剖学や運動学の知識に基づく実技科目となります．筋肉の起始停止から支配神経，運動学用語までしっかりと頭に入れた状態で受講してください．
事前学習として，下肢の筋肉，神経は必ず覚えておいてください．

【講義概要】

(目的)

理学療法士として働く上で，「評価」は非常に重要です．人の身体，動きを把握するために行う評価の方法を実技を通して学びます．
当該科目と学位授与方針との関連性；P-1-4.

(方法)

下記にある教科書を参考にしながら，評価の一つ一つを実践していきます．
そのため，指定教科書は毎講義に必ず持参すること．

【一般教育目標(GIO)】

理学療法評価の種類とその目的を理解できる．
理学療法評価の実践する上での注意点を挙げることができる．
理学療法評価の実践ができる．

【行動目標(SBO)】

理学療法評価の種類，目的，注意点を説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

リハビリテーション基礎評価学，第一版．羊土社(6,372円)
ベッドサイドの神経の診かた．18版．南山堂(7,76円)

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	10		20			10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10		4				74
	思考・推論・創造の力				4				4
	コラボレーションとリーダーシップ				4				4
	発表力				4				4
	学修に取り組む姿勢				4			10	14

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・小テスト (範囲：下肢の筋名，起始停止，支配神経の分節，作用) ・講義オリエンテーション ・症例検討会・次回講義の内容告知	・試験 ・講義		
3,4	・症例検討会の発表会(ゼミ毎) ・理学療法評価の紹介 (問診，アライメント，関節可動域，徒手筋力検査等) ・次回講義の内容告知	・発表会 ・講義		
5,6	・問診について ・姿勢(アライメント)評価について	・講義 ・実技		
7,8	・反射検査について ・感覚検査について	・講義 ・実技		
9,10	・Brunnstrom recovery stage test(以下，BRS)について	・講義 ・実技		
11,12	・歩行観察・分析について	・講義 ・実技		
13,14	・認知機能検査について ・バランス検査について	・講義 ・実技		
15,16	・科目の確認(各自) ・科目試験	・試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学Ⅱ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-16-0575-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー)月曜：午前，木曜：終日	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

本科目は，実技(教科書を見ながら)を中心に実施します．動きやすい服装できてください．
また，2年次に履修する理学療法評価学実習の基礎にあたります．
【注意】
本科目は理学療法評価学Ⅰを履修していること．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

【重要】
守るべき事前学習は，理学療法評価学Ⅰに準じます(理学療法評価学Ⅰを参照してください)．
なお，試験等のフィードバックは，可能な限り，口頭および紙面にて行います．なお，このフィードバックについては，理学療法評価学Ⅰも同様です．

【講義概要】

(目的)

理学療法士として働く上で，「評価」は非常に重要です．人の身体，動きを把握するために行う評価の方法を実技を通して学びます．
当該科目と学位授与方針との関連性；P-1-4.

(方法)

下記にある教科書を参考にしながら，評価の一つ一つを実践していきます．
指定教科書を毎講義に必ず持参すること．

【一般教育目標(GIO)】

理学療法評価の種類とその目的を理解できる．
理学療法評価の実践する上での注意点を挙げることができる．
理学療法評価の実践ができる．

【行動目標(SBO)】

理学療法評価の種類，目的，注意点を説明することができる．

【教科書・リザーブドブック】

リハビリテーション基礎評価学，第一版．羊土社(6,372円)
ベッドサイドの神経の診かた．18版．南山堂(7,76円)

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70			20			10	100
評価指標	取り込む力・知識	70			4				74
	思考・推論・創造の力				4				4
	コラボレーションとリーダーシップ				4				4
	発表力				4				4
	学修に取り組む姿勢				4			10	14

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・関節可動域検査について(膝・足関節)	・講義 ・実技		
3,4	・関節可動域検査について(股関節)	・講義 ・実技		
5,6	・関節可動域検査について(肩関節)	・講義 ・実技		
7,8	・徒手筋力検査について（膝，足関節）	・講義 ・実技		
9,10	・徒手筋力検査について（股関節）	・講義 ・実技		
11,12	・徒手筋力検査について（肩関節） ・次回内容の告知	・講義 ・実技		
13,14	・グループ内実践評価の発表会 ゼミグループの学生1名に対し，これまで学習してきた各種検査を行い，まとめ，発表します.	・実技		
15,16	・科目の確認(各自) ・科目試験	・試験		

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学実習Ⅰ			【担当教員】	星野　浩通、北村　拓也、長島　裕子
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	hoshino@nur05.comicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月～金の17：00以降	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

解剖学、基礎運動学概論、理学療法評価学Ⅰ・Ⅱが履修済みであること。
この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書やDVDなどの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・実習の際は，Tシャツ，タンクトップ，短パンなど実技を行いやすい服装を着用の上，本学指定のケーシー，ズボン，実習用内履きを必ず着用すること.
・頭髪（色），髪型，爪，指輪やピアス等の身だしなみは，常に臨床を想定して準備を行うこと.
・試験のフィードバックは全体および個別に実施する。

【講義概要】

(目的)

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識，技術を習得する.
＊当該科目と学位授与方針との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

・デモンストレーションやDVD，画像などをもとに，理学療法に関する評価技術を学び，実践する．各単元終了後，評価技術に関する口頭試問および確認実技テストを行う.

【一般教育目標(GIO)】

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価を行うことができる.

【行動目標(SBO)】

・理学療法評価に関する基本的な目的，内容を説明，記述することができる.
・理学療法に関する検査や測定を適切に実施することができる.
・グループで協力して学習を進めることができる.
・臨床に即した理学療法評価の手順や方法を考え，実践することができる.
・確認テストをもとに振り返りを行い，各自学習を深め，知識と技術を統合して評価技術を高めることができる

【教科書・リザーブドブック】

・Helen J.Hislop 他著，新・徒手筋力検査法 原著第9版，協同医書出版社，2016年，¥7,500（税別）・鈴木則宏編，神経診察クローズアップ 改訂第2版,メジカルビュー，2015年,¥7,000（税別）・田崎義明他，ベッドサイドの神経の診かた，南山堂，¥7,200（税別）

【参考書】

・理学療法評価学，解剖学，生理学，基礎運動学概論などでの指定図書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学規定のGPA制度に従う.
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，確認テスト，実技試験を総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			10			80	10		100
評価指標	取り込む力・知識		5			20			25
	思考・推論・創造の力					20			20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		5			30	10		45

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2	オリエンテーション 確認小テスト（骨、筋、神経、関節）	講義 PT教室	骨、筋、神経、関節の名称と場所の確認	60
3-4-5-6-7-8	ADL検査 FIM、BI、その他QOL	演習 理学療法実習室 運動解析室	ADL評価表の確認	30
9-10-11-12-13-14	医療面接・リスク管理 問診、痛み、意識、バイタル	演習 理学療法実習室 運動解析室	教科書　第二章　P25～60	45
15-16-17-18-19-20	高次脳機能検査 深部反射・病的反射・表在反射検査 深部感覚・表在感覚・識別感覚検査	演習 理学療法実習室 運動解析室	脳の機能解剖 脊髄の構造	45
21-22-23-24-25-26	脳神経検査 筋緊張、Brs-t 協調性	演習 理学療法実習室 運動解析室	脳神経について 伝導路とその役割について	45
27-28-29-30	前期実技試験 総復習	演習 理学療法実習室 運動解析室	総まとめ	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学実習Ⅱ			【担当教員】	星野　浩通、北村　拓也、長島　裕子
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	hoshino@nur05.comicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 月～金の17：00以降	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

解剖学、基礎運動学概論、理学療法評価学Ⅰ・Ⅱが履修済みであること。
この科目は実務経験者対応科目である。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・各自，教科書やDVDなどの教材を利用し，事前学習および復習を行うこと.
・実習の際は，Tシャツ，タンクトップ，短パンなど実技を行いやすい服装を着用の上，本学指定のケーシー，ズボン，実習用内履きを必ず着用すること.
・頭髪（色），髪型，爪，指輪やピアス等の身だしなみは，常に臨床を想定して準備を行うこと.
・試験のフィードバックは全体および個別に実施する。

【講義概要】

(目的)

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識，技術を習得する.
＊当該科目と学位授与方針との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

・デモンストレーションやDVD，画像などをもとに，理学療法に関する評価技術を学び，実践する．各単元終了後，評価技術に関する口頭試問および確認実技テストを行う.

【一般教育目標(GIO)】

・臨床で必要とされる基本的な理学療法評価を行うことができる.

【行動目標(SBO)】

・理学療法評価に関する基本的な目的，内容を説明，記述することができる.
・理学療法に関する検査や測定を適切に実施することができる.
・グループで協力して学習を進めることができる.
・臨床に即した理学療法評価の手順や方法を考え，実践することができる.
・確認テストをもとに振り返りを行い，各自学習を深め，知識と技術を統合して評価技術を高めることができる

【教科書・リザーブドブック】

・Helen J.Hislop 他著，新・徒手筋力検査法 原著第9版，協同医書出版社，2016年，¥7,500（税別）・鈴木則宏編，神経診察クローズアップ 改訂第2版,メジカルビュー，2015年,¥7,000（税別）・田崎義明他，ベッドサイドの神経の診かた，南山堂，¥7,200（税別）

【参考書】

・理学療法評価学，解剖学，生理学，基礎運動学概論などでの指定図書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学規定のGPA制度に従う.
・学内試験規定に基づく出席回数，授業態度，確認テスト，実技試験を総合的に評価する。
・出席点は評価に含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			10			80	10		100
評価指標	取り込む力・知識		5			20			25
	思考・推論・創造の力					20			20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		5			30	10		45

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-2-3-4-5-6	姿勢評価 形態測定 姿勢バランス	演習 理学療法実習室 運動解析室	解剖学（骨ランドマーク、筋など） 運動学（運動制御、姿勢制御など）	45
7-8-9-10-11-12	動作分析（起居動作） 動作分析（立ち上がり） 動作分析（歩行）	演習 理学療法実習室 運動解析室	基礎運動学	45
13-14-15-126-17-18	関節可動域テスト（上肢・下肢・頸部体幹） 徒手筋力検査（上肢・下肢・頸部体幹）	演習 理学療法実習室 運動解析室	骨ランドマーク 筋の起始、停止 支配神経 ROM,MMTのDVDを確認する	60
19-20-21-22	後期実技試験 復習	演習 理学療法実習室 運動解析室	総復習	60
23-24-25-26	OSCE勉強会	演習 理学療法実習室 運動解析室	総復習 グループ学習	60
27-28-29-30	OSCE	演習 理学療法実習室 運動解析室	総復習 グループ学習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法評価学演習			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・1,2年次に習得した基礎医学，臨床医学，理学療法専門科目の知識および技術が必要です.
・課題が多いため，計画的な学習を進めてください.
＊この科目は実務経験者対応科目です

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・臨床評価実習を想定した演習が中心となります.
・作成したレポートなどの課題は随時返却します.
・試験結果は解答用紙のみ返却します.

【講義概要】

(目的)

・疾患の病態像を把握し，症例に則した理学療法評価を実施するための思考過程を学ぶ
・評価から得られた結果を統合・解釈する過程を学ぶ
・臨床評価実習に必要な知識をまとめ，表出できるようにする
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2，P-2,3,4

(方法)

・提示された症例に対して理学療法評価を選択し，実施する
・実施した内容を記録し，レポートにまとめる
・解剖学，生理学，運動学を中心とした基礎医学範囲および理学療法評価学に関連する筆記試験を行う

【一般教育目標(GIO)】

・疾患に応じた理学療法評価を実施することができる
・評価から得られた結果に基づき，統合と解釈を行い，各症例の問題点の抽出ができる
・統合と解釈の過程を口頭および記述で説明できる
・臨床実習に必要な知識を整理して表出することができる

【行動目標(SBO)】

・症例に応じ，理学療法評価を選択できる
・実施した評価から得られた結果をもとに，統合と解釈を行うことができる
・症例の問題点をICFに対応しながら検討し，抽出することができる
・1，2年で学習した基本的な医学関連知識の積み重ねができる

【教科書・リザーブドブック】

・基礎医学，臨床医学，理学療法専門科目で使用しているもの全て

【参考書】

・必要に応じて提示する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は，本学学則指定のGPA制度に従う
・筆記試験は3回実施し，各回60点以上を合格とする.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60			20	20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ				10	10			20
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・理学療法評価学に関する基礎知識確認試験 ・理学療法評価の進め方	講義，小試験	基本的評価事項に関する復習	90
2	・疾患に対する理学療法評価(1)	演習，グループワーク	・症例および評価に関する事前学習 ・実施内容のまとめ ・レポート作成	60 30 30
3	・疾患に対する理学療法評価(2)	演習，グループワーク	・症例および評価に関する事前学習 ・実施内容のまとめ ・レポート作成	60 30 30
4	・疾患に対する理学療法評価(3)	演習，グループワーク	・症例および評価に関する事前学習 ・実施内容のまとめ ・レポート作成	60 30 30
5	・疾患に対する理学療法評価(4)	演習，グループワーク	・症例および評価に関する事前学習 ・実施内容のまとめ ・レポート作成	60 30 30
6	・疾患に対する理学療法評価(5)	演習，グループワーク	・症例および評価に関する事前学習 ・実施内容のまとめ ・レポート作成	60 30 30
7	・評価のまとめ(1)	演習，グループワーク	・レポート作成 ・発表準備 ・振り返り	60 30 30
8	・評価のまとめ(2)	演習，グループワーク	・レポート作成 ・発表準備 ・振り返り	60 30 30

リハビリテーション学科

【科目名】	触診学Ⅰ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．実技を中心に実施するため、服装には注意すること。
２．触診の際にアクセサリーなど必要のない装飾品は禁止し、爪には十分注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．すでに学修したランドマーク、筋の起始・停止を復習しておくこと
２．学修した部位を理学療法評価に応用できるように意識すること。

【講義概要】

(目的)

理学療法に必要な運動器の異常を触診により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法の適応か否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,P-3

(方法)

１．体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触診により同定できるように実技を行う。
２．触診部位の正確性について実技試験を行い、その都度フィードバックする。

【一般教育目標(GIO)】

１．ランドマークを的確に触診することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができる。

【行動目標(SBO)】

１．ランドマークを的確に触診することができ、理学療法評価に応用することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができ、理学療法評価に応用することができる。

【教科書・リザーブドブック】

１．青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）、２；青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含まない。
・実技試験により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						100			100
評価指標	取り込む力・知識					100			100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	触診の基礎、ランドマークの触診（上肢）	実技	ランドマークを確認しておくこと	60
3.4	ランドマークの触診（体幹・骨盤帯）	実技	ランドマークを確認しておくこと	60
5.6	ランドマークの触診（下肢）	実技	ランドマークを確認しておくこと	60
7.8	肩甲骨の触診１	実技	肩甲骨の構造を理解し、肩甲骨の各部位を確認すること。	60
9.10	肩甲骨の触診２	実技	肩甲骨の構造を理解し、肩甲骨の各部位を確認すること。	60
11.12	肩甲帯周囲筋の触診１	実技	肩甲帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
13.14	肩甲帯周囲筋の触診２	実技	肩甲帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
15	上肢筋の触診	実技	上肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60

リハビリテーション学科

【科目名】	触診学Ⅱ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．実技を中心に実施するため、服装には注意すること。
２．触診の際にアクセサリーなど必要のない装飾品は禁止し、爪には十分注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．すでに学修したランドマーク、筋の起始・停止を復習しておくこと。
２．学修した部位を理学療法評価に応用できるように意識すること。

【講義概要】

(目的)

理学療法に必要な運動器の異常を触診により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法の適応か否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,P-3

(方法)

１．体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触診により同定できるように実技を行う。
２．触診部位の正確性について実技試験を行い、その都度フィードバックする。

【一般教育目標(GIO)】

１．ランドマークを的確に触診することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができる。

【行動目標(SBO)】

１．ランドマークを的確に触診することができ、理学療法評価に応用することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができ、理学療法評価に応用することができる。

【教科書・リザーブドブック】

１．青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）、２；青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含まない。
・実技試験により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						100			100
評価指標	取り込む力・知識					100			100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	上肢筋の触診	実技	上肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60
3.4	体幹・骨盤帯周囲筋の触診１	実技	体幹・骨盤帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
5.6	体幹・骨盤帯周囲筋の触診２	実技	体幹・骨盤帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
7.8	体幹・骨盤帯周囲筋の触診３	実技	体幹・骨盤帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
9.10	下肢筋の触診１	実技	下肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60
11.12	下肢筋の触診２	実技	下肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60
13.14	下肢筋の触診３	実技	下肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60
15	まとめ	実技	これまで学修してきたランドマーク・骨・筋の触診を復習し、スムーズに触診できるようにすること	60

リハビリテーション学科

【科目名】	触診学			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-16-0590-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．実技を中心に実施するため、服装には注意すること。
２．触診の際にアクセサリーなど必要のない装飾品は禁止し、爪には十分注意すること。
３．グループで実技を実施していく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．1・2年次に学修したランドマーク、筋の起始・停止を復習しておくこと

【講義概要】

(目的)

理学療法に必要な運動器の異常を触診により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法の適応か否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；A-2,P-3

(方法)

１．体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触診により同定できるように実技を行う。
２．触診部位の正確性について実技試験を行い、その都度フィードバックする。

【一般教育目標(GIO)】

１．ランドマークを的確に触診することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができる。

【行動目標(SBO)】

１．ランドマークを的確に触診することができる。
２．筋の起始・停止・走行を触診することができる。

【教科書・リザーブドブック】

１．青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）、２；青木隆明監修、改訂第2版運　動療法のための機能解剖学的触診技術（下肢・体幹）、メジカルビュー社、2015年、5700円（税別）

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
実技試験を実施する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						100			100
評価指標	取り込む力・知識					100			100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	触診の基礎、ランドマークの触診（上肢・体幹）	実技	ランドマークを確認しておくこと	60
2	ランドマークの触診（骨盤帯・下肢）	実技	ランドマークを確認しておくこと	60
3	体幹筋の触診	実技	体幹筋の起始・停止・走行を確認すること	60
4	肩甲帯周囲筋の触診	実技	肩甲帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
5	上肢筋の触診	実技	上肢筋の起始・停止・走行を確認すること	60
6	骨盤帯周囲筋の触診	実技	骨盤帯周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
7	大腿周囲筋の触診	実技	大腿周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60
8	下腿周囲筋の触診	実技	下肢周囲筋の起始・停止・走行を確認すること	60

リハビリテーション学科

【科目名】	疼痛学			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法評価学)	【授業コード】	3-16-0595-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 水，金：10:00-16:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

特になし．選択科目だが，理学療法士としては疼痛に関する知識は必要不可欠であろう．

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

ディスカッション時間を多く設け，一方的な講義はしません．
また，臨床を想定した内容構成です．
ディスカッションできるよう，自分なりの知識を持って挑むことが望ましい．

【講義概要】

(目的)

・疼痛に関わる社会的な問題(疼痛関連疾患でどれほどの負担をしているのか)
・疼痛の意義について
・疼痛が生じるメカニズムについて
・疼痛メカニズムに基づく効果的な理学療法
当該科目と学位授与方針との関連性；P-1-4.

(方法)

スライド資料を使用．
指定教本等はありません．

【一般教育目標(GIO)】

本科目で学んだ内容を臨床でも活用できるよう，疼痛に関する知識を深め，理学療法の実践へ導くことができる．

【行動目標(SBO)】

以下の内容について，自己理解の上で説明ができる．
・疼痛メカニズムについて
・疼痛に関する理学療法について

【教科書・リザーブドブック】

特になし．

【参考書】

ペインリハビリテーション(三輪書店)
4,536円

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準等は，本学学則規定のGPA制度に従う．

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・科目オリエンテーション. ・疼痛に関わる国際・国内問題. ・疼痛の種類. ・疼痛のメカニズム.	形式：講義，議論		
3,4	・小テスト(5問程度)：前回内容. ・前回講義の復習. ・疼痛に対する生体反応. ・疼痛に対する評価	形式：講義，議論		
5,6	・小テスト(5問程度)：前回内容. ・前回講義の復習. ・疼痛への対処法. ・疼痛コントロール.	形式：講義，議論		
7,8	・小テスト(5問程度)：前回内容. ・前回講義の復習. ・これまでの内容の総復習. ・試験内容説明.	形式：講義		

リハビリテーション学科

【科目名】	物理療法学Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0600-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜; 8:30～17:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理学の知識が必要となることがあるので1年次に「物理学」の履修が勧められる。
・この科目は物理療法学Ⅰ・Ⅱのセット履修となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。
※この科目は実務経験者対応科目です。

【講義概要】

(目的)

疾病の治療もしくは症状の改善を目的に行われる物理療法を、適応となる疾病と生理学に基づいた
個々の物理療法手段の治療的根拠を理解し、物理療法の効果、適応と禁忌について学修することを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

・講義とグループワークを主体とした授業です。
・授業では理解度チェックや小テストなどを携帯電話(スマホ)を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので確認しておいてください。

【一般教育目標(GIO)】

・　物理療法の治療概念、治療根拠について理解する。

【行動目標(SBO)】

・　代表的物理療法についてその概念と治療方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

株式会社 南江堂 物理療法学テキスト(改訂第2 版) 4500 円

【参考書】

・特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含まれません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20	15				15	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	5					40
	思考・推論・創造の力	25	10	10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・オリエンテーション ・物理療法の概要と定義を学ぶ ・物理学の進歩と物理療法の歴史について学ぶ。	講義・演習(マルチメディア教室)	・Office365の利用ができるようにしておく。(自分のパソコンを持ってくることが望ましい。) ・ノート整理	20分 20分
3・4	・痛みのメカニズムと物理療法による抑制 ・物理療法の生理学的効果の概要を学ぶ ・物理療法の適応と禁忌について学ぶ	講義・演習	・ビデオ学修 ・物理療法の生理学的作用と治療効果および適応・禁忌を理解する。	20分 30分
5・6	・温熱療法の概要を学ぶ ・ホットパック療法について学ぶ	講義・演習	・ビデオ学修 ・体温調整の仕組みについて調べておく。 ・温熱療法の生理学的作用とホットパック療法について理解する。	20分 30分
7・8	・パラフィン浴について学ぶ。 ・エネルギー変換熱の概要について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・各種の温熱療法の適応と選択について学ぶ。 ・今まで学んだことを復習しておく。	20分 30分
9・10	高周波療法(1) ・極超短波療法について学ぶ。 ・超短波療法について学ぶ。 ・小テスト	講義・演習	・ビデオ学修 ・変換熱の適応と禁忌について復習する。	20分 30分
11・12	高周波療法(2) ・超音波療法について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・・超音波療法の非温熱効果と温熱効果についてまとめる。	20分 30分
13・14	光線療法(1) ・赤外線療法について学ぶ。 ・紫外線療法について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・赤外線と他の温熱療法の使い分けについて整理しておく。 ・紫外線の適応と治療量の決定について復習する。	20分 30分
15 試験	・まとめ ※科目テスト	講義・演習	・今までの講義を復習しておくこと。	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	物理療法学Ⅱ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0600-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜; 8:30～17:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・物理学の知識が必要となることがあるので1年次に「物理学」の履修が勧められる。
・この科目は物理療法学Ⅰを履修していることが前提となります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

疾病の治療もしくは症状の改善を目的に行われる物理療法を、適応となる疾病と生理学に基づいた
個々の物理療法手段の治療的根拠を理解し、物理療法の効果、適応と禁忌について学修することを目的とする。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

・講義とグループワークを主体とした授業です。
・授業では理解度チェックや小テストなどを携帯電話(スマホ)を使用し実施しますので持参してください。
・携帯電話で小テストを受けるにはOffice365のメールアドレスとパスワードが必要ですので確認しておいてください。
※この科目は実務経験者対応科目です。

【一般教育目標(GIO)】

・　物理療法の治療概念、治療根拠について理解する。

【行動目標(SBO)】

・　代表的物理療法についてその概念と治療方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

株式会社 南江堂 物理療法学テキスト(改訂第2 版) 4500 円

【参考書】

・特になし。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含まれません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	20	15				15	100
評価指標	取り込む力・知識	25	10	5					40
	思考・推論・創造の力	25	10	10					45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	光線療法(2) ・レーザー光線療法について学ぶ。 ・LLLT とHLLT について	講義・演習	・ビデオ学修 ・LLLT の生理学的作用と適応についてまとめる。	20分 30分
3・4	・寒冷療法の概要について学ぶ。 ・伝導冷却法、気化冷却法について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・寒冷療法の生理学的作用と各種の手技の使い分けについて理解する。 ・今まで学んだことを復習しておく。	20分 30分
5・6	・電気刺激療法の概要について学ぶ。 ・電気生理学的評価法について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・神経筋の変性に対する評価はどのようなものがあるか整理する。	20分 30分
7・8	・神経筋電気刺激(NMES)について学ぶ。 ・経皮的電気神経刺激(TENS)について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・TENS,NMES の特徴、適応、禁忌について復習する。	20分 30分
9・10	・機能的電気刺激療法(FES)について学ぶ。 ・バイオフィードバック療法について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・FES,バイオフィードバック療法の適応について整理する。	20分 30分
11・12	・牽引療法について学ぶ。 ・持続的他動運動装置(CPM)について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・牽引療法とCPM の適応と禁忌について整理しておく。	20分 30分
13・14	・水治療法の概要について学ぶ。 ・部分浴、全身浴について学ぶ。	講義・演習	・ビデオ学修 ・部分浴・全身浴の適応と禁忌について整理する。	20分 30分
15 試験	・まとめ授業 ・科目テスト	講義	・今までの講義を復習しておく。	1時間

リハビリテーション学科

【科目名】	物理療法学実習			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0605-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	23 コマ	(オフィスアワー) 月曜～金曜;8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・「物理療法学」を既に受講しているものを対象とする。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・授業に用いる資料の配布、レポートの提出は学校で提供するOffice365を使用します。
・授業に用いる資料は自分でダウンロードして授業に臨んでください。
・授業で小テスト・資料の閲覧などでパソコンあるいはタブレット端末を使用する機会があります。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。
※この科目は実務経験者対応科目です。

【講義概要】

(目的)

物理療法学を踏まえて各種の物理療法を学生相互で体験し、その適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実技を通して確認し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図ると同時に、物理療法効果を確認する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-3

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら各種の物理療法を学生間で実施する実習と中心とした授業形態とする。

【一般教育目標(GIO)】

・各種の物理療法機器の取り扱いと治療適応について知る。

【行動目標(SBO)】

・自立して物理療法機器の操作と治療判断ができる。

【教科書・リザーブドブック】

・細田多穂(監修);理学療法学テキスト(改定第2 版)、南江堂、2013 ¥4500 (2 年次購入)

【参考書】

・物理療法学の配布資料

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・宿題・レポート・小テストは必要に応じ不定期に課します。
・出席点は評価に含みません。
※レポート点は宿題も含みます。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	25	20	25		10	100
評価指標	取り込む力・知識		10			25			35
	思考・推論・創造の力		10	25					35
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション ・実習の方法の説明、グループ分け	講義・演習(マルチメディア教室、浅海・星野)	・ビデオ学修 ・次回実習の範囲を復習しておく。 ・ノート整理	20分 20分
2・3	・各種物理療法機器の取り扱い実習(1,2)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	20分 30分
4・5	・各種物理療法機器の取り扱い実習(3,4)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	20分 30分
6・7	・各種物理療法機器の取り扱い実習(5,6)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	20分 30分
8・9	・各種物理療法機器の取り扱い実習(7,8)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・ビデオ学修 ・実施した内容と次回実習の範囲を復習しておく。	20分 30分
10・11	・症例研究(1・2)	演習(PT専攻教室・星野)	・擬症例について自分の考えをまとめる。	30分
12・13	・症例研究(3・4)	演習(PT専攻教室・星野)	・擬症例について自分の考えをまとめる。	30分
14・15	・生理学的効果実験(1) ・生理学的効果実験(2)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・実験計画と使用機器のチェックを行っておく。 ・データ整理	10分 20分

16・17	・生理学的効果実験(3) ・生理学的効果実験(4)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・実験計画と使用機器のチェックを行っておく。 ・データ整理	10分 20分
18・19	・生理学的効果実験(5) ・生理学的効果実験(6)	実習(運動解析室・水治療法室、浅海・星野)	・実験計画と使用機器のチェックを行っておく。 ・発表原稿、抄録の準備	10分 60分
20・21	・実験結果発表(1)（浅海） ・実験結果発表(2)（浅海）	演習(PT専攻教室・星野)	・提出レポートの作成	60分
22・23	・実技テスト(1) ・実技テスト(2)	実習(運動解析室・水治療法室)	・実技テストに備えて全ての療法について復習すること。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学Ⅰ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技・グループワークを行うことがあるため、その際は服装に注意すること。
試験の解答用紙の返却はしないが、閲覧はオフィスアワー時に閲覧可能。
また試験結果について、希望する学生には解説をするため、事前にメールで連絡をすること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

予習を行い、講義には積極的に臨むこと

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の目的や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；P-3

(方法)

教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行い、それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常生活活動（ADL)とは何かを理解し、適切な評価方法について学ぶ。また、各種疾患にみられる特徴的な活動制限について理解し、適切なADL指導の考え方や方法を理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

①日常生活活動（ADL）の概念について説明できる。②ADL評価の目的や評価方法が説明できる。③バーセルインデックスとFIMの違いについて説明できる。④動作観察や動作分析の方法について説明できる。⑤基本的な介助方法が説明できる。⑥各種疾患の病態や障害を理解し、適切なADL指導の方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
河元岩男・他：日常生活活動学テキスト，改訂第2版，南江堂，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
出席点は評価には含まない。
成績評価は、試験とレポート点により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90		10					100
評価指標	取り込む力・知識	70		5					75
	思考・推論・創造の力	20		5					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	日常生活活動（ADL)の定義	講義	教科書（p4-13）をよみ、ADLの定義について理解しておくこと。	60
２・３	ADLと国際生活障害分類（ICF)について	講義	ICFについて、教科書等で調べておくこと。症例に対するICFでの問題点の抽出方法を次回の講義で実施するため、配布した事前課題について調べておくこと。	90
４・５	ICFに準じた症例の問題点抽出について	グループワーク	事前課題に対する問題点を抽出できるようにあらかじめ問題点について検討しておくこと。 レポート提出あり。	120
６・７	ADL評価（FIMについて）	講義	教科書（p52-79）を読み、FIMの特徴について理解しておくこと。	60
８・９	ADL評価（バーセルインデックス・その他の評価法について）	講義	教科書（p33-51）を読み、バーセルインデックス等のADL評価の特徴について理解しておくこと。	60
１０・１１	ADLの運動学的分析	講義	基礎運動学で学修した動作の運動学的用語を確認しておくこと。	60
１２・１３	基本動作（立ち上がり）と移乗動作１	実技	立ち上がり動作のメカニズムについて、学生同士で確認すること。	60
１４・１５	基本動作（立ち上がり）と移乗動作２ まとめ	実技	立ち上がり動作のメカニズムについて、学生同士で確認すること。	

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0610-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	【木村】k.kimura@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

実技を行うことがあるため、その際は服装に注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

予習を行い、講義には積極的に望むこと。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の目的や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；P-3

(方法)

教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行い、それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。

【一般教育目標(GIO)】

日常生活活動（ADL）とは何かを理解し、適切な評価方法について学ぶ。また、各種疾患にみられる特徴的な活動制限について理解し、適切なADL 指導の考え方や方法を理解することを目標とする。

【行動目標(SBO)】

基本的な介助方法が説明できる。
各種疾患の病態や障害を理解し、適切なADL 指導の方法を説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
レポートと筆記試験により評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	10						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺1-	講義（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
3.4	障害別日常生活活動訓練の実際-片麻痺2-	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
5.6	障害別日常生活活動訓練の実際-脊髄損傷-	講義（木村）	（予習）教科書（p126-141）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
7.8	障害別日常生活活動訓練の実際-切断-	講義（木村）	（予習）教科書（p168-177）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
9.10	障害別日常生活活動訓練の実際-関節リウマチ-	講義（木村）	（予習）教科書（p153-160）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
11.12	障害別日常生活活動訓練の実際-パーキンソン病脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症-	講義（木村）	（予習）教科書（p192-207）を読んでおくこと （復習）講義の内容をまとめること	30
13.14	各疾患における日常生活の検討	講義（木村）	講義1-12の内容を復習すること 脊髄損傷の小テスト	30
15	まとめ	講義（木村）		30

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学実習			【担当教員】 木村　和樹、松林　義人、押木　利英子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0615-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	【松林】matsubayashi@nur.ac.jp 【木村】k.kimura@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	23コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00（水曜日を除く）

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義と実技を交えながらすすめる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義や実技には積極的に望むこと。
実技にふさわしい服装で受講すること。

【講義概要】

(目的)

日常生活活動学で学んだ多様な障害に対する評価方法、日常生活活動・動作の指導方法の原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について実技を通して学修する。また疾病や障害における日常生活上の禁忌事項や注意事項について理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；P-3

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら実技を中心とした授業形態で行う。

【一般教育目標(GIO)】

正常な基本動作・歩行動作について理解する。また代表的な疾患の動作の特徴を理解し、基本的な日常生活指導が実施できる。
日常生活活動を補助するための、福祉機器の処方と使用について理解する。

【行動目標(SBO)】

① 日常生活活動と障害について説明できる
② 正常な基本動作・歩行の運動学的分析ができる
③ 代表的な疾患における日常生活活動を分析し、基本的な日常生活指導が実施できる
④ 各種疾患に処方される福祉機器の用途と特徴について理解し、使用することができる

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
筆記試験、成果発表により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80			20				100
評価指標	取り込む力・知識	40			5				45
	思考・推論・創造の力	40			5				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				5				5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ADLの概念と評価	講義（松林）	（予習）教科書（p4-32,52-71）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
2	基本動作（寝返り・起き上がり）の運動学的分析1	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
3	基本動作（寝返り・起き上がり）の運動学的分析2	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
4	座位姿勢の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
5	基本動作（立ち上がり）の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
6	基本動作（立ち上がり）と立位姿勢の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
7	正常歩行の運動学的分析1	実習（松林）	（予習）基礎運動学の正常歩行に関する内容を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
8	正常歩行の運動学的分析2	実習（松林）	（予習）基礎運動学の正常歩行に関する内容を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30

9	片麻痺患者に対するADL指導-片麻痺の特徴と指導時の留意点-	実習（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
10	片麻痺患者に対するADL指導-基本動作の特徴と指導方法について-	実習（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
11	片麻痺患者に対するADL指導の復習 成果発表①	実習（木村）	片麻痺患者に対するADL指導ができるように復習しておくこと	30
12	脳性麻痺（児）の障害特性とADL	講義・実習（押木）	（予習）教科書（p142-152）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
13	脳性麻痺（児）のADL指導	講義・実習（押木）	（予習）教科書（p142-152）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
14	脊髄損傷の病態、ADL指導起居動作に対する指導方法	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p126-131）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
15	脊髄損傷の病態、ADL指導移乗動作、歩行	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p131-141）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
16	脊髄損傷患者に対するADL指導の復習 成果発表②	講義・実習（木村）	脊髄損傷患者に対するADL指導ができるように復習しておくこと	30
17	大腿骨頸部骨折のADL指導 変形性関節症のADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p161-167）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
18	歩行補助具の種類、適応	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p90-96）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
19	関節リウマチの病態、ADL指導 関節リウマチに対する自助具、補装具の適応と処方	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p80-89.153-160）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30

20	切断患者のADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p168-177）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
21	パーキンソン病の病態とADL指導 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の病態とADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p192-207）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
22	車椅子の処方、身体計測とテェックアウト	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p97-111）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
23	症例に合わせたADL指導の復習 成果発表③	講義・実習（木村）	提示する症例に対するADL指導ができるように復習しておくこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	日常生活活動学実習			【担当教員】 木村　和樹、松林　義人、押木　利英子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0615-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	【松林】matsubayashi@nur.ac.jp 【木村】k.kimura@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	23コマ	(オフィスアワー) 平日9:00-17:00（水曜日を除く）

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

講義と実技を交え、学生間でディスカッションをしながらすすめる。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義や実技には積極的に望むこと。

【講義概要】

(目的)

日常生活活動学で学んだ多様な障害に対する評価方法、日常生活活動・動作の指導方法の原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について実技を通して学修する。また疾病や障害における日常生活上の禁忌事項や注意事項について理解することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性；P-3

(方法)

専任教員の指導を仰ぎながら実技を中心とした授業形態で行う。

【一般教育目標(GIO)】

正常な基本動作・歩行動作について理解する。また代表的な疾患の動作の特徴を理解し、基本的な日常生活指導が実施できる。
日常生活活動を補助するための、福祉機器の処方と使用について理解する。

【行動目標(SBO)】

① 日常生活活動と障害について説明できる
② 正常な基本動作・歩行の運動学的分析ができる
③ 代表的な疾患における日常生活活動を分析し、基本的な日常生活指導が実施できる
④ 各種疾患に処方される福祉機器の用途と特徴について理解し、使用することができる

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
筆記試験、成果発表により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80			20				100
評価指標	取り込む力・知識	40			5				45
	思考・推論・創造の力	40			5				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢				5				5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	ADLの概念と評価	講義（松林）	（予習）教科書（p4-32,52-71）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
2	基本動作（寝返り・起き上がり）の運動学的分析1	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
3	基本動作（寝返り・起き上がり）の運動学的分析2	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
4	座位姿勢の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
5	基本動作（立ち上がり）の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
6	基本動作（立ち上がり）と立位姿勢の運動学的分析	実習（松林）	（予習）教科書（p36-51）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
7	正常歩行の運動学的分析1	実習（松林）	（予習）基礎運動学の正常歩行に関する内容を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
8	正常歩行の運動学的分析2	実習（松林）	（予習）基礎運動学の正常歩行に関する内容を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30

9	片麻痺患者に対するADL指導-片麻痺の特徴と指導時の留意点-	実習（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
10	片麻痺患者に対するADL指導-基本動作の特徴と指導方法について-	実習（木村）	（予習）教科書（p114-125）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
11	片麻痺患者に対するADL指導の復習 成果発表の準備	実習（木村）	片麻痺患者に対するADL指導ができるように復習しておくこと	30
12	脳性麻痺（児）の障害特性とADL	講義・実習（押木）	（予習）教科書（p142-152）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
13	脳性麻痺（児）のADL指導	講義・実習（押木）	（予習）教科書（p142-152）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
14	脊髄損傷の病態、ADL指導起居動作に対する指導方法	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p126-131）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
15	脊髄損傷の病態、ADL指導移乗動作、歩行	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p131-141）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
16	片麻痺患者に対するADL指導の復習 成果発表	講義・実習（木村）	片麻痺患者に対するADL指導の成果発表の準備をする	30
17	大腿骨頸部骨折のADL指導 変形性関節症のADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p161-167）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
18	歩行補助具の種類、適応	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p90-96）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
19	関節リウマチの病態、ADL指導 関節リウマチに対する自助具、補装具の適応と処方	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p80-89.153-160）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30

20	切断患者のADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p168-177）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
21	パーキンソン病の病態とADL指導 脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症の病態とADL指導	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p192-207）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
22	車椅子の処方、身体計測とチェックアウト	講義・実習（木村）	（予習）教科書（p97-111）を読んでおくこと （復習）理解し、整理すること	30
23	症例に合わせたADL指導の復習	講義・実習（木村）	提示する症例に対するADL指導ができるように復習しておくこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患理学療法学			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0620-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicorosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水：13:30-15:00, 木：9:30-12:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

教科書は毎回必ず持参すること.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・臨床で非常に多くの機会がある運動器疾患. どのような疾患が存在するのか, まずはその病態から知識をつけていきます.
・病態に基づいた評価を学び, その目的も含めて学んでいきます.
・2年次までの履修修得した知識を定着させておくこと.

【講義概要】

(目的)

当該科目と学位授与方針等との関連性：P-3.
各種の運動器疾患に関する①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを学び, 臨床応用できるように学修します.
当該科目と学位授与方針との関連性；P-1-4.

(方法)

教科書, スライドを使用して, ①講義②ディスカッションを行います.
また, 事例検討も行い, より臨床実践を想定した時間も設けます.
なお, 毎講義終了前に講義内容に関する確認テストを行い, 講義内容理解の確認を行います.

【一般教育目標(GIO)】

各種の運動器疾患に対して, ①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを立案できる.

【行動目標(SBO)】

各種の運動器疾患に対して, ①疾患名②疾患の病態③病態に合わせた評価手技④評価結果の解釈⑤治療法立案⑥治療の一連の流れを説明することができる.

【教科書・リザーブドブック】

運動器の運動療法　第一版
羊土社. 5,000円

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価は基準は, 本学学則規定のGPA制度に従う.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	20		10				100
評価指標	取り込む力・知識	50	10		2				62
	思考・推論・創造の力	20	10		2				32
	コラボレーションとリーダーシップ				2				2
	発表力				2				2
	学修に取り組む姿勢				2				2

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・講義オリエンテーション ・運動器疾患の概論	・講義 ・北村		
2	腰痛疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
3	腰痛疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
4	腰痛疾患の病態と評価，治療(3) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
5	股関節疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
6	股関節疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
7	股関節疾患の病態と評価，治療(3) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
8	膝関節疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・佐々木		

9	膝関節疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・佐々木		
10	足関節疾患の病態と評価，治療 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・佐々木		
11	肩関節疾患の病態と評価，治療(1) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
12	肩関節疾患の病態と評価，治療(2) 確認テスト	・講義 ・ディスカッション ・北村		
13	・これまでの総復習 ・症例発表会の説明	・講義 ・ディスカッション ・北村，佐々木		
14	症例発表会(1)	・講義 ・ディスカッション ・北村，佐々木		
15	症例発表会(2)	・講義 ・ディスカッション ・北村，佐々木		

リハビリテーション学科

【科目名】	運動器疾患理学療法学実習			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0625-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kitataku11260207@gmail.com	
【単位数】	2	【コマ数】	23コマ	(オフィスアワー) 水：13:30-15:00, 木：9:30-12:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

教科書は必ず持参すること.
また，本科目は運動器疾患理学療法学で実施した内容を実技を中心に学ぶものです.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義終わりには必ず次講義の内容を説明します.
内容を確認した上で，各自予習をすること.
また，実技試験があることから，各自で実技練習を積極的に取り入れること.

【講義概要】

(目的)

当該科目と学位授与方針等との関連性：P-3
臨床で非常に多くの運動器疾患に遭遇します．その際に，疾患に即した評価法や治療計画がたてられないと，効果的な理学療法は提供できません．本科目では，運動器疾患理学療法学で学んだ内容を，実技を通して修得し，自ら選択実践できるようになること.
さらに，その結果の解釈をできるようになることを目的とします．当該科目と学位授与方針との関連性；P-1-4.

(方法)

運動器疾患で使用した資料，および本科目で配布される資料を参考にしながら，実技中心の学修をしていきます.
実技時は必ずケーシーを着用し，実習を想定した身だしなみで行います.

【一般教育目標(GIO)】

各種の運動器疾患の病態に基づく理学療法評価を実践し，その結果の解釈ができる.
また，解釈した結果から，より効果的な治療プランを立てることができる.

【行動目標(SBO)】

・各種の運動器疾患の病態に基づく理学療法評価について項目をあげられる.
・あげられた項目の評価を正確に実施できる.
・実施した評価結果を正しく解釈することができる.
・解釈の結果から，理学療法プランを立案できる.

【教科書・リザーブドブック】

運動器疾患理学療法学と同じ.

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は，本学学則規定のGPA制度に従う.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50	10			40			100
評価指標	取り込む力・知識	30	10			10			50
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1,2	・講義オリエンテーション ・筆記試験 ・運動器共通評価(実技) 1限：通常教室 2限：実習室	・形式：講義,実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
3,4	・腰痛疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
5,6	・腰痛疾患の評価，治療(2)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
7,8	・腰痛疾患の評価，治療(3)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
9,10	・股関節疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
11,12	・股関節疾患の評価，治療(2)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
13,14	・股関節疾患の評価，治療(3)実技	・形式：実技 ・担当：北村	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
15,16	・膝関節疾患の評価，治療(1)実技	・形式：実技 ・担当：佐々木	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	

17,18	・膝関節疾患の評価，治療(2)実技，実技試験	・形式：実技，試験 ・担当：佐々木	試験順番等は事前に連絡します.	
19,20	・足関節疾患の評価，治療.　実技	・形式：実技 ・担当：佐々木	「運動器疾患理学療法学」の内容を実施します. 必ず参考書，自身で記載したノート類を持参するように.	
21,22	・実技テスト(膝，肩以外)	・形式：実技，試験 ・担当：北村，佐々木	試験順番等は事前に連絡します.	
23	・全体実技復習	・形式：実技 ・担当：北村，佐々木	これまでの総復習です.	

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0630-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金　8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う際は、動きやすい服装で受講してください。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・レポートは他に支障がない限り返却します。
・試験の解答は、原則返却しません。
・筋・支配神経、脊髄・中枢神経系の解剖・生理学について復習しておいてください。

【講義概要】

(目的)

・脳血管障害と脊髄損傷の２大疾患について、原因、症状、合併症を学習し、それらの障害に対する理学療法について理解することを目的とする。脊髄・中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ることで、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。

当該科目と授与方針等との関連性：P-3

(方法)

教科書の他、資料を配布して講義を行う。
講義と実技、グループワークを繰り返しながら進める。適時、課題を出す。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経系の機能が損なわれるとどのようなことが起こるかを理解する。また脊髄損傷による症状、病態とそれが起こる理由、損傷レベルによる違い、対処法等について理解する。

【行動目標(SBO)】

①中枢神経系疾患によって生じる症状や合併症及びそれが起こる理由を説明できる。
②各疾患の病態に即した理学療法評価を選択し，実施できる.
③各疾患により障がいを受けた方の身体的・心理的・社会的問題とその解決策を検討することができる.
④対麻痺、四肢麻痺者の動作を模倣できる。

【教科書・リザーブドブック】

①吉尾雅晴：標準理学療法学専門分野，運動療法学各論，第2版，医学書院，￥5600　(1～9コマで使用)
②石川朗：15レクチャー，理学療法テキスト，神経障害理学療法学Ⅰ，中山書店，￥2400（10コマ以降使用）

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
期末試験および課題、その他を総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	オリエンテーション 脊髄損傷の原因・症状	講義	予習）脊髄損傷について調べておくこと （復習）教科書（pp201-202）、配布資料、で講義の内容を理解すること	30
2 前期	脊髄損傷の標準神経学的分類法 ASIA評価 Zancolli分類 Frankel分類	講義	（予習）筋・神経支配について学習しておくこと （復習）教科書（pp201-202）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
3 前期	脊髄損傷に対する運動評価	講義・実技	（予習）MMTについて学習しておくこと （復習）教科書（pp202-207）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
4 前期	脊髄損傷に対する感覚評価	講義・実技	（予習）デルマトーマについて学習しておくこと （復習）教科書（pp202-207）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
5 前期	関節可動域の評価	講義・実技	（予習）ROM・Tについて学習しておくこと （復習）教科書（pp202-207）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
6 前期	対麻痺の理学療法	講義・実技	（予習）前回までに学習しておくこと （復習）教科書（pp216-226）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
7 前期	四肢麻痺の理学療法	講義・実技	（予習）前回までに学習しておくこと （復習）教科書（pp216-226）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
8 前期	主な合併症と医学的管理 褥瘡、異所性骨化、排尿障害	講義	（予習）前回までに学習しておくこと （復習）教科書（pp207-216）、配布資料で講義の内容を理解すること	30

9 前期	呼吸障害に対する肺理学療法	講義・実技	（予習）呼吸について調べておくこと （復習）教科書（pp207-208）、配布資料で講義の内容を理解すること	30
10 前期	中枢神経系の機能と構造	講義	（予習）脳の機能解剖について予習しておくこと （復習）教科書（pp1-10）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30
11 前期	運動と感覚の中枢機能と構造	講義	（予習）随意運動の生理学的メカニズムについて （復習）教科書（pp11-20）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30
12 前期	脳血管障害の病態、回復過程	講義	（予習）脳血管障害について調べておくこと （復習）教科書（pp21-42）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30
13 前期	脳血管障害におけるリハビリテーションの流れ	講義	（予習）各時期別リハビリテーションについて調べておくこと （復習）教科書（pp53-62）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30
14 前期	脳卒中片麻痺者の運動障害の特徴	講義・実技	（予習）片麻痺について調べておくこと （復習）教科書（pp63-81）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30
15 前期	脳卒中片麻痺に対する評価	講義・実技	（予習）片麻痺機能評価について調べておくこと （復習）教科書（pp73-91）配布資料で講義内容を復習しておくこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学実習			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0635-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	23	(オフィスアワー) 月～金　8:30-18：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う時は、実技の行いやすい服装で授業に臨むこと。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・配布資料、教科書および参考書等での復習をしておくこと
・試験は実技試験を行い、結果については必要に応じて解説を加え実技指導も行います。
・レポートについては返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象疾患として最も多い中枢神経疾患の理学療法を実施できるようにするために、基礎的な知識と一般的な運動療法について学ぶ。そして評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3.4

(方法)

・教科書と配布資料を使用して講義を行う。講義形式としては、講義と実習または演習を繰り返しながら進める。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経疾患者の障害像を理解し、適切な評価を選択および障害に即した基本的な手技が実践できることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

１脳血管障害の病態・合併症・リスクなどを医学的観点から説明できる　２脳画像から基本的な脳の構造・機能について説明できる　３脳卒中片麻痺者の症状や動作の特徴を説明、模倣できる　４脳卒中片麻痺症例について評価から問題点を挙げ、基本的な手技について実施できる　５高次脳機能障害に対する評価の選択と治療が実施できる　６片麻痺者の肩の痛みに対する評価の選択と治療が実施できる　７片麻痺者の補装具の使用とその目的が説明できる　８頭部外傷の分類と臨床症状について説明できる

【教科書・リザーブドブック】

①大畑光司、他:理学療法テキスト,神経障害理学療法学Ⅰ,中山書店，2015.
②田崎義昭、他:ベッドサイドの神経の診かた，改訂第18版，南山堂，2016.

【参考書】

冨田昌夫監訳：ステップス・トゥ・フォロー，改訂第2版，シュプリンガー・ジャパン，2012

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
実技試験およびレポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10		90			100
評価指標	取り込む力・知識					30			30
	思考・推論・創造の力			10		30			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					30			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 前期	オリエンテーション 脳損傷の定義・病態	講義	（予習）脳損傷について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
2 前期	脳画像 医学的管理	講義	（予習）脳画像について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
3 前期	脳卒中片麻痺者の運動学的特徴	講義・実技	（予習）片麻痺の特徴について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
4.5 前期	脳卒中片麻痺に対する評価－神経学的評価―	講義・実技	（予習）評価学で学んだ評価方法について復習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
6.7 前期	脳卒中片麻痺に対する評価―姿勢・動作分析―	講義・実技	（予習）評価学で学んだ評価方法について復習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
8.9 前期	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－寝返り、起き上がり動作を中心に―	講義・実技	（予習）正常な動作について予習しておく （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと 30	30
10.11 前期	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－座位、立ち上がり動作を中心に―	講義・実技	（予習）正常な動作について予習しておく （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
12.13 前期	脳卒中片麻痺者に対する理学療法－立位・歩行を中心に－ 講義・実技	講義・実技	（予習）正常な動作について予習しておく （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30

14.15 前期	まとめ	講義・実技		30

リハビリテーション学科

【科目名】	中枢神経疾患理学療法学実習			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0635-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	23	(オフィスアワー) 月～金　8:30-18：00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う時は、実技の行いやすい服装で授業に臨むこと
・この科目は実務経験者対応科目です

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・配布資料、教科書および参考書等での復習をしておくこと。
・試験は実技試験を行い、結果については必要に応じて解説を加え実技指導も行います。
・レポートについては返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法の対象疾患として最も多い中枢神経疾患の理学療法を実施できるようにするために、基礎的な知識と一般的な運動療法について学ぶ。そして評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3.4

(方法)

教科書と配布資料を使用して講義を行う。講義形式としては、講義と実習または演習を繰り返しながら進める。

【一般教育目標(GIO)】

中枢神経疾患者の障害像を理解し、適切な評価を選択および障害に即した基本的な手技が実践できることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

１脳血管障害の病態・合併症・リスクなどを医学的観点から説明できる　２脳画像から基本的な脳の構造・機能について説明できる　３脳卒中片麻痺者の症状や動作の特徴を説明、模倣できる　４脳卒中片麻痺症例について評価から問題点を挙げ、基本的な手技について実施できる　５高次脳機能障害に対する評価の選択と治療が実施できる　６片麻痺者の肩の痛みに対する評価の選択と治療が実施できる　７片麻痺者の補装具の使用とその目的が説明できる　８頭部外傷の分類と臨床症状について説明できる

【教科書・リザーブドブック】

①大畑光司、他:理学療法テキスト,神経障害理学療法学Ⅰ,中山書店，2015.
②田崎義昭、他:ベッドサイドの神経の診かた，改訂第18版，南山堂，2016.

【参考書】

冨田昌夫監訳：ステップス・トゥ・フォロー，改訂第2版，シュプリンガー・ジャパン，2012

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
実技試験およびレポートにより総合的に評価する。
出席点は評価には含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10		90			100
評価指標	取り込む力・知識					30			30
	思考・推論・創造の力			10		30			40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					30			30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
16 後期	オリエンテーション 高次脳機能障害と理学療法 半側空間無視とプッシャー現象	講義・実技	（予習）高次脳機能障害とは何か予習しておく （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
17 後期	高次脳機能障害と理学療法（2） 失語症、遂行機能障害	講義・実技	（予習）前回の講義の復習 （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
18 後期	脳卒中後肩の痛みに対する理学療法	講義・実技	（予習）肩の運動学について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
19 後期	脳卒中片麻痺に対する下肢装具の選択	講義・実技	（予習）装具の種類について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
20 後期	頭部外傷に対する理学療法	講義・実技	（予習）頭部外傷とは何か予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
21 後期	運動失調に対する理学療法	講義・実技	（予習）運動失調の原因と評価について予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
22 後期	脳血管障害とADL	講義・実技	（予習）片麻痺者に対するADLについて予習しておくこと （復習）配布資料や教科書で講義内容を復習しておくこと	30
23 後期	まとめ	講義・実技		30

リハビリテーション学科

【科目名】	神経・筋疾患理学療法学			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0640-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 月～水，10:00-18:00の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・すでに履修がすんでいる科目については、理解している前提で授業を進めるので復習しておく。
・事前に配布された資料を予習しておく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・教科書、配布資料、動画を使用した講義を行う。
・授業開始時に前回授業内容のミニテストを行う。

【講義概要】

(目的)

神経・筋疾患および「神経性難病」は各疾患により異なる病因、特徴を有している．各疾患の病因、理学療法（疾患特異的）評価、理学療法プログラムについての学習を進め、各疾患の特徴を理解する。

(方法)

・教科書や配布資料、DVD を使用し、神経・筋疾患の理解を深め、理学療法評価・プログラムについて講義を行う。
・最終回には、疾患別の理学療法をグループで発表して、討論する。

【一般教育目標(GIO)】

臨床実習，臨床現場において神経・筋疾患および神経性難病を担当した場合に、問題解決を導ける疾患の病因、理学療法評価、理学療法プログラムについての知識を理解している。また、進行性疾患の理学療法の考え方について理解している。

【行動目標(SBO)】

・神経・筋疾患の病態像について説明できる。
・神経・筋疾患に対する理学療法評価について説明できる。
・神経・筋疾患に対する理学療法プログラムについて説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

資料、プリントを適時配布します。

【参考書】

1．細田多穂　他編集　『神経筋障害理学療法学テキスト』南山堂，2018年．￥5,400（税込み）
2．島田裕之　他編集　『高齢者理学療法学』医歯薬出版，2017年．￥9,720（税込み）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

1．成績基準は本学学則規程のGPA制度に従う。
2．記述試験（80%），ミニテスト（10%），出席・授業への取り組みなど（10%）で評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	10		5			5	100
評価指標	取り込む力・知識	60	10						70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	神経筋疾患とは何か 難病，神経難病とは何か 進行性疾患のリハビリテーションの考え方	講義		
2	パーキンソン病の理学療法	講義	（予習）事前に資料を配布 （復習）整理しまとめること	60分
3	脊髄小脳変性症の理学療法	講義	（予習）事前に資料を配布 （復習）整理しまとめること	60分
4	多発性硬化症の理学療法	講義	（予習）事前配布資料 （復習）整理しまとめること	60分
5	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	講義	（予習）事前に資料を配布 （復習）整理しまとめること。	60分
6	ギランバレー症候群の理学療法	講義	（予習）事前配布資料 （復習）整理しまとめること	60分
7	筋ジストロフィーの理学療法	講義	（予習）事前配布資料 （復習）整理しまとめること	60分
8	まとめ グループ発表	発表	（予習）グループごとに発表スライドを作成しておく	60分

リハビリテーション学科

【科目名】	発達障害理学療法学			【担当教員】	押木　利英子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0645-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	押木：oshiki@nur.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 押木：月・水　11:00～17:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

発達障害理学療法は理学療法の主要な分野のひとつです。必修科目であり、主体的な出席を望みます。
＊この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．この科目では30分以上の遅刻は欠席となります。
２．この科目の学修には「小児科学」関連の基礎知識が必須ですので、よく復習しておいてください。
３．試験結果は必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

運動発達障害児に対する理学療法では成長・発達の機序、評価法、運動療法について学びます。さらに、脳性麻痺、ダウン症などにおける運動機能障害が個々の発達や生活活動にどのような影響があるのかについて学修することを目的とします。
当該科目と学位授与方針との関連性；A-2
当該科目と学位授与方針との関連性；P-3,4

(方法)

主として教科書や配布資料を使用して講義を行います。また、必要に応じて個人学習やグループ課題を課して、それをもとにグループ討論、グループ発表を実施します。

【一般教育目標(GIO)】

・小児の正常運動発達・異常運動発達を理解し、その評価方法を習得する。
・小児の代表的な疾患児の運動療法の基本と主要疾患へのアプローチを習得する。

【行動目標(SBO)】

・小児の正常発達と異常運動発達が説明できる。
・発達に関する評価方法を理解し、実施できる。
・発達障害を伴う代表的な疾患の特徴とアプローチの方法を説明できる。
・疾患別の理学療法計画の立案・評価・実践ができる。

【教科書・リザーブドブック】

小児理学療法テキスト(改定3版)　田原弘幸 他　南江堂　2018年　4,860円
正常発達と脳性まひの治療とアイデア（第2版）Jung Sun Hongtyou 紀伊克昌　他　三和書店　2014年　4104円

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介します。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・出席点は評価に含みません。
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従います。
・成績評価：期末試験及び中間テスト、レポート、発表内容、その他により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	10	10				100
評価指標	取り込む力・知識	50	20						70
	思考・推論・創造の力	10		5					15
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	発達障害理学療法学総論 担当：押木	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」	60
2	正常発達 発達とは・発達指標とは 担当：押木	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ2～P13を読んでおく　復習：正常運動発達についてレポートにまとめる	90
3	正常発達（粗大運動、手、言語発達） 演習１ 担当：押木、中川	講義・グループワーク	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ2～P13を読んでおく	90
4	正常発達（粗大運動、手、言語発達） 演習２	講義・グループワーク	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ2～P13を読んでおく	90
5	各種発達評価法（１） 担当：押木	講義・演習	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ14～P32を読んでおく	90
6	各種発達評価法（２） 担当：押木	講義・演習	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ33～P53を読んでおく	90
7	発達・評価学　中間テスト 担当：押木	中間テスト（ペーパーテスト）	復習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ２～P53を読んで復讐する。	120
8	運動発達理論 運動発達障害とは 担当：押木	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ66～P92，P230～241を読んでおく。	90

9	運動発達障害の療育体系と指導 脳性まひ総論 担当：押木	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ76～P92　P230～241	60
10	二分脊椎児の理学療法 二分脊椎児の評価と治療 担当：立石	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ164～P175	60
11	整形外科疾患児の理学療法 整形外科疾患児の評価と治療 担当：立石	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ164～P175	60
12	脳性まひ児の評価と治療（1） 担当：押木　中川	講義・グループワーク	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ93～P109　プリント課題	60
13	脳性まひ児の評価と治療（２） 担当：押木・中川	講義・グループワーク	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ110～P175　プリント課題	90
14	染色体異常・知的発達障害児の理学療法（１）	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ176～P186　プリント課題	90
15	染色体異常・知的発達障害児の理学療法（２）	講義	予習：教科書「小児理学療法テキスト」Ｐ176～P186　プリント課題	90
	期末試験			

リハビリテーション学科

【科目名】	循環器疾患理学療法学			【担当教員】
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0655-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	munemura_k@ngt.saiseikai.or.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)授業開校日、非常勤控室で対応

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

今後、内部生涯（循環器）理学療法を学ぶ上での基礎となる科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

循環器の解剖・生理を復習しておくこと

【講義概要】

(目的)

心臓リハビリテーションを実施するにあたり虚血性心疾患の原因、運動療法、運動強度の決め方、リスク分類について講義する。
高齢者の運動、心電図、臨床での心臓リハビリについて講義する。

(方法)

資料を配布する。

【一般教育目標(GIO)】

心臓リハビリテーションが行えるために、虚血性疾患の病態、運動強度の決め方、運動療法、リスクについて理解する。高齢者に運動させるため、考慮すべき点について知識を得る。

【行動目標(SBO)】

虚血性心疾患の理学療法の原理が理解できる。心臓リハビリテーションに対する運動処方が理解できるようになる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

吉尾雅春・高橋哲也（編）「内部障害理学療法学」医学書院、2013、￥5,250

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA 制度に従う。
期末試験、レポートにより総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80			20				100
評価指標	取り込む力・知識	80			10				90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	心臓リハビリテーションの目的及び理解 循環器疾患総論	講義	循環器疾患について調べておく。	90分
2	循環器疾患総論② エネルギー消費量について 心臓の機能について	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
3	心臓リハビリテーションに必要な病態の評価・理解①	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
4	心臓リハビリテーションに必要な病態の評価・理解②	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
5	心電図から不整脈を読みとる	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
6	運動機能評価、プログラムの作成①	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
7	運動機能評価、プログラムの作成②	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分
8	患者教育、指導について	講義	（復習）講義内容を理解、暗記すること。	90分

リハビリテーション学科

【科目名】	代謝系疾患理学療法学			【担当教員】	木村　和樹
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0660-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 平日9：00-17：00（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

グループワークを行う際には、積極的に議論すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

一年次で履修した、解剖・生理学を復習しておくこと。
解剖学は膵臓、肝臓、腎臓について、生理学は代謝の範囲を復習する。

【講義概要】

(目的)

糖尿病の病態、合併症、理学療法について講義する。運動の人体に及ぼす影響、運動の適応と効果、チェックを講義する。運動を行い、その前後の血糖値を測定する。
当該科目と学位授与方針等との関連性；P-3.

(方法)

糖・脂肪・骨代謝について理解を行う。糖尿病やメタボリックシンドロームについて学習を行う。糖尿病に対する検査・評価方法を理解し、糖尿病患者に対する指導について教授する。配布資料、教科書を参考にすること。

【一般教育目標(GIO)】

我が国において、代謝系疾患である糖尿病患者数は約1,000万人いると推測されている。糖尿病の病期が進行（合併症）することによって他疾患を生じるリスクが高くなる。そのため、医療費の増加や身体機能が低下するとされている。しかし、正しい治療を行えば糖尿病の合併症の80%は予防することができる。そこで、医療職とし必要な知識を高めることを目的とする。

【行動目標(SBO)】

1.糖尿病にならない　2.合併症を生じない　3.寝たきりにならない
予防の観念は糖尿病理学療法の基本である。病気を治す時代から、病気にならない（病期が進行しない）で健康で過ごせる時代に変化している。予防という観念を持ちながら疾患の理解を深めることができる。

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

日本糖尿病療養指導士認定機構　編集・『糖尿病療養指導ガイドブック　(2016) 糖尿病療養指導士の学習目標と課題』メディカルレビュー社, 2016年. ¥3,024
清野裕　門脇孝　他監修・『糖尿病の理学療法』メジカルビュー社, 2015年. ¥5,616

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
レポート課題、期末試験で評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	肝臓、腎臓、膵臓について	講義（木村）	生理学で学んだ内容を復習しておくこと	30
2	代謝異常	講義（木村）	生活習慣病について理解する	30
3	肝臓・腎臓理学療法	講義（木村）	内部障害に関する運動療法を検討できる	30
4	糖尿病の疫学・検査	講義（木村）	一般的な医学検査を理解できる	30
5	糖尿病の合併症と運動療法	講義（木村）	レポート課題にまとめる	30
6	糖尿病教育（食事・薬）	講義（木村）	血糖値への影響を理解できる	30
7	糖尿病理学療法の評価・行動変容 レポート課題	講義（木村）	講義9.10の内容を中心にまとめる	30
8	糖尿病患者に対する理学療法	講義（木村）	配布された資料を復習すること	30

リハビリテーション学科

【科目名】	スポーツ障害理学療法学			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0665-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 水曜日12：45〜13：15	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

スポーツに関する理学療法に興味のある学生向けですが，身体運動機能障害全般に対して共通する評価のあり方を含めて学習します.
＊この科目は実務経験者対応科目です.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・解剖学，生理学，病理学，組織学，整形外科学，運動器疾患理学療法学，運動器疾患理学療法学実習のみならず，心理学，社会学等の知識を持ち合わせていることが望ましい.
・自らのスポーツ経験や受傷時の現病歴，既往歴，治療過程などがあれば，事前にまとめておくこと.
・講義期間中に作成したレポートは返却します.

【講義概要】

(目的)

・現代のスポーツの位置づけは，性別や年齢を問わず心身機能の維持・増進に必要な身体活動です．しかし，急性外傷や慢性障害が問題となり，理学療法の適応となる場合があります．スポーツ傷害の臨床症例を通して，基本的な理学療法の適応や評価・治療の流れを学び，臨床実践に活用することを目的とします.
＊当該科目と学位授与方針等との関連性；P-1,2,3,4

(方法)

・臨床症例をもとに，スポーツ傷害の理学療法に必要な基本的知識と評価方法，治療までの流れを学びます.

【一般教育目標(GIO)】

・スポーツの特徴を踏まえ，患者に即した理学療法評価や治療の基本的概念を理解する.

【行動目標(SBO)】

・一般的なスポーツ傷害と対象者の病態を関連づけ，説明することができる.
・対象者の症状や状況に即した理学療法評価について検討し，説明することができる.
・対象者に必要な治療，トレーニング，再発予防策，環境設定などをプログラムし，記述することができる.

【教科書・リザーブドブック】

・解剖学，生理学，組織学，病理学，整形外科学，各疾患別運動療法等の講義・演習で使用したもの

【参考書】

・講義の中で随時紹介する

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う.
・学内規定に基づく出席回数，提出課題，ディスカッション，発表等の授業態度および筆記試験を総合的に評価する.
・初回講義時に提出課題の評価規準を提示する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		30		30	40				100
評価指標	取り込む力・知識	20		10	10				40
	思考・推論・創造の力	10		15	5				30
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			5	10				15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	スポーツ傷害概説，課題発表	講義，発表	予習：課題発表準備	60
2	評価方法（1）	講義	予習：組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
3	評価方法（2）	講義	予習：組織学，病理学，理学療法評価学等の復習 復習：講義内容	30 30
4	評価・治療の実際（1）	ディスカッション，発表	予習：ケース検討 復習：レポート作成	30 60
5	評価・治療の実際（2）	ディスカッション，発表	予習：ケース検討 復習：レポート作成	30 60
6	評価・治療の実際（3）	ディスカッション，発表	予習：ケース検討 復習：レポート作成	30 60
7	評価・治療の実際（4）	ディスカッション，発表	予習：ケース検討 復習：レポート作成	30 60
8	確認とまとめ	講義，実技，試験，レポート作成	予習：1～7回講義および課題復習	60

リハビリテーション学科

【科目名】	老年期理学療法学			【担当教員】	小林　量作
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0665-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	r.kobayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～水, 10:00-18:00の在室時	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・すでに履修がすんでいる科目については、理解している前提で授業を進めるので復習しておく。
・事前に配布された資料を予習しておく。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・教科書、配布資料、動画を使用した講義を中心に行う。
・定期的に授業内容のミニテストを行う。

【講義概要】

(目的)

骨、関節、筋肉、神経などの運動器、肺などの呼吸器、心臓、血管などの循環器、心理・精神機能などは、加齢に伴い様々に変化する。これらの加齢性疾患は、要介護状態に至ることで大きな医療・社会的問題となっている。本授業では加齢性疾患の概要について講義して、理学療法に関連した疾患、状態を説明し、健康増進・介護予防、リハビリテーションについての知識を理解する。

(方法)

・配布資料、DVD を使用し、神経・筋疾患の理解を深め、理学療法評価・プログラムについて講義を行う。
・講義内容によって、学生間での討論を促す。

【一般教育目標(GIO)】

超高齢社会の現状、高齢者の身体機能、精神機能、リスク管理、疾患特異的な評価について理解している。

【行動目標(SBO)】

・超高齢社会の現状について説明できる。
・高齢者の身体機能、精神機能について説明できる。
・高齢者の一般的リスク管理、在宅でのリスク管理について説明できる。
・高齢者の包括的評価、疾患特異的評価について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

資料、プリントを適時配布します。

【参考書】

1．島田裕之　他編集　『高齢者理学療法学』医歯薬出版，2017年．￥9,720（税込み）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績基準は本学学則規程のGPA制度に従う。
・定期試験（90%）、授業への取り組み（10%）で評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1・2	・超高齢者社会の現状と課題 ・加齢に伴う身体的変化	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理し教科書のまとめ	60
3・4	・フレイル ・サルコペニア	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
5・6	・ロコモティブ症候群 ・骨粗鬆症と骨折	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
7・8	・転倒と骨折	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
9・10	・認知機能、認知症 ・うつ	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
11・12	・地域理学療法 ・訪問理学療法とリスク管理	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
13・14	・誤嚥性肺炎 ・低栄養、脱水など ・褥瘡	講義	(予習) 事前配布資料 (復習) 整理しまとめること	60
15	・まとめ ・グループ発表	講義 演習	(予習) グループごとに発表内容をまとめておく	60

リハビリテーション学科

【科目名】	老年期理学療法学実習			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0670-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1．老年期理学療法学を履修していることを原則とします。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

1．レポートは、添削後に返却します。

【講義概要】

(目的)

理学療法士が高齢者を対象とする機会が急増しているため、老年期の理学療法について充実させる必要性がある。本科目では、座学による「老年期理学療法学」を基礎として、実際の場面での理学療法について学修していく。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2, P-3,P-4

(方法)

老年期理学療法学で学修した内容を基本に、高齢者によくみられる疾患に対する理学療法について、実技を中心に実施する。また、各疾患に対する理学療法の根拠を文献で調べレポートにまとめる。

【一般教育目標(GIO)】

1．高齢者の身体的・精神的特徴を理解する。
2．高齢者への接し方や理学療法について理解する。

【行動目標(SBO)】

1．高齢者に対して適切に接することができる。
2．理学療法の立場から、高齢者に対する介入方法を理解することができる。

【教科書・リザーブドブック】

細田多穂　監修・シンプル理学療法学シリーズ　高齢者理学療法学テキスト、南江堂、2017年、3,800円（税別）

【参考書】

特になし

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
・出席点は評価に含まない。
・実技に対する取り組む姿勢、レポート課題より総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50		50			100
評価指標	取り込む力・知識			30		20			50
	思考・推論・創造の力			20		20			40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					10			10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション 高齢者の身体的変化について	講義	2年次の老年期理学療法学の内容を復習しておくこと。	30
2	高齢者の精神的変化について	講義	2年次の老年期理学療法学の内容を復習しておくこと。	30
3	高齢者に対する理学療法 ～大腿骨頚部骨折１～	実技	大腿骨頚部骨折の病態像・理学療法評価を確認しておくこと。	60
4	高齢者に対する理学療法 ～大腿骨頚部骨折２～	実技	大腿骨頚部骨折の病態像・理学療法評価を確認しておくこと。	60
5	高齢者に対する理学療法 ～脳血管障害１～	実習・グループワーク	脳血管障害の病態像・理学療法評価を確認しておくこと。	60
6	高齢者に対する理学療法 ～脳血管障害２～	実習・グループワーク	脳血管障害の病態像・理学療法評価を確認しておくこと。	30
7	高齢者に対する理学療法 ～パーキンソン病１～	実習・グループワーク	パーキンソン病の病態像・理学療法評価を確認しておくこと。	30
8	高齢者に対する理学療法 ～パーキンソン病２～	実習・グループワーク	パーキンソン病の病態像・理学療法評価を確認しておくこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	健康増進理学療法学			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門分野(理学療法治療学)	【授業コード】	3-17-0680-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月木12:40-13:30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

理学療法士として運動処方を行う際に基本となる知識を学ぶ科目である
＊この科目は、実務経験者対応科目である
＊当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2、P-1,2,3

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

計算により運動量などを求めいくるため、簡単な計算をすることがある
レポートは支障のない限り返却する

【講義概要】

(目的)

現代社会では健康増進に対する認識が高まり、さらに健康増進法に伴い理学療法の介入が大きく期待されている。本講義では、健康増進に必要な身体的構造について理解を深め、運動療法を中心とした理学療法の介入方法について学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-1,2
当該科目と学位授与方針等との関連性：P-2,3

(方法)

資料を配布し、講義を行う

【一般教育目標(GIO)】

・患者に対し運動処方を行うために必要な基礎的な運動処方に関する基礎的な知識を習得する
・疾患別の運動処方の目的を理解する

【行動目標(SBO)】

・目的に応じた適切な運動処方を考えることができる

【教科書・リザーブドブック】

プリントを配布する

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う
成績評価は、定期試験及びレポート点により総合的に評価する
出席点は評価に含まない

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	40		5					45
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5				10	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義		
2	運動処方総論① 運動処方を行う際に使用される用語、単位の理解	講義	復習）運動処方に関連する用語を理解する 運動量の計算方法を理解する	30分
3	運動処方総論② 運動処方を行う際に使用される用語、単位の理解	講義	復習）運動処方に関連する用語を理解する 運動量の計算方法を理解する	30分
4	運動処方　方法論 メタボリックシンドローム	講義	予習）メタボリックシンドロームとは何かを調べてくる 復習）メタボリックシンドロームに対する運動処方を作成できるようになる	30分
5	運動処方　方法論 糖尿病	講義	予習）糖尿病について調べてくる 復習）糖尿病に対する運動処方を行う際の注意点を理解できる 糖尿病に対する運動処方を作成できるようになる	30分
6	運動処方　方法論 心疾患	講義	予習）心疾患について調べてくる 復習）心疾患患者に運動処方を行う際の注意点を理解する 心疾患患者に対する運動処方を作成できるようになる	30分
7	筋力測定　実践	実技	筋力測定機器の使用法が理解できる 筋力測定時の注意点を理解できる	30分
8	補足	講義	それぞれの対象に対しての運動処方を考えることができる	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	生活環境論Ⅰ			【担当教員】	木村　和樹、松林　義人
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

模擬高齢者体験は校内で行うため、教員の指導に従って行動すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。
レポートは返却しませんが、講義内で課題全体に対するフィードバックを行います。

【講義概要】

(目的)

在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。
また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。
当該科目学位授与方針等との関連性；A-2,P-3, P-4

(方法)

高齢者は日常生活で環境的なバリアを感じることがあるため、実際に福祉用具・車いすを用いながら疑似体験を行う。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。
そのために必要 な知識や技術を理解し、実際に提供できるようにすることが目標となる。

【行動目標(SBO)】

①生活環境の概要について説明できる
②住宅改修や福祉用具を活用するために必要な法的制度について説明できる
③模擬高齢者などの体験をして、環境条件の影響を理解することができる

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
レポートにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション 生活環境学の概念	講義（木村）	（予習）教科書（p224-231）を読んでおくこと （復習）講義のまとめと疑問点の整理をすること	30分
3.4	日常生活を支援する機器（自助具、歩行補助具、車いす）	講義（木村）	（予習）教科書（p291-300）を読んでおくこと （復習）講義のまとめと疑問点の整理をすること	30分
5.6	車いす体験	校内実習	車いすの乗車者と介助者を体験して、車いすの操作方法を学ぶ	30分
7.8	模擬高齢者体験	校内実習	生活環境で高齢者に障害となる場面を理解する	30分
9.10	模擬体験のまとめ	校内実習	レポートを作成できるように体験の内容をまとめる	30分
11.12	高齢者の在宅サービス	講義（松林）	（予習）教科書（p248-274）を読んでおくこと （復習）講義のまとめと疑問点の整理をすること	30分
13.14	生活環境と法的制度	講義（松林）	（予習）教科書（p312-318）を読んでおくこと （復習）講義のまとめと疑問点の整理をすること	30分
15	総括	講義（松林）	高齢者の立場から福祉用具や生活環境の重要性を理解できる	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	生活環境論Ⅱ			【担当教員】	木村　和樹、松林　義人
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	k.kimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 平日9時～17時（火曜日を除く）	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

グループワークを行い成果発表を行います。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

講義中は私語を慎み、学ぶ姿勢をもって望むこと。
グループワークでは積極的に意見を述べて作業をすること。

【講義概要】

(目的)

在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。
また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。
当該科目学位授与方針等との関連性；A-2,P-3, P-4

(方法)

住宅改修、福祉用具の基礎を講義で行い、具体的な実践例の紹介からグループワークを交えたディスカッションを行い理解を深める。

【一般教育目標(GIO)】

理学療法士は、対象とする人の身体的および精神的機能の維持向上を図るだけではなく、各人がおかれている生活環境の中で、より豊かに自立した生活が送れるように支援することが求められる。
そのために必要 な知識や技術を理解し、実際に提供できるようにすることが目標となる。

【行動目標(SBO)】

①生活環境評価の手順を理解し、評価のポイントを説明できる
②生活環境改善計画の実際を理解し、症例に即した改善計画を立てることができる
③生活環境改善に必要な住宅改修や福祉用具について説明することができる

【教科書・リザーブドブック】

鶴見隆正，隆島研吾（編）：標準理学療法学，専門分野，日常生活活動学・生活環境学，第5版，医学書院，2017

【参考書】

伊藤利之・江藤文夫（編）：新版日常生活活動（ADL），評価と支援の実際，医歯薬出版，2010
野村歡・橋本美芽：OT・PTのための住環境整備論，第2版，三輪書店，2014

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規定のGPA制度に従う。
レポートにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合					100				100
評価指標	取り込む力・知識				30				30
	思考・推論・創造の力				20				20
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢				30				30

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1.2	オリエンテーション 障がい者の住宅改修の基本と進め	講義（松林）	住宅改修の基本について理解しておくこと	30分
3.4	障がい者の住宅改修（グループワーク①）	グループワーク	住宅改修の提案を自ら考えること	30分
5.6	住宅改修と理学療法	講義（木村）	（予習）教科書（p291-300）を読んでおくこと （復習）レポートにまとめられるように整理すること	30分
7.8	障がい者の住宅改修（グループワーク②）	グループワーク	住宅改修の提案を自ら考えること	30分
9.10	障がい者の住宅改修（グループワーク③）	グループワーク	住宅改修の提案を自ら考えること	30分
11.12	障がい者の住宅改修（グループワーク④）	グループワーク	住宅改修の提案を自ら考えること	30分
13.14	成果発表① 成果発表②	グループ発表	（予習）グループで発表に向けた準備をして望むこと （復習）質問や指摘事項をグループで整理すること	30分
15	総括	講義（松林、木村）	講義全体をよく理解し、まとめること	30分

リハビリテーション学科

【科目名】	地域リハビリテーション論			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】	3-18-0695-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

後期開講科目の地域理学療法学と関連づけて学修するようしてください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．グループワークを行うため、積極的に受講すること。
２．試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが返却はしません。

【講義概要】

(目的)

障がいをもつ人・高齢者が地域社会で生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることを支援するために保健・医療・福祉の動向を踏まえて、多面的な学習することを目的とする。

当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-2,P-3

(方法)

講義、グループワーク・実技を中心に実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・地域リハビリテーションについてまたその中での理学療法士の位置づけを理解すること。
・生活場面（在宅・介護福祉施設など）で理学療法士の具体的役割を理解する。

【行動目標(SBO)】

・地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割を考え具体的に取り組むことができる。

【教科書・リザーブドブック】

重森健太編、PT・OTビジュアルテキスト地域理学療法学、羊土社、2015年、￥4,500（税別）

【参考書】

大田仁史編、地域リハビリテーション論 Ver,6、三輪書店、2015年、￥2,600（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
成績評価は、期末試験、グループワークを通しての成果発表、レポートにより総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		50		20	30				100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力			10	10				20
	コラボレーションとリーダーシップ				5				5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			10	10				20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	地域リハビリテーション・地域理学療法の概念、	講義	地域リハビリテーションの歴史についてまとめること	30
2	地域での課題について１	講義	地域課題に対する取り組みはどのようなことがあるかをグループワークで発言できるように資料を集めること。	30
3	地域での課題について２ ～村上市人口ビジョンからみえてくるものとは～	講義・グループワーク	村上市人口ビジョンを配布するため、村上市にある地域課題を理解し、自分なりの意見を考えておくこと。	30
4	地域での課題について２ ～村上市人口ビジョンからみえてくるものとは～	講義・グループワーク	地域課題に対する解決策を提案できるように考えておくこと。	30
5	医療保険制度とは 医療保険におけるリハビリテーション１ ～急性期まで～	講義	医療保険制度について調べること、また急性期の定義・リハビリテーションにおける効果・リスク等について調べておくこと。	60
6	医療保険におけるリハビリテーション２ ～回復期～	講義	回復期の定義について調べておくこと。	30
7	医療保険におけるリハビリテーション３ ～維持期・終末期～	講義	維持期・終末期の定義について調べておくこと。	30
8	医療保険におけるリハビリテーション４ ～維持期・終末期～	演習・グループワーク	終末期医療の課題、リハビリテーション医療の進歩について理解し、グループワークで発言できるように準備しておくこと。	120

9	介護保険制度について１	講義	介護保険制度が成立した経緯、介護認定等について調べておくこと。	30
10	介護保険制度について２	講義	介護保険制度が成立した経緯、介護認定等について調べておくこと。	30
11	介護保険について１ 介護認定とケアプランをたてる	演習・グループワーク	福祉サービスの種類について調べ、それぞれの特徴を理解しておくこと。	30
12	介護保険について２ 介護認定とケアプランをたてる	演習・グループワーク	福祉サービスの種類について調べ、それぞれの特徴を理解しておくこと。	30
13	介護保険について３ 介護認定とケアプランをたてる	演習・グループワーク	福祉サービスの種類について調べ、それぞれの特徴を理解しておくこと。	30
14	成果発表 介護認定とケアプラン１	プレゼンテーション	症例に対するケアプランについてグループで検討しプレゼンの準備をしておくこと。	120
15	成果発表 介護認定とケアプラン２	プレゼンテーション	症例に対するケアプランについてグループで検討しプレゼンの準備をしておくこと。	120

リハビリテーション学科

【科目名】	地域理学療法学			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(地域理学療法学)	【授業コード】	3-18-0700-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

地域リハビリテーション論と関連づけて学習するよう。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．レポートは添削後に返却する。
２．試験結果について、解答の開示と点数の通知はしますが返却はしません。

【講義概要】

(目的)

本邦における少子高齢化・人口減少に対する地域理学療法のあり方を学び、各疾患におけるアプローチ方法、予防理学療法について理解する。

(方法)

在宅で実施する訪問リハビリを想定した実技を行う。また予防理学療法について、転倒予防等に対する実践方法をグループでディスカッションし、実践方法を検討する。

【一般教育目標(GIO)】

１．地域理学療法の概念、関連制度・法規について理解する。
２．疾患に応じた対象者の捉え方を理解し、医療・介護保険サービスが立案できるようにする。
３．予防理学療法の実践について理解する。

【行動目標(SBO)】

１．地域理学療法の関連制度・法規を理解し、対象者の医療・介護保険サービスが立案できる。
２．予防理学療法の位置づけ、実践方法について理解し説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

重森健太編、PT・OTビジュアルテキスト地域理学療法学、羊土社、2015年、￥4,500（税別）

【参考書】

大田仁史編、地域リハビリテーション論 Ver,6、三輪書店、2015年、￥2,600（税別）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
成績評価は、期末試験・レポートを通しての成果発表により総合的に評価する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90		10					100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	40		10					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	疾患別理学療法 パーキンソン病の病態	講義・実技	パーキンソン病の病態について理解しておくこと。	30
2	疾患別理学療法 パーキンソン病の評価と理学療法	講義・実技	パーキンソン病の評価・治療について理解しておくこと。	30
3	疾患別理学療法 骨関節障害の病態	講義・実技	変形性膝関節症について理解しておくこと。	30
4	疾患別理学療法 骨関節障害の評価と理学療法	講義・実技	変形性膝関節症の評価・治療について理解しておくこと。	30
5	予防理学療法 サルコペニアについて	講義	サルコペニアについて教科書・資料をよくみておくこと。	30
6	予防理学療法 認知症の概念と予防法	講義	認知症（特にアルツハイマー病）について理解しておくこと。	30
7	予防理学療法 転倒予防の概念と実践	講義	転倒予防について理解しておくこと。	30
8	まとめ	講義		30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法基礎実習			【担当教員】	佐々木　理恵子
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-19-0710-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	sasaki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	45	(オフィスアワー) 月木　12：40～13：30	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・本科目の履修条件は、2年次前期までの必修科目を修得しておくこと
・オリエンテーション、学内実習を欠席した場合、実習参加を認めない。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡を入れること
・オリエンテーション時には、実習に行く時と同様の身だしなみ（特に毛髪、爪）でいること。場合によっては身だしなみによってオリエンテーションや実習の参加を認めない場合もある
＊この科目は実務経験者対応科目である

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・実習の意義を把握すること
・オリエンテーション、学内・学外実習は遅刻厳禁

【講義概要】

(目的)

・理学療法士の魅力や難しさを体験し、役割や存在意義などを理解・学修する
・理学療法士として働くために必要な要因を学修する
・理学療法士に必要なコミュニケーション技術や評価技法を学修する
・理学療法士として働くのに必要な文章作成能力を学修する
＊当該科目と学位授与方針との関連性：A-1,2,3、P-1,2,3,4

(方法)

実習は学内実習と学外実習で構成
学内実習はオリエンテーションを含み、実習前及び実習後に学内にて実施する
学外実習宇は県内および県外の医療、福祉施設にて実施する
それぞれの期間は1週間であり、学内実習と学外実習を合わせて2週間とする

【一般教育目標(GIO)】

・臨床評価実習を円滑に行うために必要な知識と技術を身につける

【行動目標(SBO)】

・感染対策、事故防止を実践する
・デイリーノートの記載方法を学ぶ
・理学療法士として患者への関わり方を学ぶ

【教科書・リザーブドブック】

配布資料（オリエンテーションで配布）及び実習要綱

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				20	30			50	100
評価指標	取り込む力・知識			5				20	25
	思考・推論・創造の力			10	10			15	35
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			5	20				25
	学修に取り組む姿勢							15	15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション① ・実習の中での「基礎実習」の位置づけ ・将来を見据えた勉強方法、学修方法	講義 佐々木、他		
2	オリエンテーション② ・実習とはどのようなものか （先輩、指導者の立場から） ・基礎実習で必要とされる要素 （どのような準備をすればよいか）	講義 佐々木、他		
3	オリエンテーション③ ・基礎実習の目的 ・様々な目から見た実習の姿 （学生目線、指導者目線、患者・家族目線から）	講義 佐々木、他		
4	オリエンテーション④ ・実習前に提出する書類説明、作成 ・実習中に提出する書類の作成方法 ・実習後に提出する書類説明、作成	講義 佐々木、他		
５－８（１日間）	学内実習① ・身体機能評価技法の復習	講義、実技 PT専攻教員	・各種評価項目の目的の理解 ・各種評価方法の確認	
９－１２（１日間）	学内実習② ・身体機能評価技法の復習	講義、実技 PT専攻教員	・各種評価項目の目的の理解 ・各種評価方法の確認	
１３－１６（１日間）	学内実習③ ・身体機能評価技法の復習	講義、実技 PT専攻教員	・各種評価項目の目的の理解 ・各種評価方法の確認	
１７－２０（１日間）	学外実習（１日目）	医療機関または福祉施設		

２１－２４（１日間）	学外実習（２日目）	医療機関または福祉施設		
２５－２８（１日間）	学外実習（３日目）	医療機関または福祉施設		
２９－３２（１日間）	学外実習（４日目）	医療機関または福祉施設		
３３－３６（１日間）	学外実習（５日目）	医療機関または福祉施設		
３７－４０（１日間）	学内実習④ ・学内発表会 ・基礎実習の振り返り	発表 グループワーク 佐々木、他		

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床評価実習			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-19-0715-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	aoda@nur.ac.jp	
【単位数】	4	【コマ数】	90	(オフィスアワー) 水曜日12：50〜13：20	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

1．この科目を履修するには，実習開始までに実施した必修科目をすべて履修・修得すること.
2．学外実習は，学外実習前の客観的能力試験（OSCE）に合格しなければ履修を認めない.

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・実習要綱を熟読し，評価実習の目的・到達目標を確認しておくこと.

【講義概要】

(目的)

この科目は、臨床実習指導者の指導のもと，症例に即した評価方法の選択・実施、評価結果より問題点を考え，さらに症例の障害像を把握する課程を学ぶことを目的としている.

(方法)

学内実習は実習前後に実施する．学外実習では，医療機関等に赴き，臨床実習指導者のもと3 週間の実習を行う．学外実習前は実技試験を行い，学外実習後は指導教員の指導のもと実習課題やその内容の発表を行う.

【一般教育目標(GIO)】

1．理学療法評価の目的を理解し、症例に即した評価の選択・実施ができる.
2．症例に即した問題点を考え，その障害像を把握することができる.

【行動目標(SBO)】

1．臨床実習指導者の指導を受け，対象者に対し，適切な理学療法評価を行うことができる.
2．臨床症例をふまえ，身体機能の問題点を考え，障害像を把握することができる.

【教科書・リザーブドブック】

臨床実習要綱

【参考書】

理学療法に関する科目（基礎医学・臨床医学を含む）で使用した教科書，参考書

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。
1．学外実習を実施できるものは，実習前に実施するOSCEに合格したものとする.
2．成績評定は学外実習および学内実習の状況を総合的に判断する.

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				10	30	50	10		100
評価指標	取り込む力・知識			5	10	20			35
	思考・推論・創造の力			5	10	10	5		30
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力				10	5			15
	学修に取り組む姿勢					10	5		15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1-10	1．オリエンテーション ・臨床評価実習の目的等の概要について ・理学療法評価について 2．OSCE	講義・実習		
11-35 5コマ/日 ×5日間	学外実習（医療施設等） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価の実施	実技	デイリーノート、 ケースノート	
36-60 5コマ/日 ×5日間	学外実習（医療施設等） 理学療法見学、理学療法評価の実施と修正	実技	デイリーノート、 ケースノート	
61-85 5コマ/日 ×5日間	学外実習（医療施設等） 理学療法見学、理学療法評価の実施と修正とまとめ，振り返り	実技	デイリーノート、 ケースノート	
86-90	・学外実習の総括 ・実習課題や内容に関する報告	演習	報告書等の作成	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床総合実習Ⅰ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-19-0720-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	8	【コマ数】	180	(オフィスアワー) 月：11:00-15:30, 水：11:00-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．この科目を履修するためには、3年次までのすべての必修科目を履修すること。
２．学外実習前には、自ら取り組む課題に対して計画を立て、指導教員のもと積極的に取り組むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．実習要項を必ず熟読しておくこと。

【講義概要】

(目的)

この科目は、学内教育の総括となります。実習指導者の下で、理学療法について学びながら、自ら問題を解決できる能力を養い、卒後は即戦力のある専門職になることを自覚するために必要な知識や役割、行動、社会性を学びます。また、担当症例に対する適切な理学療法を行い、治療経過を観察・記録し、障害像を的確に把握することを学ぶ。

(方法)

【学内実習】実習前は実習計画を立て、計画に準じた課題を遂行する。実習後は症例発表を行い、プレゼンテーション能力を養う。
【学外実習】実習指導者の下、理学療法に必要な知識を整理する、また担当症例の評価から治療までの一連の流れを実施し、適切に経過を観察・記録し、障害像を把握する。

【一般教育目標(GIO)】

１．理学療法士として必要な知識を身につける。
２．適切な評価を行い、症例に即した治療を実施する。
３．経過を観察し、記録する。
4.治療結果の効果判定を行う。

【行動目標(SBO)】

１．必要な知識について自ら述べることができ、疑問点等は自ら解決できる。
２．症例に即した評価を円滑に行い、治療を行うことができる。
３．経過記録を記載し、障害像を把握することができる。
4.治療効果の効果判定を行うことができる。

【教科書・リザーブドブック】

実習要項，その他配布資料.

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	15	40		5	100
評価指標	取り込む力・知識			10	5	15		5	35
	思考・推論・創造の力			20	5	15			40
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			10		5			15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1週目 (1-25)	学外実習（1週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
2週目 (26-50)	学外実習（2週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
3週目 (51-75)	学外実習（3週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
4週目 (76-100)	学外実習（4週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート	
5週目 (101-125)	学外実習（5週目）□ 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート	
6週目 (126-150)	学外実習（6週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート ケースレポート	
7週目 (151-175)	学外実習（7週目）□ 理学療法見学、症例のまとめ	実技	デイリーノート ケースノート ケースレポート	
8週目 (176-180)	学内実習（8週目） 症例報告・総括	実技・演習	レジュメ，パワーポイント	

リハビリテーション学科

【科目名】	臨床総合実習Ⅱ			【担当教員】	北村　拓也
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	3-19-0720-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	kitamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	8	【コマ数】	180	(オフィスアワー) 月：11:00-15:30, 水：11:00-15:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

１．この科目を履修するためには、3年次までのすべての必修科目を履修すること。
２．学外実習前には、自ら取り組む課題に対して計画を立て、指導教員のもと積極的に取り組むこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

１．実習要項を必ず熟読しておくこと。

【講義概要】

(目的)

この科目は、学内教育の総括となります。実習指導者の下で、理学療法について学びながら、自ら問題を解決できる能力を養い、卒後は即戦力のある専門職になることを自覚するために必要な知識や役割、行動、社会性を学びます。また、担当症例に対する適切な理学療法を行い、治療経過を観察・記録し、障害像を的確に把握することを学ぶ。

(方法)

【学内実習】実習前は実習計画を立て、計画に準じた課題を遂行する。実習後は症例発表を行い、プレゼンテーション能力を養う。
【学外実習】実習指導者の下、理学療法に必要な知識を整理する、また担当症例の評価から治療までの一連の流れを実施し、適切に経過を観察・記録し、障害像を把握する。

【一般教育目標(GIO)】

１．理学療法士として必要な知識を身につける。
２．適切な評価を行い、症例に即した治療を実施する。
３．経過を観察し、記録する。
4.治療結果の効果判定を行う。

【行動目標(SBO)】

１．必要な知識について自ら述べることができ、疑問点等は自ら解決できる。
２．症例に即した評価を円滑に行い、治療を行うことができる。
３．経過記録を記載し、障害像を把握することができる。
4.治療効果の効果判定を行うことができる。

【教科書・リザーブドブック】

実習要項，その他配布資料.

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は本学学則規程のGPA制度に従う。
学内実習・学外実習の評価すべてを総合的に判断する。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	15	40		5	100
評価指標	取り込む力・知識			10	5	15		5	35
	思考・推論・創造の力			20	5	15			40
	コラボレーションとリーダーシップ					5			5
	発表力				5				5
	学修に取り組む姿勢			10		5			15

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1週目 (1-25)	学外実習（1週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
2週目 (26-50)	学外実習（2週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
3週目 (51-75)	学外実習（3週目） 理学療法見学、情報収集、理学療法評価	実技	デイリーノート ケースノート	
4週目 (76-100)	学外実習（4週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート	
5週目 (101-125)	学外実習（5週目）□ 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート	
6週目 (126-150)	学外実習（6週目） 理学療法見学、理学療法評価・治療	実技	デイリーノート ケースノート ケースレポート	
7週目 (151-175)	学外実習（7週目）□ 理学療法見学、症例のまとめ	実技	デイリーノート ケースノート ケースレポート	
8週目 (176-180)	学内実習（8週目） 症例報告・総括	実技・演習	レジュメ，パワーポイント	

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法技術学Ⅰ（画像診断）			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0735-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金　8:00-18;00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・この科目は、理学療法士として患者の障害像を把握する上で基礎となる重要な科目です。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・小テストは返却します。
・試験の解答は返却しませんが、結果についての解説は必要に応じて行います。
・解剖学（特に神経系）の復習をしておくこと。

【講義概要】

(目的)

①脳画像から病変を読み取り、予測される症状に対して、理学療法プログラム立案ができることを目的とする
②画像診断は、近年国家試験にも多く出題されることから、国家試験に対応できる力を養うことを目的とする

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3

(方法)

①症例を提示しながら、複数回グループワークを行った後、グループ発表を行う
②国家試験問題を紹介しながら講義を進める

【一般教育目標(GIO)】

脳卒中に対する理学療法をより早期から戦略的に実施するために、脳画像を一つのツールとして活用できるよう、基本的な見方を修得する

【行動目標(SBO)】

１．脳画像を把握する意義について説明ができる　２．各種脳画像の特徴と見方が説明できる　３．脳画像において、上行路と下行路を区別して説明することができる　４．脳卒中病変を脳画像から読み取ることができる　５．脳画像所見から臨床症状を予測することができる　６．予測される症状に対する理学療法治療プログラムを立案できる

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

①中島雅美、他：PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方，国試画像問題攻略，医歯薬出版，2016.
②高橋昭善：脳MRI，１．正常解剖，第2版，秀潤社，2010.
③原寛美・他：脳卒中理学療法の理論と技術，メディカルビュー，2013.

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含みません。

筆記試験および発表により総合的に評価する

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70	10	0	20	0	0	0	100
評価指標	取り込む力・知識	70	10						80
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 後期	講義概要の説明 脳画像活用の意義 脳画像の見方	講義・演習	予習）解剖学の復習 （復習）脳の構造を図示	30
2 後期	脳画像から上行路と下行路を鑑別	講義・演習	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）正常な脳の伝導路の理解	30
3 後期	脳卒中病変を読み取る	演習	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）脳卒中病変の理解	30
4 後期	脳画像から予測される臨床症状を予測する	演習	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は参考書等で確認する （復習）脳画像と臨床症状について理解	30
5 後期	症例に対する理学療法プログラムを立案する	演習	（予習）疑問点を明確にし、不明な点は教科書等で確認する （復習）基本的な理学療法を列挙する	30
6 後期	症例を提示 1～5までの作業を行いまとめて発表	演習	グループで不明な点や調べたことを確認し、共有する	30
7 後期	発表	演習	グループで不明な点や調べたことを確認し、共有する	30
8 後期	まとめ 振り返り	講義		30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法技術学Ⅱ（中枢）			【担当教員】	髙橋　明美
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金　8:00-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・実技を行う際は、実技の行いやすい服装で授業を受けること。
・この科目は実務経験者対応科目です。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・配布資料、参考書等での復習をしておくこと。
・レポートは返却します。試験の解答については返却しませんが、結果については必要に応じて解説を行います。

【講義概要】

(目的)

脳卒中に対する理学療法を展開できるようにする。その上で近年脳画像所見から戦略的に理学療法を展開していく傾向にあり、その一連の流れについて理解することを目的とする。また、臨床に出てから必要な治療技術にについても修得することを目的とする。

(方法)

症例を提示しながら、演習や実技を中心に進める。また講義では、脳卒中に対する理学療法（リハビリテーション）の新しい知見も紹介する。治療技術では、症例を提示しながら、実際の方法を実技を通して説明する。

当該科目と学位授与方針との関連性：P-3

【一般教育目標(GIO)】

脳卒中に対する理学療法を展開していく上で、脳画像を理学療法治療プログラム立案のツールとして活用し、より戦略的に理学療法が実施できるようにする。また、近年の脳卒中に対する理学療法の考え方や技術について理解する。

【行動目標(SBO)】

１．各種脳画像の特徴と見方が説明できる。２．脳画像所見から臨床症状を予測し、理学療法治療プログラムを立案することができる。３．立案した理学療法治療プログラムを実施できる。４．各時期別にアプローチが選択でき、実施できる。５．障害別アプローチについて理解し、実施できる。６．脳卒中に対する装具の活用方法を理解し、選択、調整まで実施できる

【教科書・リザーブドブック】

【参考書】

① Patricia M .Davies,冨田昌夫監訳:ステップス・トゥ・フォロー，改訂第2版,シュプリンガー・ジャパン，2012
② 吉尾政春，森岡周（編）：標準理学療法学，専門分野，神経理学療法学，医学書院，2013

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

本学学則規程のGPA制度に従う。
期末試験や課題の他、授業態度などを総合的に判断し、成績判定を行う。
出席点は評価には含まない。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20				10	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1 後期	オリエンテーション 運動麻痺の回復ステージ別アプローチ	講義	（予習）脳機能や障害について参考書等を読んでおくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
2 後期	急性期におけるアプローチ	講義・実技	（予習）脳機能や障害について参考書等を読んでおくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
3 後期	脳画像からの戦略的アプローチ	講義・実技	（予習）解剖学の教科書等で、脳の解剖や機能について復習しておくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
4 後期	病巣別障害に対する理学療法（1） 皮質脊髄路障害・視床・脳幹を中心に	講義・実技	（予習）神経経路や脳機能について復習しておくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
5 後期	病巣別障害に対する理学療法（2） 皮質脊髄路障害・視床・脳幹を中心に	講義・実技	（予習）神経経路や脳機能について復習しておくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
6 後期	高次脳機能障害に対するクリニカルリーズニング	講義・実技	（予習）脳の局在と高次脳機能について、参考書等を読んでおくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
7 後期	脳卒中に対する装具使用の考え方、方法	講義・実技	（予習）装具について復習しておくこと （復習）配布資料や実技の内容をまとめる	30
8 後期	まとめ 最近の知見	講義・実技	（予習）前回までの講義の資料をみておくこと （復習）すべての講義のまとめと試験に向けた準備を行うこと	30

リハビリテーション学科

【科目名】	理学療法技術学Ⅲ（徒手医学）			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0750-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

触診や実技を行うため、服装に注意すること。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

特になし

【講義概要】

(目的)

中枢神経障害や運動器疾患患者の臨床所見として観察される痛みに対して徒手での理学療法について、その特殊性と理論について理解を深め、理学療法の特殊技術を学修することを目的とする。
当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2,P-2,P-3

(方法)

実技を交えた講義を中心とする。

【一般教育目標(GIO)】

・本講義では、痛みのメカニズム、評価法および治療的アプローチについて教授し、理論に基づいた痛みに対するアプローチを行えるようにする。

【行動目標(SBO)】

・痛みのメカニズムに基づいた治療的手技に関する思考能力を高める。筋の触察方法・受容器の効率的な刺激法を学修する。痛みの改善を教授し理解を深める。

【教科書・リザーブドブック】

講義内で資料を配布する。

【参考書】

１．高田治実　著・マイオチューニングアプローチ入門　痛みと麻痺に対する治療的手技、協同医書出版社、2010年、￥6000（税抜）
２．鈴木重行　編・IDストレッチング第2版、三輪書店、2006年、￥4500（税抜）

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。
出席点は評価に含まない。
講義内の実技にて評価を行う。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合						100			100
評価指標	取り込む力・知識					60			60
	思考・推論・創造の力					20			20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	痛みのメカニズム	実技	痛みについて理解しておくこと。	30
2	触診 肩甲帯と骨盤帯	実技	触診学の内容を復習しておくこと。	30
3	ストレッチングの理論	実技	末梢神経に関する内容を理解しておくこと。	30
4	ストレッチングの実際 上肢・体幹	実技	上肢・体幹の筋の起始・停止を復習しておくこと。	30
5	ストレッチングの実際 下肢	実技	下肢の筋の起始・停止を復習しておくこと。	30
6	ストレッチングとマイオチューニング	実技		
7	臨床的応用：運動器	実技		
8	臨床的応用：中枢			

リハビリテーション学科

【科目名】	研究演習Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0755-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・4 年次に卒業論文を履修するものが受講対象となるが、それ以外の者でも将来就職してからの職場での研究発表を行いたい者も履修対象となる。
※選択科目ですが全員履修登録してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・事前に自分の理学療法における興味ある分野を明確にしておくこと。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。・

【講義概要】

(目的)

２年後期の「理学療法研究法」と４年における「卒業研究」との間で期間を開けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へとつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に着け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に着ける。

(方法)

ゼミ形式をとり、論文を輪読や、お互いに情報交換する。また卒業論文のテーマを探してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の研究法について原則を理解する。
・研究的思考能力を獲得する。

【行動目標(SBO)】

・自立して理学療法研究の計画を立案できる。
・倫理審査書類を作成できる。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-4

【教科書・リザーブドブック】

なし

【参考書】

各ゼミで配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・レポートおよび発表状況により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	30			30	100
評価指標	取り込む力・知識			20	10				30
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について	講義・浅海	・自分のテーマを決めておく。	20 分
2 ～ 15	(ゼミ内容の例) ・研究の流れについての説明・文献収集と抄読会 ・研究計画書作成・パイロットスタディーの実施 ・パイロットスタディー結果発表・倫理審査書類の作成　など	講義・演習 担当教員によるゼミ	・担当教員の指示に従う。	
	・2 回目以降の開講日は担当教員が指示する。 ・ゼミの内容は担当教員により異なる。			

リハビリテーション学科

【科目名】	研究演習Ⅰ			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0755-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・4 年次に卒業論文を履修するものが受講対象となるが、それ以外の者でも将来就職してからの職場での研究発表を行いたい者も履修対象となる。
※選択科目ですが全員履修登録してください。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・事前に自分の理学療法における興味ある分野を明確にしておくこと。
・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。・

【講義概要】

(目的)

２年後期の「理学療法研究法」と４年における「卒業研究」との間で期間を開けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へとつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に着け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に着ける。

(方法)

ゼミ形式をとり、論文を輪読や、お互いに情報交換する。また卒業論文のテーマを探してゆく。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法の研究法について原則を理解する。
・研究的思考能力を獲得する。

【行動目標(SBO)】

・自立して理学療法研究の計画を立案できる。
・倫理審査書類を作成できる。
・当該科目と学位授与方針等との関連性;　P-4

【教科書・リザーブドブック】

なし

【参考書】

各ゼミで配布する。

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・レポートおよび発表状況により評価する。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				40	30			30	100
評価指標	取り込む力・知識			20	10				30
	思考・推論・創造の力			20	10				30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション ・研究倫理について	講義・浅海	・自分のテーマを決めておく。	20 分
2 ～ 15	(ゼミ内容の例) ・研究の流れについての説明・文献収集と抄読会 ・研究計画書作成・パイロットスタディーの実施 ・パイロットスタディー結果発表・倫理審査書類の作成　など	講義・演習 担当教員によるゼミ	・担当教員の指示に従う。	
	・2 回目以降の開講日は担当教員が指示する。 ・ゼミの内容は担当教員により異なる。			

リハビリテーション学科

【科目名】	卒業研究			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0760-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	3	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・研究演習Ｉを履修しておくこと

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうこと
・論文は卒業論文発表会より一週間以内に提出すること
・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

卒業論文を仕上げることにより、(1)自分なりのオリジナルなものの見かた・考えかた、(2)それをきちんとことばに組み立てて、しっかり他人に伝えることを涵養する。
※当該科目と学位授与方針等との関連性; P-4

(方法)

研究の方法、その利点や欠点、特徴、それによって得られる結果を理解する。研究計画を立て、方法を具体化し、実際に実験を行い、その整理をする。これらは指導教員との綿密な打ち合わせの上、実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・問題の設定、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、執筆していくことが要求される。

【行動目標(SBO)】

・上述の目標を達成することが求められる。

【教科書・リザーブドブック】

・なし

【参考書】

・各ゼミで資料配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・成績はレポート(論文)、成果発表(発表会)、取り組む姿勢による。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	40			10	100
評価指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション；卒業論文の作成までの流れを説明する。	講義・浅海	・研究テーマを各自考えておく。 ・担当教員へ相談しに行く。	30分
2-14	ゼミ活動	ゼミ担当教員		
15-16	中間発表会	演習・浅海 ゼミ担当教員		
17-28	ゼミ活動	ゼミ担当教員		
29-30	卒業研究発表会	演習・浅海 ゼミ担当教員	・プレゼンの練習、想定質問への答えを用意しておく。また抄録原稿は事前に提出しておくこと。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	卒業研究			【担当教員】	浅海　岩生
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0760-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	3	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・研究演習Ｉを履修しておくこと

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・ゼミ出席は「学修研修手帳」に記録し担当教員の捺印をもらうこと
・論文は卒業論文発表会より一週間以内に提出すること
・レポートは他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

卒業論文を仕上げることにより、(1)自分なりのオリジナルなものの見かた・考えかた、(2)それをきちんとことばに組み立てて、しっかり他人に伝えることを涵養する。
※当該科目と学位授与方針等との関連性; P-4

(方法)

研究の方法、その利点や欠点、特徴、それによって得られる結果を理解する。研究計画を立て、方法を具体化し、実際に実験を行い、その整理をする。これらは指導教員との綿密な打ち合わせの上、実施する。

【一般教育目標(GIO)】

・問題の設定、資料の収集、論理の展開の仕方、自分なりの考えをもち、それを裏付ける方法などについて、執筆していくことが要求される。

【行動目標(SBO)】

・上述の目標を達成することが求められる。

【教科書・リザーブドブック】

・なし

【参考書】

・各ゼミで資料配布

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従う。
・成績はレポート(論文)、成果発表(発表会)、取り組む姿勢による。
・出席点は評価に含みません。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	40			10	100
評価指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ				20				20
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション；卒業論文の作成までの流れを説明する。	講義・浅海	・研究テーマを各自考えておく。 ・担当教員へ相談しに行く。	30分
2-14	ゼミ活動	ゼミ担当教員		
15-16	中間発表会	演習・浅海 ゼミ担当教員		
17-28	ゼミ活動	ゼミ担当教員		
29-30	卒業研究発表会	演習・浅海 ゼミ担当教員	・プレゼンの練習、想定質問への答えを用意しておく。また抄録原稿は事前に提出しておくこと。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	総合演習Ⅰ			【担当教員】	粟生田　博子
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0765-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	10 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・前期は主に臨床評価実習に向けた課題解決を実践します。
・後期（臨床評価実習後）は、国家試験を意識、基礎知識の向上を図ります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・定期的に実施するホームルームに参加すること。
・詳細はオリエンテーションの際に説明します。
・５～10コマ目のグループワークは小テストの前に、各グループで実施しておくこと。
・業者による模擬試験は必修です。(業者模試の料金は授業料とは別に徴収します。)
・試験結果は他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

１，２，３年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強してゆく目安とする。また学生全体に不十分な科目を発見し３，４年における補習や補強のための情報を得る。また４年進級にたる力を備えているかについて判定する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； P-3

(方法)

・ホームルームにて、実習に向けた知識の復習・確認を行う。
・臨床評価実習後は、基礎分野（解剖・運動・生理学）の小テストと総合試験を実施する。
・業者模試を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・臨床評価実習に必要な知識を再学習する。
・4年次の国家試験・臨床総合実習に必要とされる基礎知識を向上させる。

【行動目標(SBO)】

・基本的医学的事項・理学療法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

１．国試の達人PT・OTシリーズ2019　運動解剖生理学編，理学療法科学学会編，2,500円，2019年6月発行予定
２．国試の達人PT・OTシリーズ2019　臨床医学編，理学療法科学学会編，2,500円，2019年6月発行予定
３．国試の達人PT・OTシリーズ2019　理学療法編，理学療法科学学会編，4,500円，2019年6月発行予定

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従って評定します。
・出席点は含みません。
・「試験」は最後に実施する学内模試のことを言います。
・「小テスト」は、５～10コマ目のグループワーク後に実施します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	40	60						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション：総合演習Ⅰの進め方	講義：松林	配布資料の確認	
2-4	・PBL(Problem Based Learning)を用いた学習会と小テスト ・臨床実習を想定した実践練習 ・臨床からのメッセージ	演習：粟生田	・指定された内容の事前学習 ・臨床評価実習に向けた実技練習	60分
5	骨・関節・靭帯の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
6	筋の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
7	上・下肢の運動学	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
8	神経・感覚と受容器の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
9	呼吸・循環の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
10	姿勢・歩行の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	総合演習Ⅰ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	3-20-0765-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	10 コマ	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

・前期は主に臨床評価実習に向けた課題解決を実践します。
・後期（臨床評価実習後）は、国家試験を意識、基礎知識の向上を図ります。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・定期的に実施するホームルームに参加すること。
・詳細はオリエンテーションの際に説明します。
・５～10コマ目のグループワークは小テストの前に、各グループで実施しておくこと。
・業者による模擬試験は必修です。(業者模試の料金は授業料とは別に徴収します。)
・試験結果は他に支障のない限り返却します。

【講義概要】

(目的)

１，２，３年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強してゆく目安とする。また学生全体に不十分な科目を発見し３，４年における補習や補強のための情報を得る。また４年進級にたる力を備えているかについて判定する。
・当該科目と学位授与方針等との関連性； P-3

(方法)

・ホームルームにて、実習に向けた知識の復習・確認を行う。
・臨床評価実習後は、基礎分野（解剖・運動・生理学）の小テストと総合試験を実施する。
・業者模試を行う。

【一般教育目標(GIO)】

・臨床評価実習に必要な知識を再学習する。
・4年次の国家試験・臨床総合実習に必要とされる基礎知識を向上させる。

【行動目標(SBO)】

・基本的医学的事項・理学療法について説明できる。

【教科書・リザーブドブック】

１．国試の達人PT・OTシリーズ2019　運動解剖生理学編，理学療法科学学会編，2,500円，2019年6月発行予定
２．国試の達人PT・OTシリーズ2019　臨床医学編，理学療法科学学会編，2,500円，2019年6月発行予定
３．国試の達人PT・OTシリーズ2019　理学療法編，理学療法科学学会編，4,500円，2019年6月発行予定

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績評価基準は本学学則規定のＧＰＡ制度に従って評定します。
・出席点は含みません。
・「試験」は最後に実施する学内模試のことを言います。
・「小テスト」は、５～10コマ目のグループワーク後に実施します。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40	60						100
評価指標	取り込む力・知識	40	60						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	・オリエンテーション：総合演習Ⅰの進め方	講義：松林	配布資料の確認	
2-4	・PBL(Problem Based Learning)を用いた学習会と小テスト ・臨床実習を想定した実践練習 ・臨床からのメッセージ	演習：粟生田	・指定された内容の事前学習 ・臨床評価実習に向けた実技練習	60分
5	骨・関節・靭帯の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
6	筋の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
7	上・下肢の運動学	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
8	神経・感覚と受容器の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
9	呼吸・循環の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分
10	姿勢・歩行の基礎	グループワーク・小テスト	・指定図書を参考にノートにまとめ、グループワークを実施すること。	120分

リハビリテーション学科

【科目名】	総合演習Ⅱ			【担当教員】
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

国家試験対策プログラムを実施するため、指定された日時・学内模試および業者模試にはやむを得ない事情を除き、出席することを原則とする。（プログラムの詳細はオリエンテーションで冊子を配布する）
◇4月～10月（実習期間中）：毎週木曜日15時からに学習状況確認、毎週金曜日9時30分から確認テストを実施する。
◇11月～2月：毎週、過去問題の模試・業者模試を実施する。
※プログラムに準じた学習を遂行していくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・科目に関する質問等は、毎週木曜日の15時からの時間帯のみとする。
・学内模試および業者模試は必ず受験すること。（業者模試の費用は授業料と別に徴収する）

【講義概要】

(目的)

・1、2、3、4年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強していく目安とする。学生全体に不十分な科目を発見し4年における補修や補強のための情報を得る。また、卒業に値する十分な力が備わっているかを判定する。

(方法)

・4月～10月：月～水は自己学習を中心とし、木曜日にグループワークを実施し自己学習の確認をする。金曜日は各分野の確認問題を実施する。
・11月以降：国家試験の過去問題を中心に実践的なトレーニングを実施する。
・方針やスケジュールはオリエンテーションで説明する。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士国家試験に必要な知識を再学習する。

【行動目標(SBO)】

・理学療法士として必要な知識をつけ臨床に応用できる。

【教科書・リザーブドブック】

・TRY カコモン 理学療法士専門問題2017/TRY カコモン 理学療法士・作業療法士共通問題2017（アイペック） 2017年発行
・国試の達人PT・OTシリーズ2019（運動解剖生理編、理学療法編、臨床医学編）2018年発行

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績判定基準は本学学則規程のGPA制度に従って評定する。
・科目試験は12月と1月の2回実施する。合格基準は、2回の試験の合計のうち実地問題144点以上、一般問題192点以上とし、この条件を満たさない場合は0点とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション （国家試験の傾向と対策方法について）	講義（松林）	スケジュールを確認し、国家試験対策に対して計画を立てること	30
2-29	学内での学習 ・自己学習、グループワーク、模試	自己学習、グループワーク	与えられた課題に対するノート作成。	240
30	国家試験説明 ・国家試験受験の手続きについて等	講義	必要な手続きについて準備・確認をすること	30
	※科目試験は12月・1月に実施する。			

リハビリテーション学科

【科目名】	総合演習Ⅱ			【担当教員】	松林　義人
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】		(メールアドレス)	
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	matsubayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	30	(オフィスアワー) 火：12時50分～13時20分	

【注意事項】

(受講者に関わる情報・履修条件)

国家試験対策プログラムを実施するため、指定された日時・学内模試および業者模試にはやむを得ない事情を除き、出席することを原則とする。（プログラムの詳細はオリエンテーションで冊子を配布する）
◇4月～10月（実習期間中）：毎週木曜日15時からに学習状況確認、毎週金曜日9時30分から確認テストを実施する。
◇11月～2月：毎週、過去問題の模試・業者模試を実施する。
※プログラムに準じた学習を遂行していくこと。

(受講のルールに関わる情報・予備知識)

・科目に関する質問等は、毎週木曜日の15時からの時間帯のみとする。
・学内模試および業者模試は必ず受験すること。（業者模試の費用は授業料と別に徴収する）

【講義概要】

(目的)

・1、2、3、4年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強していく目安とする。学生全体に不十分な科目を発見し4年における補修や補強のための情報を得る。また、卒業に値する十分な力が備わっているかを判定する。

(方法)

・4月～10月：月～水は自己学習を中心とし、木曜日にグループワークを実施し自己学習の確認をする。金曜日は各分野の確認問題を実施する。
・11月以降：国家試験の過去問題を中心に実践的なトレーニングを実施する。
・方針やスケジュールはオリエンテーションで説明する。

【一般教育目標(GIO)】

・理学療法士国家試験に必要な知識を再学習する。

【行動目標(SBO)】

・理学療法士として必要な知識をつけ臨床に応用できる。

【教科書・リザーブドブック】

・TRY カコモン 理学療法士専門問題2017/TRY カコモン 理学療法士・作業療法士共通問題2017（アイペック）　2017年発行
・国試の達人PT・OTシリーズ2019（運動解剖生理編、理学療法編、臨床医学編）2018年発行

【参考書】

【評価に関わる情報】

(評価の基準・方法)

・成績判定基準は本学学則規程のGPA制度に従って評定する。
・科目試験は12月と1月の2回実施する。合格基準は、2回の試験の合計のうち実地問題144点以上、一般問題192点以上とし、この条件を満たさない場合は0点とする。

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】

回数	講義内容	授業の運営方法(講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション （国家試験の傾向と対策方法について）	講義（松林）	スケジュールを確認し、国家試験対策に対して計画を立てること	30
2-29	学内での学習 ・自己学習、グループワーク、模試	自己学習、グループワーク	与えられた課題に対するノート作成。	240
30	国家試験説明 ・国家試験受験の手続きについて等	講義	必要な手続きについて準備・確認をすること	30
	※科目試験は12月・1月に実施する。			